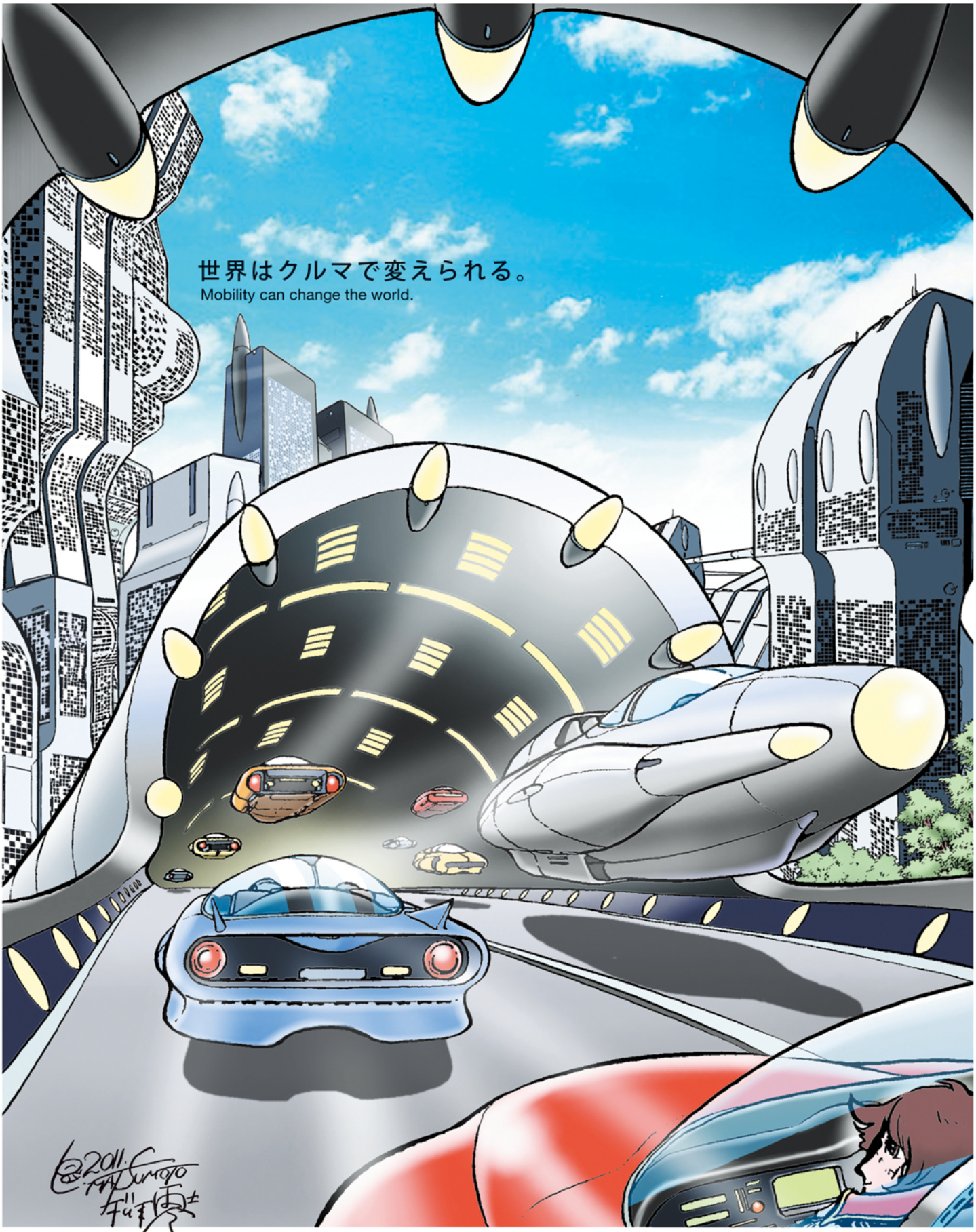
TOKYO MOTOR SHOW 2011
NEWS 11.30

［東京モーターショーニュース2011］

WEDNESDAY VOL.01



©Leiji Matsumoto

Volkswagen Motor Show 2011



The Beetle The 21st Century Beetle. フォルクスワーゲンブースにて展示中。

German Engineering @the Pulse of Time
技術と情熱が、時をとらえる。

21世紀のビートルが、今ここに。



thebeetle.jp

Volkswagen. Das Auto.



BMW i.
BORN ELECTRIC.

初めて日本に出現。西1ホールにて展示中。

Here in Japan for the first time. See it on display at West Hall 1.





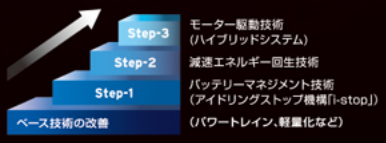
環境の先にある、走る歓びを。

翼をもったクルマへ

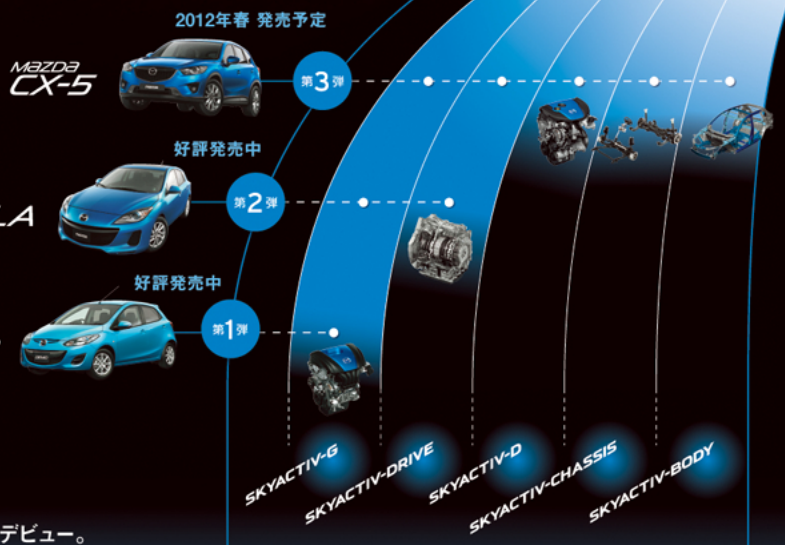
SKYACTIV TECHNOLOGY

TO THE FUTURE

これから10年先も、世界を走るクルマのほとんどがエンジンを載せている。
マツダはそう予測して、SKYACTIV TECHNOLOGYという技術革新に挑戦しました。
まずはエンジンからボディまで、クルマのすべての基本性能を革新し、
さらに電気デバイス技術を組み合わせていくことで、走る歓びを高めながら、
優れた環境・安全性能を実現していきます。



モーター駆動技術
(ハイブリッドシステム)
減速エネルギー回生技術
バッテリーマネジメント技術
(アイドリングストップ機構「i-stop」)
(パワートレイン、軽量化など)



SKYACTIV TECHNOLOGY搭載モデル、続々デビュー。

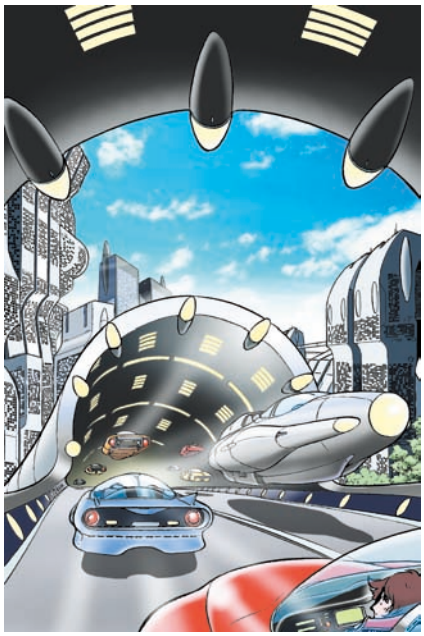
好評の新世代デミオ、新世代アクセラ。そして、量産モデルとして初めてSKYACTIV TECHNOLOGYをフルに搭載し、新デザインテーマ「魂動(こどう) — Soul of Motion」を初採用したマツダ CX-5(2012年春 発売予定)。クルマを愛する人へ、新世代のマツダ車が、これからも続々と登場します。

PHOTO:第42回東京モーターショー2011出品車「マツダ CX-5」、コンセプトカー「マツダ 雄(TAKERI)」

後席もシートベルト、チャイルドシートも忘れずに。
発進・加速はゆるやかに。エコドライブを心がけよう。

カタログのご請求、商品についてのお問い合わせ、
ご相談はマツダ(株)コールセンター
0120-386-919まで
受付時間:平日 9:00~17:00
土・日・祝日 9:00~12:00 13:00~17:00

www.mazda.co.jp



□**Cover**
地下トンネルを高速で走り抜けるクルマたち。車線という概念はなくなり上下左右に行き交うが、レーダーが一定の距離を取って安全を確保する

発行	**一般社団法人 日本自動車工業会**
制作	**株式会社レゾナンス**
編集	**株式会社ボストン**
表紙イラスト	**松本零士**
プロデューサー	**近藤正純ロバート**（株式会社レゾナンス）
エディトリアルディレクター	**堀江史朗**（株式会社ボストン）
プランナー	**多田裕彦**（株式会社ボストン）

□**特別編集**

ディレクター	**若林葉子**（株式会社レゾナンス）
執筆	**石井昌道**（P26・P32・P40・P54・P55・P57） **伊丹孝裕、岡崎五朗**（P18・P20・P24・P30） **河口まなぶ**（P28）、**川端由美**（P46・P53） **島下泰久**（P34・P36）、**嶋田智之**（P52） **世良耕太**（P44・P56）、**近田茂**（P38・P39） **西村直人**（P42）、**まるも亜希子**（P48・P50）、 **若林葉子**（P58・P60）
写真	**菅原康太、長谷川徹**
デザイン	**佐藤秀紀**　（以上50音順）

□**編集**

編集	**依田 新、室井 凡、安島利樹** （以上株式会社アイコニック） **高橋 満、渡瀬基樹、ぴえいる籠島** **古賀貴司、小見順治**（有限会社ジュネコ）
ライター	**石井 隆、今井優杏、太田輝**
写真	**芳賀元昌、河野敦樹、山本佳吾、阿部昌也** **奥村純一、真鍋孝太郎、篠原光一、尾形和美**
デザイン	**ファントムグラフィックス**
進行	**湯浅央子**

アートディレクター	**加藤浩之、片山正彦** （ファントムグラフィックス）
アカウンティングディレクター	**世良田勝彦、菅生雄一郎、飛弾野博、今野眞紀** **西脇 正、二木潔和、赤塚悌晃、武藤睦美** **出村浩之、野崎優彦**（以上株式会社交友社）
翻訳	**関根真理、アビリオン株式会社**
監修	**石川真禧照**
協力	**臨海副都心まちづくり協議会**
印刷	**凸版印刷株式会社**

TOKYO MOTOR SHOW 2011
NEWS 11.30

CONTENTS

07 JAMA会長インタビュー
「世界一のテクノロジー・モーターショーを目指して」
一般社団法人 日本自動車工業会会長　志賀 俊之

08 第42回東京モーターショー 2011
コンセプト＆イントロダクション
「世界はクルマで変えられる」を体験しよう

10 注目の展示車
・国産乗用車　・輸入乗用車　・国産商用車　・国産二輪車

18 注目の出展社紹介
18 日産自動車　20 トヨタ自動車　22 ホンダ　24 スバル
26 三菱自動車　28 マツダ　30 スズキ　32 フォルクスワーゲン
34 アウディ　36 メルセデス・ベンツ　38 いすゞ、日野自動車
39 三菱ふそう、UDトラックス　40 日立オートモティブシステムズ
42 旭硝子　44 ブリヂストン　46 ダンロップ　48 NTTドコモ
50 LIXIL　52 ルノー　53 BMW　54 DENSO　55 アイシン精機
56 日本グッドイヤー　57 ボッシュ　58 三菱電機　59 NTN
60 首都高速　61 YAMAHA

67 スタンプラリー、謎解きスパイゲーム

68 CURTAIN RISES
第42回 東京モーターショー2011開幕!!

69 VOICE
女性著名人4名からコメントをいただきました
高島ちさ子さん、森下千里さん、国井律子さん、道端カレンさん

70 TOPICS & NEWS
12月3日（土）にはさまざまなイベントが
オープニングパレード、自動車メーカートップによるトークセッション、
「耳カー」が集めたみんなの声

71 COVER ART
松本零士、22世紀のクルマのある風景

72 SCHEDULE
プレスブリーフィング・スケジュール

73 PRESS CENTER
みなさまの取材に『プレスサービス』をご活用ください

74 臨海副都心エリアお得ＭＡＰ

76 東京ビッグサイト 会場案内図

78 西展示棟出展ブース 一覧

80 東展示棟出展ブース 一覧

82 第42回東京モーターショー 2011 協賛会社



一般社団法人 日本自動車工業会会長
志賀 俊之

●Profile
1953年・和歌山県生まれ。1976年に日産自動車に入社。アジア大洋州営業部ジャカルタ事務所長・企画室長、アライアンス推進室長を歴任。現在同社代表取締役最高執行責任者

Interview with the Chairman

世界一のテクノロジー・モーターショーを目指して

24年ぶりに会場を東京に移して開催する新生・東京モーターショーの目的は、一人でも多くの人にクルマやバイクのファンになっていただくことだと考えております。そのためには単に商品を展示するだけではなく、これからの自動車やモビリティのありかた、あるいはモビリティと社会とのつながりを俯瞰しながら新たな自動車社会の姿を提案していく必要があります。日本の産業技術は、安全性や環境対策、ITというさまざまな分野においても世界トップクラスであり、その確かな技術力に支えられた「モノ作りの逞しさ」を国内外に発信していくことで、ファン作りという大きな目的を果たしていくことができると思っています。

日本は本年3月11日に発生した東日本大震災により、言葉では表現できないほどの、たいへん大きな損害を被りました。基幹産業である自動車産業もサプライチェーンの寸断により生産が大きく落ち込みましたが、日本の自動車産業全体が総力を挙げてこの震災からの復旧復興に向けて取り組んできた結果、想定よりもはるかに短い期間で正常な状態に戻すことができました。

今回の東京モーターショーには世界12ヶ国・1地域から合計179の出展者が参加します。国内全ての自動車メーカー14社・15 ブランドはもちろん、海外からは欧州を中心に21社・25ブランドの乗用車、商用車、二輪車メーカーおよびカロッツェリアが参加します。世界初の発表となるワールドプレミアは計53台、日本初であるジャパンプレミアは82台という国際モーターショーに相応しい展示内容になっています。

「世界はクルマで変えられる。」〝Mobility can change the world.〟を今回のショーのテーマといたしました。そのテーマを具体的にお見せするため、新たに主催者テーマ事業として、〝SMART MOBILITY CITY 2011〟を東京モーターショーの会場内で開催いたします。社会全体の関心が地球環境及びエネルギー問題へと高まっていくなか、自動車の先進技術と社会の仕組みとのつながりを通し、これからのモビリティ社会をわかりやすく提示いたします。

アジアでは急速に自動車市場が拡大するなか、北京や上海、ニューデリーなどのモーターショーへの関心も急速に高まっています。こうした中で、私ども日本自動車工業会は、東京モーターショーを「技術立国・日本」のシンボルと位置付け、世界一のテクノロジーモーターショーを目指して、クルマと都市、そして人々の暮らしに結びつく先端技術を発信して参ります。ご期待ください。

世界はクルマで変えられる。 Mobility can change the world.

世界一のテクノロジーモーターショーを目指し、東京モーターショーが変わります。
テーマは「世界はクルマで変えられる。」環境、安全、エネルギー、スマートグリッドやITSなど。
クルマのテクノロジーは今、世界の様々な問題に対する「解決手段」になろうとしています。
そしてそれらは、困難な時期を乗り越える日本の力にもなるべきもの。
さあ、世界最先端のクルマとテクノロジーに触れて、試して、驚いてください。
そして、その先に広がる未来を想像してください。新しい未来への力は、驚き、想像することから生まれます。

「世界はクルマで変えられる。」を体験しよう。

見て触れて話して体感する、新しい東京モーターショー。

最先端に、乗ろう。

プロの運転による乗用車同乗試乗会・二輪車試乗会［屋外展示場］

特設コースにおいて、日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ) 会員とインストラクターが運転する各メーカーの最新モデルに同乗し、その性能を体感いただき、クルマの特徴も簡単に解説してもらえる乗用車同乗試乗会と、ご自身で運転いただける二輪車試乗会を実施します。

［プロの運転による乗用車同乗試乗会］
12月2日(金)～6日(火)

■参加メーカー(予定)
スズキ、スバル、トヨタ、日産、ホンダ、三菱、レクサス、アウディ、AMG、シトロエン、ジャガー、BMW、フォルクスワーゲン、プジョー、ポルシェ、MINI、メルセデス・ベンツ、ランドローバー、ルノー、ロータス



［二輪車試乗会］
12月8日 (木)～11日 (日)

■参加メーカー(予定)
カワサキ、スズキ、ホンダ、ヤマハ、KTM



なるほど！の連続。

自動車ジャーナリストと巡る東京モーターショー

日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)会員がガイドとなり、専門家の視点からクルマの魅力をご案内する事前登録制の有料ツアー。

［ガイド予定者］日下部 保雄、石川 真禧照、菰田 潔、石川 芳雄、岡崎 五朗、河口 まなぶ、竹岡 圭、伏木 悦郎、松下 宏、会田 肇、千葉 匠、岡本 幸一郎、加瀬 幸長、片岡 英明、加藤 順正、川上 完、川端 由美、工藤 貴宏、近藤 暁史、斎藤 聡、斉藤 慎輔、弾丸ジロー、鈴木 直也、高根 英幸、高山 正寛、滝口 博雄、津々見 友彦、中村 孝仁、西村 直人、橋本 玲、藤島 知子、堀越 保、松任谷 正隆、まるも 亜希子、丸山 誠、桃田 健史、森岡 和則、諸星 陽一、山崎 元裕、山城 利公、吉田 由美、ピーター ライオン（敬称略）

あなたの声が、クルマと世界を変える？

耳カー

TOKYO FM × J-WAVEのコラボ企画。街中でクルマに対する【みんなの声】を集めて、東京モーターショーへと届けます。耳カーの出没情報はWebサイトでチェックを。耳を大きくして、皆さんの声をお待ちしております。





Hello, I'm "耳car"
www.mimicar.jp

見逃せない！が、めじろ押し！

ステージイベント［アトリウム］

西展示棟アトリウム内の特設ステージでは、フジテレビによるイベントステージやTOKYO FMによる公開放送や、ファッションとクルマの融合イベントなど、様々なエンターテイメントライブをお楽しみいただけます。また、12月3日は、「日本カー・オブ・ザ・イヤー」の投開票と表彰式が、12月4日には、就職サイト「リクナビ」による、「リクナビ編集長が語る！就活トークイベント」も行われます。

クルマについて、知るべきことがある。

東京モーターショーシンポジウム2011［会議棟6階］

クルマを取り巻くテーマで、ご来場の皆様にも参加しやすいイベントです。

日時	テーマ・実施者	場所
12月3日(土) 14:00～16:00	自動車旅行で日本を元気にする人 **「カーたびスト」になりませんか？** カーたび機構(自動車旅行推進機構)	607 会議室
12月6日(火) 13:30～17:30 事前登録者優先	**第12回自動車安全シンポジウム** ヒトとクルマの共存をめざして ～先進技術を活用した安全対策～ 国土交通省自動車局技術政策課	607・608 会議室
12月7日(水) 13:00～17:00 事前登録者優先	**フューチャー・トランスポート** ～環境に優しい未来の 大型車技術とロジスティクス～ 独立行政法人交通安全環境研究所	607・608 会議室
12月8日(木) 13:00～17:00 事前登録者優先	**クルマの「新たな価値創造に向けて」** ～東日本大震災の経験を 無駄にしないために～ 財団法人日本自動車研究所	607・608 会議室
12月10日(土) 14:00～15:30	**移動の自由を未来へ** ～被災地でわかった！ 福祉車両は復興のシンボル～ 一般社団法人日本自動車工業会	607 会議室

※上記は予告なく変更になる場合があります。

□詳しくはオフィシャルWebサイトをご参照ください。 **http://www.tokyo-motorshow.com** □モバイルサイト **http://m.tokyo-motorshow.com**

※掲載情報は予告なく変更する場合がございます。使用している写真は過去のものやイメージであり実際のものとは異なります。
イベント及びシンポジウム等は変更・中止する場合があり、これを理由にした入場券の払い戻し等は一切行いません。

SMART MOBILITY CITY 2011

最先端のテクノロジーが実現する「人」と「クルマ」と「都市」の未来

クルマは、世界のあり方をどう変えていけるのだろう？
カーテクノロジーの進化から、「人の暮らし方」や「都市のあり方」を想像し、提示し、体験してもらう。東京モーターショー2011のシンボルイベントです。



主催：SMART MOBILITY CITY 2011実行委員会／一般社団法人日本自動車工業会
共催：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構／スマートコミュニティ・アライアンス

エキシビション［西4ホール］

「次世代自動車」って何？「スマートコミュニティ」は？「ITS」って何をしてくれるもの？世界の「つぎ」をつくろうとしているクルマと、その最新技術と、それらがもたらす未来を、展示や映像でご覧いただけます。また、各分野の企業・団体が最先端の技術や製品のプレゼンテーションを行います。

テストライド［屋上展示場］

国内外の次世代自動車の同乗試乗や次世代二輪車の試乗、自動運転のデモンストレーションを体験いただけます。

■参加メーカー
スズキ、スバル、トヨタ、日産、ホンダ、三菱、GM、メルセデス・ベンツ、ヤマハ、プロスタッフ

■協力団体
金沢大学、慶應義塾大学、東京農工大学、日本自動車研究所、ecomo

■実施期間
【自動運転デモンストレーション】
12月2日(金) ～ 6日(火)
【次世代自動車同乗試乗会・次世代二輪車試乗会】12月7日(水) ～11日(日)

カンファレンス［会議棟］

□ 国際シンポジウム

（会場：会議棟6階）
《聴講無料・事前登録制》

12月5日(月) 10:30 ～17:50
「次世代テレマティクスとモビリティ社会」
(企画・協力：特定非営利活動法人 ITS Japan)

12月9日(金) 10:30 ～17:10
「スマートコミュニティと次世代クルマ社会」
(企画・協力：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

□ アドバンス・テクノロジー・セミナー

（会場：会議棟6階）

SMART MOBILITY CITY 2011 出展者による、技術・システムのプレゼンテーション

■実施企業・団体
SMART MOBILITY CITY 2011実行委員会、経済産業省資源エネルギー庁、東レ、LPガス自動車普及促進協議会、エフエム東京

□ キッズ・ワークショップ

《参加無料・事前登録制》

子どもたちを対象とした、SMART MOBILITY CITY 2011 見学会とハイブリッドカー工作教室。親子いっしょに、未来のモビリティを体験できます。

関連企画

トミカコーナー
［西3ホール］



恒例となっている、(株) タカラトミー協賛によるミニカーの展示・販売。毎回大人気の東京モーターショー開催記念モデルの「トミカ」を販売します。

フジテレビプロデュース「ワールド フード カップ」
［屋外展示場］

西ホール・屋外展示場の特設試乗コース手前に朝の情報番組「めざましテレビ」(フジテレビ) がサポートするフードコートが誕生！ 世界を8つの地域に分け、それぞれの地域の一押しグルメをケータリングカーで販売します。

ユナイテッドアローズ社プロデュース
「東京モーターショー ファッションショップ」

クルマとファッションで日本を元気にすることをテーマに、国産自動車メーカーとコラボしたチャリティTシャツを会場内で限定販売し、収益金額を東日本大震災支援のため寄付します。また、廃材を利用したリサイクルグッズや、車内のプライベートスペース＆タイムを快適にするグッズなど、オリジナル＆セレクト商品を販売します。

「東京ビッグサイト」で開催！ ご来場は、公共交通機関のご利用をお願い致します。

会場へのアクセス（所要時間はおおよその目安です）

りんかい線「国際展示場」駅下車　徒歩約7分

大崎駅(JR) ←13分→ **国際展示場駅** ←5分→ **新木場駅**(JR、東京メトロ)

※大崎から新宿・大宮方面へ、JR埼京線相互直通運転。渋谷(約20分)、新宿(約25分)、池袋(約31分)、大宮(約56分)、川越(約78分) と大変便利です。

ゆりかもめ「国際展示場正門」駅下車　徒歩約3分

新橋駅(JR、東京メトロ、都営地下鉄) ←22分→ **国際展示場正門駅**
豊洲駅(東京メトロ) ←8分→ **国際展示場正門駅**

無料シャトルバス（東京ビッグサイト・東展示棟）

東京駅(丸の内北口) 約35分
運行　12/3～11の会期中に約5～10分間隔で運行。
往路　東京駅発9:00～　　**復路**　東京ビッグサイト発11:00～閉場後30分まで

路線バス（東京ビッグサイト・中央ターミナル）

都営バス　門前仲町駅(海01系) から約30分、浜松町駅(虹01系) から約40分
東京駅八重洲口(東16系) から約40分

空港バス　羽田空港(リムジンバス、京急バス) から約25分
成田空港(リムジンバス) から約60分(東京ベイ有明ワシントンホテル発着、東京シティエアターミナル(リムジンバス) から約20分

急行バス　横浜駅東口(京急バス) から約50分

水上バス（有明客船ターミナル　徒歩約2分）

日の出桟橋(JR浜松町駅から徒歩約7分) から約25分
※運航状況はHP等でご確認ください。

入場券のご案内 ※詳しくはオフィシャルWebサイトをご参照ください。

	当日券	アフタヌーン券	ナイター券
一般	1,500円	1,300円	500円
高校生	500円	400円	200円
中学生以下	無料		

アフタヌーン券：月～土曜日15時以降の当日会場のみの販売
ナイター券：月～土曜日18時以降の当日会場のみの販売

●入場券はコンビニエンスストア、公共交通機関、主要旅行代理店、各種プレイガイドにて発売中。

●東京モーターショーオフィシャルWebサイトで、国内外のどこからでも入場券を直接購入することができる「e-tix オンラインチケットシステム」をご利用いただけます。また、携帯電話が入場券代わりになるモバイルチケットも発売中。

ご購入は http://www.tokyo-motorshow.com/ で！

e-tix.jp

いつも締めます、後席シートベルトに、チャイルドシート。
JAF 日本自動車工業会

お問い合わせ
東京モーターショー 東京ビッグサイト事務局
☎03-5530-1315
受付時間は開催時間

JAMA 主催：一般社団法人 日本自動車工業会(モーターショー室)
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

注目の展示車

第42回目を迎える東京モーターショーは、「世界はクルマで変えられる。」を実感できる最新テクノロジーの祭典だ。ここでは、その一部をご紹介しよう。

国産乗用車

JAPANESE PASSENGER CARS

人間にも、地球にも、すべての命あるものに優しい。そして、想像を遙かに超えたアトラクティブで新しいワールド。日本が世界に誇る最新技術が、未来を現在に変える。

SUZUKI スズキ



REGINA
レジーナ

軽量化と空力性能を追求し、JC08モード燃費で32km/ℓという優れた数値を達成した次世代グローバル・コンパクトカー。車重は730kgに抑えられ、ブレーキエネルギー回生システムや、アイドルストップ機構を備えた直噴ターボガソリンエンジンを搭載する。

SWIFT EV HYBRID
スイフト EV ハイブリッド

スイフトをベースとしたEVで、フル充電した状態で約30kmの走行が可能。また、排気量0.66ℓの発電用エンジンを搭載し、バッテリーの残量が低下した場合はエンジンを始動させ、発電と同時に充電をしながら走行を続けられる。中・長距離の移動もできるEV。





Q-CONCEPT
キューコンセプト

二輪車の機動力の高さと、四輪車の利便性を兼ね備えた新たなカテゴリーに属する超小型モビリティ。全長2.5m、全幅1.3mというミニマルなボディに、2名分のシートを前後に配置する。パーソナルユースだけでなく小口配送などの商業用途にも対応可能。

SUBARU スバル



ADVANCED TOURER CONCEPT
アドバンスド ツアラー コンセプト

新世代となるダウンサイジングされた1.6ℓ水平対向直噴ターボエンジンと、効率に優れるCVTを搭載したミドルクラスのステーションワゴン。スバル独自の左右対称レイアウトとなる4WD機構には、シングルモーターのハイブリッドシステムが組み合わされる。



BRZ
BRZ

2.0ℓの水平対向4気筒エンジンを搭載するスポーツカー。軽量でコンパクトなパワーユニットを車体の低い位置にマウントし、後輪を駆動することで優れたハンドリング性能を実現。エンジンには、トヨタの直噴技術が用いられ環境性能にも配慮されている。

DAIHATSU ダイハツ



D-X
D-X

オンリーワンの存在感を放つべく、独創的でアグレッシブなエクステリアデザインと、スパルタンなインテリアデザインを採用した、新しいスポーツカーの世界観を具現化したモデル。新設計となる2気筒ターボエンジンを搭載し、楽しい走りを実現している。

PICO ピコ

人にも環境にも優しい2シーターレイアウトを採用した新発想のEVコミューター。大きな乗降口や、低くフラットなフロア形状などにより乗り降りがしやすく、狭い場所でも取り回しがしやすいパッケージングとしたことで、小型車の魅力をより一層高めている。





FC 商 CASE
FC 商 ケース

液体燃料電池を搭載した次世代ビークル。コンパクトな貴金属フリーの液体燃料電池システムを床下に搭載し、軽自動車枠に収まるボディサイズながら様々な用途に使用可能なパッケージングを採用。エネルギー密度の高い液体燃料により航続距離を延長している。

TOYOTA トヨタ





AQUA アクア

1.5ℓエンジンと高出力モーターを組み合わせた最新の小型軽量ハイブリッドシステムを搭載したコンパクトカー。取り回しの良いコンパクトボディながら、広大な居住空間と荷室を備える。2011年12月下旬に発売が開始される予定で、順次世界各国でもリリース予定。

FT-EV Ⅲ FT-EVⅢ

化石燃料に代わるエネルギーのひとつとして期待されている、電気エネルギーを用いるEVのコンセプトカー。近距離移動に適した自動車として2012年の市場導入を目指し開発が進行中で、リチウムイオン電池を搭載したFT-EVⅢは、満充電で105㎞の走行を想定する。



FUN-Vii FUN-Vii

Fun-Vii の名前の由来は、Fun Vehicle interactive internet。人とクルマと社会が〝つながる〟という、目指すべき将来の姿を具現化したコンセプトカー。スマートフォンや次世代ITSとリンクし、それをボディに画像を映し出す新技術などが提案される。



FCV-R FCV-R

排出ガスや二酸化炭素を出さない燃料電池自動車の開発、及び導入を推進しているトヨタが、2015年を目処に市場投入も視野に入れて提案する燃料電池車のコンセプトモデル。進化した燃料電池スタックを採用し、JC08モード走行で700㎞以上の航続距離を誇る。

NISSAN ニッサン



PIVO3 ピボ3

未来都市と融合するEVコンセプト。オートマチック・バレー・パーキングが設置されている場所では、ドライバーがクルマを乗り捨てると、あとはクルマが自動で駐車し充電を行なう。大舵角の4輪操舵により内外輪差はゼロで、道路幅が4mあればUターンが可能。

NV350 CARAVAN NV350 キャラバン

積載性や機能性を向上させた新世代本格商用バン。4ナンバーの小型商用車ではクラストップとなる3mを超える室内長を実現し優れた積載能力を誇るほか、荷室側面パネルには多くのユーティリティナットを配し用途に応じ収納棚や工具などが設置可能となっている。



HONDA ホンダ



AC-X AC-X

刺激に富んだ走りを楽しみたいときには1.6ℓエンジンを使用するモードでドライビングプレジャーを堪能し、くつろいでクルージングしたい場合には、自動運転モードを選択することで、操作系が格納されゆったりと移動することができる。プラグインハイブリッドシステムを搭載し、EVモードで50㎞の走行が可能となっている。

MICRO COMMUTER CONCEPT マイクロ コミューター コンセプト

全長2.5m、全幅1.25mという極小サイズのモビリティ。ジャケットを羽織るかのように気軽に使える都市部を移動するための乗り物で、スマートフォンと連携してクルマが様々な情報を提供してくれる。リチウムイオンバッテリーを搭載し、約60㎞の走行が可能。



国産乗用車 JAPANESE PASSENGER CARS

MAZDA
マツダ



CX-5 CX-5
生命感にあふれ、心ときめかせる動きを視覚化する新デザインテーマと、クルマのすべての技術をゼロから見直し、理想に向かって常識の壁を突き抜けた"SKYACTIV TECHNOLOGY"の新技術をフルに導入した初めての量産モデル、マツダ CX-5。市販は来春予定。



TAKERI タケリ
マツダの新デザインテーマである「魂動(こどう)」に基づきデザインされた新世代ミドルクラスセダン。高効率で高性能な新世代クリーンディーゼルエンジンであるSKYACTIV-Dを搭載し、力強い走行性能と優れた快適性、そして高い環境性能を実現する。

MITSUBISHI
ミツビシ



MIRAGE ミラージュ
新興国におけるエントリーカーと、先進国におけるエコカーというニーズに対応するために、小型/低価格/低燃費をコンセプトに開発された新時代コンパクトカー。1ℓの3気筒エンジンを搭載し徹底的な軽量化などにより30km/ℓという燃費性能を目指している。



CONCEPT PX-MiEV Ⅱ
コンセプト PX-MiEV Ⅱ

i-MiEVで培った電気自動車技術に、最新の環境エンジン技術を融合させた、電気自動車派生型のプラグインハイブリッドシステムを搭載したSUV。2ℓの4気筒エンジンと2つのモーターにより4輪を駆動し、複合燃料消費率は60km/ℓ、航続距離は800km以上を実現。

LEXUS
レクサス



GS450h GS450h
新型GSは2012年初頭から販売予定の新型GSシリーズ。中でもこのGS450hは、燃料噴射圧を高圧縮化した次世代D-4Sとアトキンソンサイクルを採用した新開発3.5ℓ V6エンジン「2GR-FXE」を搭載。FRハイブリッド技術との世界初となる組み合わせを実現する。



GS350 F SPORT GS350 F スポーツ
新型GSのスポーティバージョンGS350 F SPORT。これは「LFA」を頂点とする「F」の走りのテイストを継承し、内外装とも専用装備を採用。次期GSの走行性能を最大限に発揮する、本格的なスポーツモデルとしてラインアップする。

輸入乗用車

IMPORTED PASSENGER CARS

スモールカーからスーパーカーまでが世界中から集結。そのいずれもが優れた環境性能を身につけ、そのうえで個性と独自性を求め進化を遂げている。グローバルな今をご覧あれ。

ALPINA

アルピナ

B6 Bi TURBO COUPE

B6 ビターボ クーペ



BMW6シリーズクーペをベースに、特別に手を加えたオールアルミ製4.4ℓのV型8気筒ツインターボエンジンと、8速スポーツATを組み合わせて搭載。2020kgの車体をゼロ発進から4.8秒で100km/hまで加速させ、その最高速度は311km/hにまで及ぶ快速ツアラー。



B3 GT3

B3 GT3

アルピナからもう1台のワールドプレミアは、ALPINA B6 GT3によるADAC GT MASTERSチャンピオンシップ獲得を記念した特別モデル。世界限定わずか99台の生産となる。

AMG

エーエムジー



C63 AMG COUPE BLACK SERIES

C63 AMG クーペ ブラックシリーズ

AMG社のスローガンである「ドライビングパフォーマンス」を具現化した少数限定生産のフラッグシップモデルとなるピュアスポーツクーペ。6.2ℓのV型8気筒エンジンは最高出力517ps、最大トルク63.2kg-mを発生させ、0-100km/h加速は4.2秒を記録する。



SLS AMG ROADSTER

SLS AMG ロードスター

クーペモデルに続きオープンボディとなるロードスターが登場。アルミスペースフレーム構造のボディは、オープン化に伴い要所に補強を追加しているものの、ボディ単体では2kgの重量増に抑えられている。ドアはガルウイング式から通常のものへと改められている。

AUDI

アウディ





A1 SPORTBACK

A1 スポーツバック

A1に新たに5ドアボディのスポーツバックが追加される。ベースモデルより後席の居住性が高められているのが特徴で、基本的には4シーターレイアウトを採用。ドイツ本国では、オプションで5人乗りも用意し、ガソリンエンジンは3タイプを搭載する見通し。

A6 HYBRID

A6 ハイブリッド

A6に211psを発揮する2ℓ直噴ターボエンジンと、54psを発生させる電気モーターを組み合わせて搭載。システム合計では245psの最高出力を得ている。電力のみで100km/hの速度で走行ができ、動力をエンジンのみかモーターのみに任意に設定することも可能。

BMW

ビーエムダブリュー



ACTIVE HYBRID 5

アクティブ ハイブリッド 5

5シリーズセダンにハイブリッドシステムを搭載し、燃料消費率が約20%向上。搭載されるエンジンは、535iセダンと共通の3ℓ直列6気筒ターボで、55psを発生させるモーターを組み合わせ、8速ATを介してパワーを伝達する。モーターのみで60km/hの走行が可能。

i8

i8

プラグインハイブリッド機構を組み込んだスポーツカーで、0-100km/h加速が5秒以内というパフォーマンスの高さと、33km/ℓを超える燃費性能を両立。フロントアクスルにモーターを、リアアクスルには3気筒エンジンを搭載し、前後重量配分は50:50を実現。



輸入乗用車 IMPORTED PASSENGER CARS

CITROËN
シトロエン



DS5
DS5

DS3、DS4に次ぐ3番目のDSラインとして登場したDS5。グランツーリスモとステーションワゴンの美しさを融合させたようなエクステリアデザインと、トグルスイッチを配した航空機のコクピットに似た内装は、DSラインのフラッグシップらしい上質さを備える。

JAGUAR
ジャガー



XKR-S
XKR-S

ジャガー史上最強のスペックを誇るエンジンを搭載したリアルスポーツマシン。5ℓのV型8気筒スーパーチャージャーエンジンは550psを発揮し、0-100km/h加速4.4秒、最高速度300km/hという卓越したパフォーマンスを実現。シャシーも高度にチューニングされる。

LAND ROVER RANGE ROVER
ランドローバー / レンジローバー

RANGE ROVER EVOQUE COUPE
レンジローバー イヴォーク クーペ



イヴォークと同時に登場した、3ドアボディを採用したイヴォーク・クーペは、コンパクトなプレミアムクロスオーバー。オンロードにおける極めて滑らかな乗り心地と、スポーティなハンドリング性を身につけながらも、秀逸なオフロード性能にも妥協はなされていない。



RANGE ROVER EVOQUE
レンジローバー イヴォーク

レンジローバー史上もっともコンパクトなボディを備えたアーバンヴィークル。アルミニウムやマグネシウム、チタニウムといった素材を多用し、軽量化を図ることで燃費を大幅に向上させている。室内には厳選されたレザーやウッドを使用し上質な空間を創造する。

LOTUS
ロータス



EVORA S IPS
エヴォーラ S IPS

エヴォーラSに設定されたIPS仕様は、350psを発揮する3.5ℓのV型6気筒スーパーチャージャーエンジンを搭載し、それにパドルシフトによるマニュアル操作が可能な6速ATを組み合わせる。もっとも強力なエンジンにATを組み合わせることで、幅広いニーズに応える。

ELISE CLUBRACER SPS
エリーゼ
クラブレーサー SPS

1.6ℓと1.8ℓの4気筒エンジンに6速MTを組み合わせるエリーゼのラインナップに、新たに1.6ℓエンジン＋6速ロボタイズドトランスミッション仕様が登場。ダイナミック・パフォーマンス・マネジメントにスポーツモードが追加され、走りを気軽に楽しめる設定としている。



MERCEDES-BENZ
メルセデス・ベンツ



B CLASS
B クラス

新世代プラットフォームに、新設計の1.6ℓ直噴ターボエンジンと7速DCTを搭載する新型Bクラス。従来モデルで使用されていた、2重構造のフロアパネルとは決別し、一般的なフロアを採用。レーダーを使用したプリクラッシュセーフティ機構など、安全装備も満載される。

F 125!
F 125!

水素燃料電池を用いた電気モーターパワートレインは、独自の新技術により高圧タンクを不要とし、それによりパッケージングの自由度が大幅に増している。結果的に、広大な車室空間の確保と大胆なフォルムのエクステリアデザインを実現。新意匠のグリルも斬新。



MINI
ミニ



PACEMAN CONCEPT
ペースマンコンセプト

MINIクロスオーバーをベースとした2ドアクーペ。MINIの個性はそのままに、フラットなルーフとクロスオーバーらしい走破性、そしてプレミアム性を融合させた。1.6ℓ直4ターボは、最高出力211ps/最大トルク26.5kg-m(オーバーブースト時28.6kg-m)を発揮する。

COUPE
クーペ

ミニをベースとした2シーターのクーペが登場。全長、全幅、ホイールベースはハッチバックモデルと同一ながら、グッと低められた全高により独特のアピアランスを表現。見た目に違わぬ俊敏なハンドリング性能も備え、全3グレードをラインナップする。



PEUGEOT
プジョー



3008HYBRID4
3008ハイブリッド4

3008をベースにハイブリッド化された3008 HYBRID 4は、2ℓのディーゼルエンジンにモーターを組み合わせ燃費性能を改善すると共に、システム最高出力200psを発揮しドライビングプレジャーも高めた。駆動トルクは4輪に伝達され、スタビリティも向上している。

PORSCHE
ポルシェ



PANAMERA GTS
パナメーラGTS

優れたパフォーマンスを有するモデルにのみ与えられるGTSの名を冠したこのパナメーラは、もっともスポーティなポルシェのグランツーリスモ。430psを発揮するV型8気筒エンジン、7速DCT、4WDシステム、エア/アクティブサスペンションなどを備える。

911 CARRERA
911 カレラ

911カレラがモデルチェンジを受け、大幅な環境性能と動力性能の向上を果たした。エンジンは、従来型の3.6ℓから3.4ℓへとダウンサイズされた水平対向6気筒で、最高出力は5ps増の350psをマーク。0-100km/h加速は4.6秒。400psを誇るカレラSも設定される。



SMART
スマート



FORTWO ELECTRIC DRIVE
フォーツー エレクトリック ドライブ

スマート・フォーツーのEVは、すでに日本国内での走行テストを始めており、市販化が予定されているモデル。米国のテスラ社が開発したリチウムイオンバッテリーを採用し、モーターは41psを発生させる。航続距離は135kmで、最高速度は100km/hを記録している。

RENAULT
ルノー



KANGOO IMAGE
カングー イマージュ

カングー・ビポップと同デザインのバンパーを装着した参考出品車。明るい色調のツートーンカラーを採用した特別な内装が組み合わされ、個性溢れるカングーを、より一層スタイリッシュにデコレートした内容となっている。2012年に発売される予定。

CAPTUR
キャプチャー

ルノーの新しいデザイン戦略を具現化したコンセプトカー。「2人で世界を旅する」をテーマにしたスポーティクロスオーバー車で、流れるようなラインと、力強くたくましいイメージを重ね合わせた独特のフォルムに、今後のルノー車デザインが見て取れる。



VOLKSWAGEN
フォルクスワーゲン



PASSAT ALLTRACK
パサートオールトラック

パサートヴァリアントをベースにしたクロスロード仕様。4WDシステムや車高調整式エアサスペンション、アンダーガード付きの専用バンパー、オールラウンドタイヤを履くなど、クロスロードモデルにふさわしい装備が奢られる。欧州での発売は2012年の春頃を予定。

THE BEETLE
ザ ビートル

ニュービートルからモデルチェンジした新型は、全高を下げ車幅を拡大したことで、ワイド&ローを強く意識させるフォルムとなった。ルーフからCピラーへ続くリア周りのラインは、空冷ビートルとほぼ同じ曲線を描く。エンジンは本国仕様のディーゼル2種を含む5種類を用意。



国産商用車

JAPANESE COMMERCIAL VEHICLES

ヒト、モノ、私たちの暮らしを支えるトラックや路線バスなどの商用車。
乗用車同様、先進のハイブリッド技術や電気自動車が台頭しつつある。

ISUZU イスズ



ERGA HYBRID エルガハイブリッド

環境性能と走行性能を両立させたハイブリッド路線バス。ディーゼルエンジンと電気モーター、リチウムイオンバッテリーによるハイブリッドユニットを搭載。高効率のディーゼルエンジンと、自動変速式MTにより、効率的な走行とイージードライブを可能とした。



D-MAX ディーマックス

タイで生産され、世界約100ヵ国で愛される1t積クラスのワールドワイド・ピックアップ・トラック。しなやかさを兼ね備えたスタイリングと、空力特性の向上を両立した新デザインを採用する。乗車空間には乗り降りのしやすいもの、標準仕様など3タイプを用意。

HINO ヒノ



DUTRO PLUGIN HYBRID デュトロ プラグインハイブリッド

デュトロ・ハイブリッドをベースに、外部の電源から充電ができるように改良したプラグインハイブリッド。ブレーキ回生による充電だけでなく、外部から直接バッテリーに充電することでモーターの稼働率を上げられ、燃費向上を実現。電力を供給する機能も備える。



EV VAN CONCEPT EVバン コンセプト

商用EVのコンセプトモデルで、静かで排出ガスが出ないため、店舗内や倉庫内での使用にも向いている。コンパクトなモーターをフロントに搭載し前輪を駆動するため、低床で広大な荷室スペースの実現に成功。都市部における短距離輸送に最適なワンボックスバン。

MITSUBISHI FUSO ミツビシ フソウ



CANTER E-CELL キャンター E-CELL

欧州向けの小型トラック「キャンター3S13」をベースに、リチウムイオンバッテリー(40kWh)とモーター(出力70kW、最大トルク300Nm)を組み合わせた小型電気トラック。10時間(200V)の充電で約120㎞の航続走行を可能とする。車両総重量は3.5t。

CANTER ECO HYBRID キャンター エコ ハイブリッド

2006年に発売された現行モデルのモデルチェンジ版で、2012年春に発売を予定。商用車としては世界初となるモーター内蔵式のDCTを搭載し、新型の高性能リチウムイオン電池とディーゼルエンジンを組み合わせ、世界最高レベルの燃費を目指す。



UD TRUCKS ユーディートラックス



QUON WING クオン ウイング

尿素SCRシステム「フレンズ」を採用した低公害の最新大型トラック。総排気量11ℓ、最高出力380psのGH11エンジンを搭載する。省燃費運転をサポートするため2ペダル式の機械式電子制御トランスミッションの装備や、低いエンジン回転数での走行も可能。

国産
二輪車

JAPANESE MOTORCYCLES

バッテリーやモーターの高性能化と小型化に伴い
バイクのEV化が加速する兆しが見え始めた。最新バイクの魅力をご堪能あれ。

HONDA ホンダ

E-CANOPY
E キャノピー

三輪スクーターにEVシステムを搭載した、静かで快適な乗り心地の次世代コミューター。市街地でのパーソナルユースに留まらず、リアトランクをビルトインすることで、デリバリーなどのビジネスユースにも対応。スタイリッシュなキャノピーを備え快適性にも優れる。





MOTOR COMPO
モーター コンポ

バッテリーやモーターを、独自の技術で効率良くレイアウトすることで、コンパクトなサイズにおさめたEVコミューター。保管時は立てた状態でスペースをとらず、クルマに積んで持ち運ぶこともできる。取り外し式のバッテリーは、携帯用電源としても利用可能。

RC-E
RC-E

車体中央の上下にバッテリーを搭載し、モーターにより走行するスーパースポーツEV。モーターはスイングアームピボットと同軸上に配され、重量物を車体中心部に集中させることで運動性能を高めている。カラーリングはRCをモチーフとしている。



YAMAHA ヤマハ



EC-Miu
EC ミウ

都市生活におけるエレクトリックコミューターの可能性を追求した、原付1種クラスのコンセプトモデル。誰もが扱いやすいように前1輪、後2輪のマルチホイールレイアウトを採用。取り扱いのしやすさにも留意し、車体を可能な限りコンパクトなサイズに留めている。

XTW 250 RYOKU
XTW 250 陵駆

二輪車ならではの機動性に一層の磨きをかけたSUV二輪。「いつでもどこでも自由自在」をキーワードに、低重心な大型キャリア、スリムで重心を下げた大容量のガソリンタンク、頑強なガード類、ファットタイヤなどを採用し、高い走破性と利便性を誇る。





Y125 MOEGI
Y125 もえぎ

グローバルスタンダードとされる125ccエンジンを、軽量でスリムな車体に搭載することで高い燃費性能と優しい乗り心地を追求。ヤマハのデザインフィロソフィーが息づいた、レトロ感とモダンさが共存するデザインにより、自転車のような親しみやすさを表現。

PAS WITH
パス ウィズ

自転車をより便利に、様々なシーンで活用できるように開発されたコンセプトモデルで、フロントハブインモーターを採用し、ペダリングを電力でアシストする。車体は折りたたみが可能で、クルマや公共の交通機関と併用することで、より自由な移動を可能にしている。



KAWASAKI カワサキ



VERSYS1000
ヴェルシス1000

650ccミドルスポーツとして、欧米でも人気の高いヴェルシスの最上位モデル。高出力の1043cc並列4気筒エンジン、衝撃吸収性に優れたロングストロークサスペンション、スポーティな17インチロードタイヤを組み合わせた特異なパッケージを特徴とする。

NINJA ZX-14R
ニンジャ ZX-14R

スポーツモデルNinjaシリーズの最上級モデル。排気量を1441ccに拡大した新設計の水冷4ストローク並列4気筒DOHCを採用。トラクションコントロール機構「KTRC」など、最新技術を搭載して、優れたスポーツ性能と日常での扱いやすさを両立した。



SUZUKI スズキ



E-LET'S
Eレッツ

エンジンスクーターであるレッツ4バスケットをベースに、エンジンの代わりにホイールインモーターを搭載した電動スクーター。1回の充電で約30kmの走行ができ、バッテリーは取り外して屋内で充電可能。スペアバッテリーをシート下に収納することもできる。

GW250
GW250

中国の重慶モーターサイクルショーにも出品された250ccの本格ロードバイク。同社大型2輪モデル「B-KIBG」をモチーフとした、モダンかつ高級あるデザインを特徴とする。高出力・高耐久でありながら低振動と高い静粛性を誇る水冷4サイクル直列2気筒を搭載。



NISSAN ➔ キーワードは「クルマのワクワクを、次の100年へ」

EVのある生活が、社会と暮らしを変える

News 1 EVのある豊かな近未来とは

日産は、電気自動車を世界中に普及させ、ゼロ・エミッション社会を創出することを同社の使命であると宣言し、その先頭を走ってきた。

今回の東京モーターショーでは、日産リーフから家庭に電力供給ができる「LEAF to HOME」や、急速充電器などのインフラ整備への取り組み、そして日産としては8番目のEVコンセプトとなるPIVO3などを通じて、近未来社会におけるモビリティのあるべき姿が具体的に示されている。EVがもたらす豊かな未来を日産のブースで実感したい。

News 2 「LEAF TO HOME」日産リーフから家庭に電力供給



走行段階でCO2やその他の排出ガスをまったく出さない「ゼロ・エミッション」を強力に推し進める日産。その中心となるのが、2010年12月に世界初の量産EV（電気自動車）として発売された「日産リーフ」だ。

興味深いのは、日産のゼロ・エミッションへの取り組みがEVだけにはとどまらないこと。社会全体をゼロ・エミッションに向かわせるために、日産は様々な周辺技術を開発している。そのなかでも大きなウェイトを占めるのが「LEAF TO HOME」だ。

「日産リーフ」が搭載するバッテリーの容量は24kwh。これは一般家庭のおよそ2日分の消費電力に相当する。この大容量バッテリーを分電盤を通して家庭に供給することで、様々なメリットが生まれる。夜間に充電したバッテリーを電力需要の高まる昼間に活用すれば電力消費のピークを緩和できるし、非常時のバックアップ電源としても活用可能。また、風力や太陽光発電を使って「日産リーフ」に充電し、それを家庭用にも活用すれば、より環境に優しい社会を実現できるのである。


電力需要の少ない夜間に充電し、需要の高まる日中に活用すれば、社会全体としても大変、効率的。

News 3 「いつでもどこでも充電できる」インフラを整備。全国の日産のお店で普通充電可能、急速充電器も倍増！

安心してEVに乗れる環境を整えるため、日産は充電インフラの整備にも積極的に取り組んでいる。全国約2,200店舗の日産のお店に既に普通充電を設置済み。このうち約200店舗に急速充電器を設置済みだが、これを2012年春を目安に倍増する予定。また、日産含めた全国の急速充電器は現在約650基（2011年10月時点）だが、これを大幅に増やすべく、独自に急速充電器を開発。今年11月に発売した新型急速充電器は、より小さなスペースに設置できるよう、容積を従来品のおよそ半分へとスリム化。さらに注目したいのは、価格も従来の半額以下となる50万円台からとしていることだ。

今までネックとなっていた設置場所と価格の問題がクリアされたことで、今後は自治体だけでなく、民間有料駐車場やスーパー、コンビニ、企業などで急速充電器の設置が進むだろう。日産はこの新型急速充電器を、2015年度末までに5,000台販売する予定だ。



News 4 都会派スマートEV「PIVO3」夢のようなクルマ?!



2005年の東京モーターショーに展示され、ユニークなデザインや360度回転するキャビンが大きな話題を呼んだPIVO。その進化型であるPIVO2も、2007年の東京モーターショーで大いに注目された。

今回登場したPIVO3のコンセプトは「日産の考える近未来のカーライフを具現化した都会派スマートEV」。全長3m弱というコンパクトなボディに3人分のシートを設置し、さらに大舵角を実現する4輪インホイールモーターと狭いリアトレッドにより「前輪が通れば絶対に擦らない内外輪差ゼロ」と、「4m道路でのUターン」といった驚異の取り回し性能を実現した。将来のスマートシティ駐車場に対応した「オートメーテッドバレーパーキング（AVP）」も注目の機能。ドライバーが下りると自動的に駐車スペースまで移動して充電開始。スマートフォンで呼び出せば自動で出庫するという夢のようなシステムだ。



News 5 EVコンセプトカーやワールドプレミア…絶対に見逃せない、期待のクルマが続々！



NV350キャラバン〈ワールドプレミア〉（参考出品車）

積載性や機能性にも優れた新世代の本格商用バン。堂々としたデザイン、クラストップレベルを目指した燃費性能にも注目。2012年夏、国内で発売予定。



TOWNPOD（タウンポッド）

スタイリッシュクーペとルーミーなバンを融合したエクステリア。若い起業家をイメージして、乗用車の快適性と商用車の実用性を両立させたコンセプトEV。



ESFLOW（エスフロー）

後輪駆動の2シーターでのピュアEVスポーツカー。環境に配慮したEVでも、存分にドライビングを楽しめることを証明する1台。

日産自動車のモーターショーホームページにアクセス！

日産自動車のモーターショーホームページでは、会場の様子をはじめ、様々な情報を、開催期間中、毎日発信しています。様々なニュース、インタビュー、映像が加わって、毎日成長していくホームページにアクセスしてみよう。

● http://tms2011.nissan.co.jp/
「日産モーターショー」で検索！

ツイッターで会場の様子やイベント情報も発信しています。

● http://twitter.com/#!/NISSAN
（@NISSANをフォロー）

東2ホールの日産ブースへ是非、行ってみよう。



TOYOTA ➡ キーワードは「FUN TO DRIVE, AGAIN」

もう一度ドライブしよう！ そんなワクワク感がいっぱい

News 1 「どこでもドア」で未来への扉を開けよう そこにあるのは…

今回のトヨタは、"FUN TO DRIVE, AGAIN."の考え方のもと、「もう一度、クルマの持つ夢・楽しさを創造したい」という想いをブースに込めている。

グリーンを基調とし、最近のトヨタのCMでお馴染みのドラえもんの世界観を採用した個性的なブースデザインは非常に興味深い。展示はおおよそ未来へと続く時系列になっているため、それに沿って見ていくのがオススメだ。



ダイハツブースから入ると「86」のプロトタイプモデルといった、走る楽しみをアピールするクルマがワクワク感を味わわせてくれる。未来への扉を暗示するドラえもんの「どこでもドア」から先には、現行ハイブリッド車に加えて、圧倒的な低燃費と使いやすさ、楽しさを提供する話題のコンパクトハイブリッド専用モデル「AQUA」を展示。「プリウスPHV」や都市型電気自動車の「FT-EVⅢ」、燃料電池自動車の「FCV-R」にも注目だ。

小道をさらに奥へと歩いていくと、小さな丘と1本の木が見えてくる。小学校の裏山で街を見下ろし、のび太がドラえもんに様々なことを相談するシーンをイメージしたもの。そして、その奥には、ヒトとクルマと社会が“つながる”将来の姿を具現化したコンセプトカー「TOYOTA Fun-Vii」が展示されている。

「86」登場！ 「TOYOTA Fun-Vii」や「プリウスPHV」も！

プリウスの発展系とも言うべき存在が、発売間近の「プリウスPHV」だ。外部からの充電が可能な高容量リチウムイオンバッテリーを搭載し、家庭用電源からの充電が可能。近距離は電気自動車として、中・長距離はハイブリッド車として走行できるため、バッテリー残存量や充電インフラを気にせず利用できる。

トヨタブースのみならず今回のショーで注目されているのが、小型FRスポーツの「86」だ。狙いはスピードの追求ではなく、ドライバーが主役になって操ることの楽しさを提供すること。果たしてどんな走りをみせてくれるのか…2012年春の発売に向けたプロトタイプモデルが世界初登場する。

「TOYOTA Fun-Vii」は、最先端のネットワーク技術によって「ヒトとクルマと社会」を“つなげる”コンセプトカー。未来のクルマ像を垣間見せてくれるモデルとして要注目だ。









News 2

上左：プリウスPHV
上右：外装をディスプレイとして使えるTOYOTA Fun-Vii
下：86プロトタイプモデル

News 3 レクサスブースでは、フルモデルチェンジの次期「GS」が必見！





2005年に日本でブランドを立ち上げたレクサス。当初はGS、IS、SCの3モデルのみだったが、その後フラッグシップのLSやRX、HS、CTを追加し、充実したラインアップを展開している。

今回の見どころは、国内レクサスとしては初のフルモデルチェンジとなる次期GSだ。力強い躍動感をもつエクステリアデザインは、次期GSがもつ優れた走行性能を予感させる。ダイナミックな映像と迫力あるBGM、鮮やかなエフェクト照明が交錯するなか、次世代レクサスの象徴となるスピンドルグリルが浮かび上がる次期GSの演出は必見である。

次期GSの「スピンドルグリル」は、コンパクトハイブリッド「CT200h」のスピンドル形状のグリルをより明確に表現したもので、これからの新しいレクサスのアイデンティティを予感させる。エクステリアデザインだけでなく、細部まで丁寧に仕上げた先進的で上質なインテリアにも注目したい。

日本発のプレミアムブランドレクサスが次世代モデルとして次期GSで目指したのは「感性に響く走り」。開発陣が一体となって魂を込めたその走りの実力を試すまでにはもう少しの時間が必要だが、ステージ上でまばゆいばかりに輝く次期GSの勇姿を眺めながら、思いを馳せてみるのも楽しいはずだ。

自動運転で障害物を回避？！見て乗って体感しよう



News 4

トヨタは西棟４Ｆで開催されているスマートモビリティシティにも専用ブースを設置している。

見どころは「トヨタスマートモビリティパーク」だ。これは、太陽光や風力による発電と蓄電、そして、プリウスPHVやWinglet、電動スクーター、電動アシスト自転車といった多彩なモビリティへの充電、エネルギー管理ができる近未来型モビリティパークである。

他にも、家とクルマのエネルギーを上手に管理してくれる「H2V Manager」やトヨタホームのスマートハウス「アスイエ」を紹介する家とクルマのエネルギーマネジメントゾーン、インフラ協調や自動運転技術で実現する「安全・安心・快適な移動」を紹介する次世代ITSゾーン、そして、これら近未来の世界をバーチャル体験できるコーナーなど盛りだくさんだ。

４Ｆの屋外展示場では、プリウスをベースに開発した自動運転車両「TOYOTA　A.V.O.S.」のデモを体験することもできる。試乗は後席のみとなるが、駐車場からの呼び出しに応じてスタートし、障害物を回避しながら走る様子は圧巻！ ぜひとも体験してみることをおススメしたい。なお、実施日時が限定されているので、主催者の案内をよく確認してほしい。

News 5 会場を出たら、その足でMEGA WEBへ

MEGA WEB



東京モーターショー開催期間中、メガウェブでは、86やプリウスPHVの試乗をはじめ、オフロードやヒストリックカーの同乗試乗が体験できる。また、各種デコカーや60周年を迎えた歴代のランドクルーザーの特別展示、そして親子で楽しめる工作教室や本格的なカート体験などもあり、盛りだくさんの内容で迎えてくれる。

GAZOO METAPOLIS



未来のカーライフをWeb上で疑似体験できるバーチャル都市ガズーメタポリスに東京モーターショーブースが登場。自宅のパソコンやスマートフォンアプリから楽しめる。さらにバーチャルイベントも開催予定。
http://metapolis.toyota.co.jp/

HONDA ➲ キーワードは「にんげんの気持ちいいって、なんだろう。」

「にんげん」を中心とした、Hondaならではの多彩なラインアップ。

News 1 ブーステーマは「にんげんの気持ちいいって、なんだろう」



今回Hondaは、出展各社の中で単独ブランドとしては最大面積のブースに、コンセプトモデルを含む二輪車、四輪車および汎用製品などを合同で展示し、Hondaならではのドキドキ、ワクワクする未来のモビリティライフを提案する。

ブースコンセプトは、『にんげんの気持ちいいって、なんだろう。』

「技術で人の生活を幸せにしたい」「人の役に立つものをつくりたい」という創業時からの夢を原動力に、人を中心としたモビリティの研究に取り組み、ものづくりにチャレンジするHondaの想いを表現したブースだ。

News 2 Hondaならではの、ＥＶの提案がいろいろ

ブース中央のメインステージでは、四輪車はもちろん、二輪車や電動カートも含めた未来のEVコンセプトモデルが登場する。

四輪車ではEVコミューターの「MICRO COMMUTER CONCEPT」やプラグインハイブリッド車「AC-X」。二輪車ではコンパクトなＥＶコミューター「MOTOR COMPO」や、Honda独自の三輪スクーターにＥＶシステムを搭載した「E-CANOPY」、電動カート「モンパル」のコンセプトモデル「TOWNWALKER」など、運転する楽しさと、環境性能を備えたEVモデルなど多彩なラインアップが取りそろえられている。

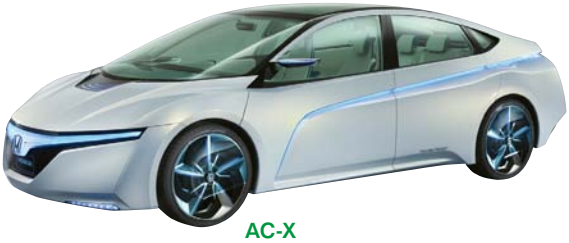
そして、四輪車では次世代EVスポーツモデルの「EV-STER」、二輪車ではEVスーパースポーツ「RC-E」と、Hondaならではのスポーツモデルも登場。

また、モビリティーだけではなく、クリーンにエネルギーを創るためのHondaの取り組みについて、東京ビッグサイト西展示棟４階の「Smart Mobility City」でもブースを出展し、紹介している。

MICRO COMMUTER CONCEPT

人にとってより身近な存在となるマイクロサイズ未来都市型電動コミューター。人とモビリティーの新しいコミュニケーションの楽しさや、手軽なカスタマイズを楽しめるエクステリアなどを提案。二輪研究所と四輪研究所とのコラボレーションにより、二輪コミューター「MOTOR COMPO」の搭載を可能にした。





AC-X

市街地走行から長距離移動まで、より快適な移動時間を楽しめる次世代プラグインハイブリッド車。アグレッシブな走りを楽しみたいときはエンジン走行モードを、リラックスしてくつろぎたいときは自動運転モードを選ぶことができ、移動の楽しみが広がる。



TOWNWAKER

シンプルさと軽快さを追求した、誰もが気軽に街中での移動を楽しめるタウンモビリティー。ステアリング部とシート部を折り畳めば、クルマに積んでの移動も簡単に行える。



MOTOR COMPO

二輪車の手軽で便利な機動性に加え、「乗らない時でも使える」ことを目指した、コンパクトなＥＶコミューター。「MICRO COMMUTER CONCEPT」にも搭載可能で、着脱式の走行用バッテリーは、生活の中での電源としても活用できる。

市販車や市販予定車も多数出展

そのほか、四輪車では、空間のゆとりを創造した新たな軽乗用車シリーズ「N CONCEPT」を展示し、その第一弾モデルとなる「N BOX」を発表する。二輪車は、新開発のグローバル700ccエンジンを搭載した「NC700S」「INTEGRA」「NC700X」や日常での扱いやすさとオフロードでの楽しさを両立した「CRF250L」などの市販予定車を含む各種モデルを展示している。

N BOX



INTEGRA



CRF250L



News 3

NC700S



NC700X



News 4

その他の出展物

★はワールドプレミア　☆はジャパンプレミア

N CONCEPT（★）
N BOX（★）
フィットEV（☆）
CR-V（☆）
フリード　ハイブリッド
フリード　スパイク　ハイブリッド
インサイト
E-CANOPY（★）
RC-E（★）
NC700S（☆）
INTEGRA（☆）
NC700X（☆）
CRF250L（☆）
CBR1100RR（☆）ほか

CR-V



SUBARU ➔ キーワードは「Confidence in Motion」

信頼と革新。変わらないのは、「人」が中心であること

News 1 変化する時代の要求に応えつつ、変わらず、「安心で愉しいクルマ」をつくり続ける

1958年に発売した「360」以来、スバルは50年以上にわたって「人を中心に据えた確かなクルマづくり」を続けてきた。ラリーを初めとするモータースポーツに積極的に参加してきたのも、モータースポーツという極限の場で培ったノウハウを市販車に反映し、「安心で愉しいクルマ」をつくるためだ。

スバルは昨年、「Confidence in Motion」という新しいブランドステートメントを発表した。「Confidence」とは、スバルが貫いてきた確かなクルマづくりの姿勢と、安心と愉しさを約束し続けることによるユーザーとの信頼関係を示し、「in Motion」とは変わり続ける時代の要求に応えつつ「Confidence」を進化し続けていくことを表す。

Confidence in Motion

そう、「Confidence in Motion」とは、ユーザーと交わした約束である「安心で愉しいクルマ」をつくり続けるため、常に変革を続けていくというスバルの固い意志宣言なのだ。

実際、スバルは年々高まる安全性能と環境性能に対して真摯に取り組んでいる。危険を予測し、衝突の回避、または被害の軽減を図る“ぶつからない技術”「EyeSight Ver.2」を積極的に採用する他、最新の水平対向4気筒エンジンは燃費の大幅アップに成功した。

こうした数々の革新を重ねているスバルだが、その視線の先にあるのは常に「安心と走る愉しさ」だ。

News 2 革新を重ね、本質を磨き続ける。スバルのコアテクノロジー

スバルの核となる技術が、エンジン、トランスミッション、4WDシステムが縦一列に並ぶ「シンメトリカルAWD」だ。重心が低く、かつ前後左右の重量バランスにも優れるため、クルマの運動性能を高めていく上で非常に有利なレイアウトである。

現在量産しているのはスバルとポルシェだけという、水平対向エンジンも特徴的な技術だ。ピストンが左右に向かってストロークする動きが、ボクシングで互いの選手が交互にパンチを繰り出すのに似ているため「BOXERエンジン」とも呼ばれる。左右のピストンが振動を打ち消し合うためスムースに回り、かつ重心を低くできるのがメリットとなる。

それに組み合わせるのが無段変速機の「リニアトロニック」。BOXERエンジンの性能をフルに引き出すことによって、優れた燃費と高い走行性能を実現した。

「EyeSight Ver.2」は、ドライバーの油断やミスによる事故のリスクを大幅に減らしてくれるスバル独自の先進技術だ。

主な機能は、①プリクラッシュブレーキ、②全車速追従機能付クルーズコントロール、③AT誤発進抑制制御、④車線逸脱警報＆ふらつき警報の4点。フロントウィンドウ上部に組み込んだ2個のカメラが“目”の役割を果たし、数々の情報を画像処理システムが処理することで、クルマ、自転車、歩行者、車線、などを認識。危険を察知するとブレーキをかけたり警告音を鳴らすなどしてくれる“ぶつからない技術”である。



SUBARU BOXER

ピストンを左右水平に配置した水平対向エンジン。スバル独自の“しなやかな走りはBOXERエンジンから生まれているといっても過言ではない(写真上)。

SYMMETRICAL AWD

スバルは4駆がまだ一般的でない頃から、そのポテンシャルに注目。BOXERエンジンとシンメトリーに構成されたAWDレイアウトで可能性を広げてきた。高い直進安定性やシャープなハンドリングを実現する(写真下)。





EyeSight Ver.2

事故をなくすこと。世界中の自動車メーカーが願う究極の目標に近づくべく開発されたのがEyeSight Ver.2。ルームミラー脇のステレオカメラが捉えた前方の状況を高度な画像処理システムによって処理し、危険を未然に防ぐ。



リニアトロニック

リニアトロニックは、量産AWD乗用車用としては世界初となる縦置きチェーン式無段変速機。BOXERエンジンの性能をフルに発揮し、常に最適な回転数を維持することで、気持ちのいい走りと優れた燃費性能を両立する。

News 3 見逃せない3台。コンセプトカーと、新型「IMPREZA」、「BRZ」


ADVANCED TOURER CONCEPT


IMPREZA G4/IMPREZA SPORT



BRZ

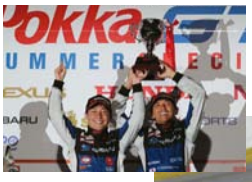
スバルブースで真っ先に見たいのがコンセプトカーの「ADVANCED TOURER CONCEPT」だ。

スポーティーな走り、高い環境性能、揺るぎない安全を、かつてないほどの高い次元で融合した未来のツアラーだ。自信に満ちた存在感を誇るボディには、1.6Lにダウンサイジングしたボクサー直噴ターボ＋ハイブリッドシステムを搭載。加えてスバルのコアテクノロジーであるシンメトリカルAWDやさらに進化したEyeSight Ver.2が、レガシィによって築きあげられてきたグランドツーリング性能をさらに高みに押し上げた。人を中心にした設計コンセプト「ヒューマン・センタード・デザイン」を採り入れたインテリアも必見だ。

新型インプレッサにも注目したい。5ドアハッチバックの「SPORT」は、走りを含めた全体の質感を高め、すべての人が乗って心地良いクルマを目指した。4ドアセダンの「G4」は、知的で高密度な大人のスポーツセダンがコンセプト。それらを実現するため、印象的なデザインや、上質なマテリアルを使ったインテリアなど、各部にスバルらしいこだわりが満載されている。もちろん、新世代BOXERエンジンや進化型SI-シャシーなど、走りの進化にも期待していいだろう。

BOXERの走りを新たな次元へ。というキャッチコピーとともに登場するFRスポーツ「BRZ」も見逃せない1台だ。半世紀近くにわたってスバルが熟成してきたBOXERエンジンがもつ軽量、コンパクト、低重心、振動の少なさといったメリットこそが、究極の愉しさを目指したBRZの運動性能を支えるキーとなったのは間違いない。共同開発車として同時デビューを果たしたトヨタ「86」とじっくり見比べるのも楽しいはずだ。

News 4 「挑戦するスバル」を象徴するスーパーGTとNBR


スーパーGT300に、レガシィB4で参戦。今季第5戦鈴鹿で見事優勝。


NBRではインプレッサWRX STIをベースにしたマシンで参戦。今年、念願のクラス優勝を遂げた。



日本メーカーとしては唯一、WRC（世界ラリー選手権）で3連覇を成し遂げるなど、ラリーでの強さが有名なスバルだが、サーキットレースにも積極的に参戦している。

各メーカーが威信をかけ熱い戦いを繰り広げる国内最高峰のスーパーGT選手権には、2009年からレガシィB4をベースにしたGT300マシンで参戦。2011年の第5戦、鈴鹿サーキットでは見事優勝。2010年に続き鈴鹿での2連勝を飾った。また、第7戦のオートポリスでも優勝するなど、スバルのマシンの戦闘力は着実に向上してきている。

スバルの挑戦は国内レースだけにとどまらない。世界一過酷なサーキットといわれるドイツのニュルブルクリンク（NBR）で開催される世界最大のツーリングカーレース「ニュルブルクリンク24時間レース」には、2008年からインプレッサWRX STIをベースにしたマシンが参戦。2011年目の今シーズンには、多くの強敵を退け、挑戦4年目にしてついに念願のクラス優勝を成し遂げた。

モータースポーツはクルマの基本性能を磨くための挑戦。「Proud of BOXER」を胸に、スバルの挑戦はこれからも続く。

MITSUBISHI MOTORS ➔ キーワードは「For your world, For our earth.」

「For your world, For our earth.」世界が拡がる。歓びが広がる。

News 1 世界戦略車の新コンパクトカー MIRAGE（ミラージュ）

世界の自動車市場は環境性能ニーズの高い成熟市場と、エントリーカー需要の高い新興市場に二分されている。先進国では高コストなハイテクノロジーを採用してもそれに見合う付加価値があれば受け入れられるが、新興国ではそうもいかないというのがメーカーにとっては悩み所だ。

そこで三菱自動車はあらゆる地域のニーズに応えらえるよう「低価格」ながら「低燃費／低CO2」という技術革新にチャレンジ。それも世界中で需要が増えている小型車に的を絞ることで、真の世界戦略車たるコンパクトカー、『ミラージュ』を造り上げたのだ。

エンジンやトランスミッション、ブレーキにタイヤ、ボディの軽量化や空力性能向上などベーシックな技術を徹底的に磨きあげることで燃費は30km／Lの実現を目指す。高コストなハイブリッドカーをのぞけばクラストップということになる。

世界中のニーズに応えた結果、身の丈にあったサイズ・価格ながら、低燃費で環境性能も高いというミラージュの優位性は、時代を象徴する先進的なコンセプトによるものだ。





For your world,
For our earth.

世界が拡がる。歓びが広がる。

News 2 電動車両の新たな役割を紹介する MiEVハウス

三菱自動車ならではのスマートで効率のよいライフスタイル提案がMiEVハウスだ。

家庭内の電力需要と供給の状況を可視化し自動制御するHEMS（Home Energy Management System）、電気自動車の駆動用バッテリーの状態を常時モニタリングし、家庭への充給電に最適に利用する三菱自動車独自のElectric Vehicle Integration System（EIS）を加えた統合システムが、今回の東京モーターショーで展示される。

ワイヤレスで車の電池へと電力を供給する非接触充・給電システムや、住宅のバッテリーとして使用できるEV・再生可能なエネルギーのひとつであるリユースバッテリーなどと合わせ、三菱自動車が研究を続けている、スマートで効率の良い、無駄のないライフスタイルとはどんなものなのか…。未来の暮らしをブースで体感してみたい。



News 3 環境対応SUV MITSUBISHI Concept PX-MiEV Ⅱ



世界に先駆けて2009年に『i-MiEV』を発売した三菱自動車は、電気自動車派生型の「三菱プラグインハイブリッドEVシステム」を採用したSUV『MITSUBISHI Concept PX-MiEV II』を世界初披露する。

シティコミューターとして使われることが多い『i-MiEV』に対して、こちらは長距離移動や大人4人がゆったり乗車できる中型乗用車以上向けのシステム。大容量バッテリーを搭載しており、電力のみで50km以上のEV走行が可能。発電しながらの走行も可能なため、走行距離に制限がなく、行動範囲を大きく広げてくれる。 また『ランサーエボリューションX（テン）』に搭載している車両運動統合制御システム「S-AWC（Super All Wheel Control）」の思想をツインモーター式4WDをベースに開発・搭載。操縦安定性の高さと安全性を追求した。



News 4 あなたのクルマの、「ずっと」のために。ミツビシ愛着力

「気に入ったモノと、長くつきあっていきたい」。そんな時代のニーズに応えるべく、2010年6月から開始している「三菱愛着プロジェクト」。

国内初の「最長10年10万km特別保証延長」、古くなった塗装やシートをピカピカにしたりヘッドライトのバルブ交換による視認性アップなどを行う「リフォームサービス」、お得な価格で様々なサービスが利用できる「愛着クーポン」などを用意している。これは、クルマ自体が丈夫で長持ちなことが必然であるのはもちろんだが「1台のクルマをずっと好きでいる気持ち」を持ち続けてもらうための取り組みだという。日本発のエコロジー意識「MOTTAINAI」を具現化するミツビシ愛着力は、ある意味で原点回帰であり、東京でカムバック開催されるショーに相応しい。また自家用車の長期保有傾向に則した新たな一歩としても注目されるだろう。

Drive@earth

MITSUBISHI MOTORS

MAZDA ➲ キーワードは「新時代を切り開く道筋には、いくつもの選択肢がある」

環境の先にある、走る歓びを。マツダらしい新たなブレークスルー！

News 1 マツダらしさを極めるSKYACTIV TECHNOLOGYと「魂動（こどう）-Soul of Motion」

マツダのテーマは「環境の先にある、走る歓びを。ークルマを愛する人がいる限り、マツダは『走る歓び』と『優れた環境・安全性能』を革新し続ける」。

マツダ代表取締役会長・社長兼CEO山内孝氏は言う。「環境・安全という社会的要求を満たすこととクルマの走行性能はトレードオフの関係ではない。これらを高い次元で両立する解を実現しお客様に届けることがマツダの使命であり存在意義」。これを体現するのが新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYで、今回出展の新世代クロスオーバーSUV「CX-5」に結集している。

また山内氏は言う。「クルマは単なる移動手段ではない。見て、触れて、乗ったとき、瑞々しい感動やときめきが運転者に伝播し奮い立つ勇気になる。それが『走る歓び』の本質」。

新デザインテーマ「魂動（こどう）-Soul of Motion」はこの「走る歓び」を具現化する思想で、マツダ雄（TAKERI）はこの結晶である。


代表取締役会長・社長兼CEO
山内 孝（やまのうち たかし）氏

News 2 マツダの持てるあらゆるものの結晶。「マツダ雄（TAKERI）」をその目で！

「マツダ雄（TAKERI）」は、新世代デザインテーマ「魂動（こどう）-Soul of Motion」と、新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYをフルに取り入れ、見た目も中身も次世代を示唆するコンセプトだ。

マツダ雄（TAKERI）は、魂動を初めて具現化した靱（SHINARI）をベースに、男性的な力強さや端正なバランス感を研ぎ澄ませた、見る者を魅了するデザイン。「誰もが直感できるセダンらしさ」や「エモーショナルで突き抜けた魅力」を高次元でバランスし、品格の高さを漂わせつつ、比類なくスポーティな造形により、ミドルサイズセダンのデザイン革新に挑戦した。

一方、新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYで注目すべきは、新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」。また独自の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP（アイ・イーループ）」を採用。「電気二重層キャパシター」により減速の度に発電される電気エネルギーを瞬時に蓄え、その電気を電装部品やヘッドランプ、エアコンなどに使う。アイドリングストップ時間を延長させる効果もあり、さらなる燃費向上が期待できる。

つまり雄（TAKERI）とは、マツダのデザインと技術の全ての粋を集めて描き出した結晶といえるもの。そしてそれはマツダの新世代セダンの理想形を示唆している。



「マツダ雄(TAKERI)」コンセプト（参考出品車）



▲マツダ独自の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP（アイ・イーループ）」


▶新世代クリーンディーゼルエンジン SKYACTIV-D

News 3 マツダの新時代の始まり——来春市販予定の新世代クロスオーバーSUV「マツダCX-5」



新世代軽量高剛性ボディ
SKYACTIV-BODY



新世代クロスオーバーSUV
「マツダCX-5」（参考出品車）

まさにこのクルマからマツダの新たな時代が始まる…そう表現できるのが来春市販が予定されている新世代クロスオーバーSUV「マツダCX-5」である。

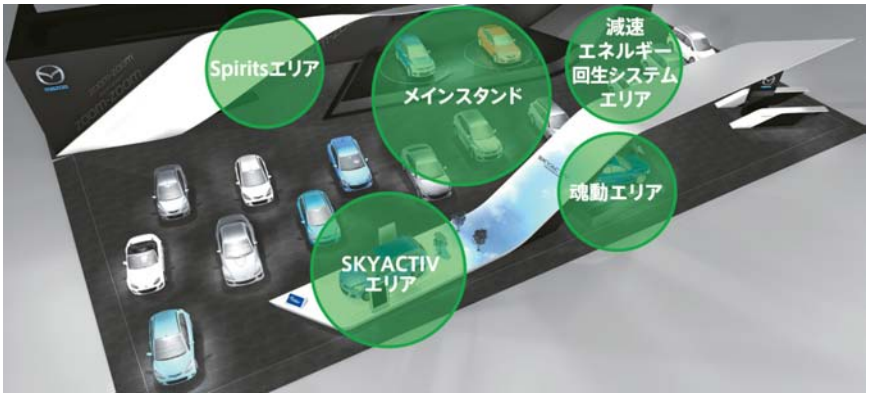
CX-5からマツダの新たな時代が始まる理由は、このクルマがマツダの新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYをフルに採用したモデルだから。このクルマには「走る歓びを革新する」というマツダの決意が込められている。

エンジンは既にお馴染みのSKYACTIV-Gの他、新たに新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」を採用したことがトピック。これは日本市場にも投入される。さらに組み合わせるトランスミッションは新世代高効率6速AT「SKYACTIV-DRIVE」となり低燃費と走りの楽しさを引き出す。

そしてCX-5で初お目見えとなる新世代の軽量高剛性ボディである「SKYACTIV-BODY」では、高剛性と優れた衝突安全性を達成しつつ軽量化を実現した。また新世代高性能軽量シャシー「SKYACTIV-CHASSIS」も初登場で新たな走りの楽しさと快適性を高次元でバランスした姿を披露する。

全ての技術が常識を突き抜けた先にあり、それがマツダらしい「走る歓び」を革新する…その具現化の第一弾こそがCX-5。間もなく市販が予定されている期待の1台だ。

メインスタンドとSMCでSKYACTIV TECHNOLOGYの世界をじっくり体感しよう



▲新デザインを採用したメインスタンド。5つのエリアで、マツダの新世代商品・デザイン・技術をじっくり体感できる。

今回のマツダスタンドは、クルマを引き立たせる黒と白のコントラストにダイナミックな造形を組合せ、マツダブランドの躍動感が体感できる。メインステージには「マツダ雄（TAKERI）」と「マツダCX-5」の2台を展示。スタンド手前のSKYACTIVエリアでは、CX-5をスライド画面でスキャンしながらSKYACTIV TECHNOLOGYの革新性を、その右側の魂動エリアでは新世代デザインテーマ「魂動」の魅力や世界観が表現される。

またメインステージ左奥のSpiritsエリアでは、これまでマツダが立ち向かってきた数々の挑戦の歴史に触れる一方、ステージ右端の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP（アイ・イーループ）」展示コーナーでは、マツダ雄（TAKERI）に搭載される最新技術のしくみを体感できる。

更に、SKYACTIV TECHNOLOGYの世界を、大迫力の3D映像で楽しく体感できる西ホール「SMART MOBILITY CITY 2011」（SMC）のマツダブースにも足を運びたい。

News 4

SUZUKI ➔ キーワードは「小さなクルマ、大きな未来」

小さくても、いえ小さいからこそ未来は大きい

News 1 「小さなクルマづくり」スズキのノウハウに世界から熱い視線が集まる

1955年のスズライト以来、一貫して小さなクルマづくりの実績を積み重ねてきたスズキ。エコロジー志向の高まりによって、スズキがもつ小さなクルマづくりのノウハウには世界中から熱い注目が集まっている。

そんなスズキが打ち出すスローガンは「小さなクルマ、大きな未来」。単なるエコロジー志向やエコノミー志向にとどまらない小さなクルマの可能性を示唆したこのスローガンには、「小さなクルマづくりを通して豊かな未来づくりに貢献したい」という、スズキの想いが込められているのだ。

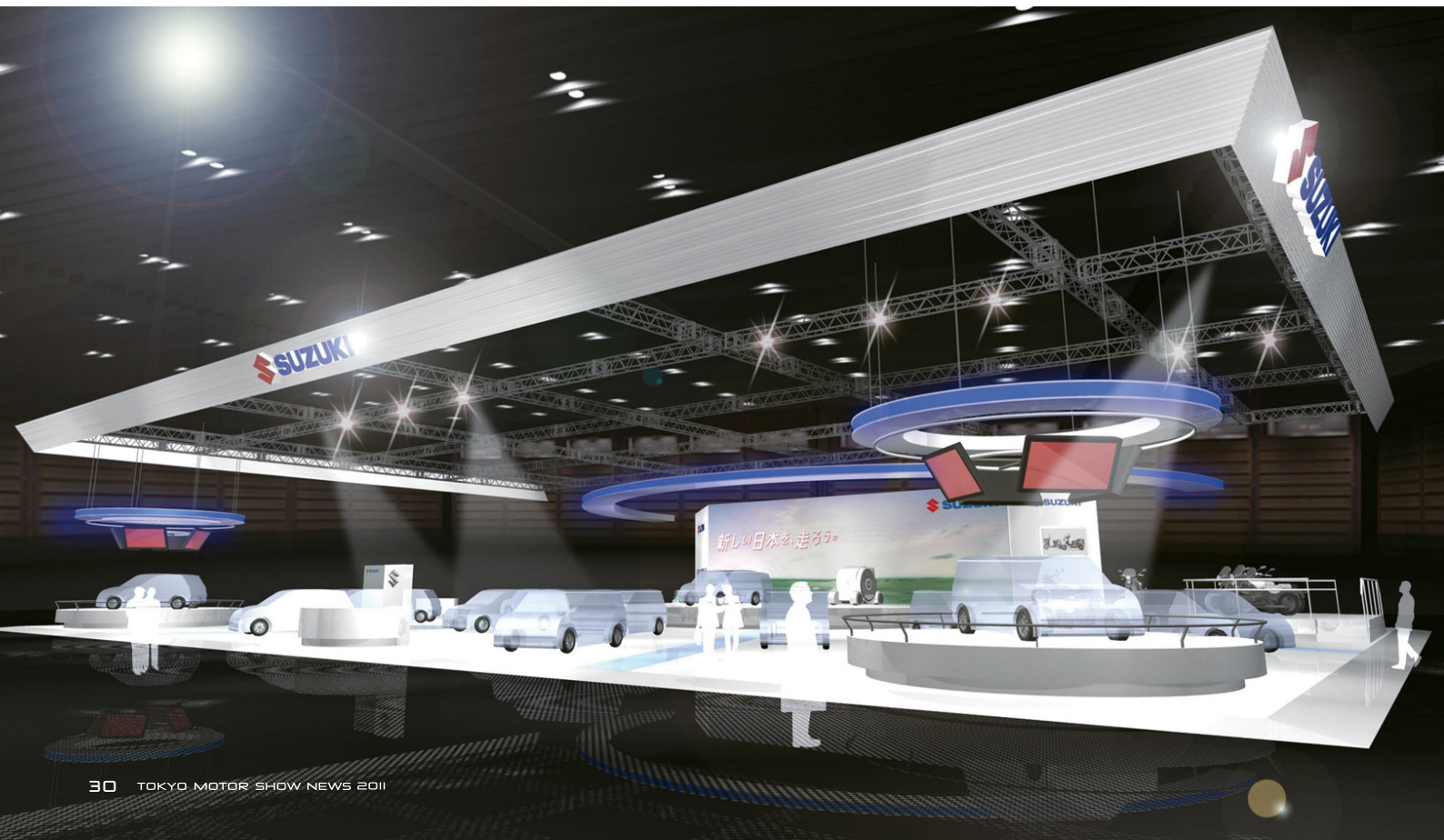


SWIFT Sport

新型スイフトスポーツなど注目モデル満載

そんなスズキのメインステージで主役を張るのが、次世代グローバル・コンパクトカーの「REGINA」だ。0.8Lの直噴ターボを搭載しつつ、リッターあたり32㎞以上（JC08）というハイブリッド車並の燃費を実現。と同時に、見る者の感性に強く訴えかけてくるデザインを採用しているのも「REGINA」の特徴だ。ヨーロッパの石造りの街並みにも負けない強い塊感や、個性的なフロントフェイス、流れるようなシルエットには、従来のエコカーのイメージを変える強烈なインパクトがある。ナビ、オーディオ、エアコンなどを統合した「フローティング・インターフェイス」を採用したインテリアも必見だ。

その他、半径10㎞程度での使用を想定した2人乗りの超小型モビリティ「Q-Concept」や、バッテリーがなくなっても小型エンジンで発電しながら走ることができるEV、「スイフトEVハイブリッド」、フランクフルトモーターショーで発表され高い評価を獲得した「新型スイフトスポーツ」など、スズキのブースには注目モデルが目白押しだ。



News 2 スズキならでは。四輪と二輪、モビリティ全体で、環境にやさしい「大きな未来」をめざす

低燃費を実現するカタチはいろいろ

全長2.5m、全幅1.3mという超コンパクトなボディをもつ「Q-Concept」は、2輪車と4輪車の中間に位置するニューカテゴリー車である。

4輪車より乗りやすく、2輪車のように気軽に、かつ快適に使えるモビリティとして、買物や通勤、子供の送迎といった短距離用途でのベストユーティリティを目指した。一充電当りの走行距離は50㎞。最高速度は60㎞/ｈ。前後2人乗りのタンデム仕様に加え、後席に2人乗り用チャイルドシートを備えた「ママ仕様」を用意するあたりは、海外メーカーにはない日本メーカーならではの親切発想だ。

「スイフト EVハイブリッド」は、家庭用電源で充電したバッテリーにより約30㎞のEV走行が可能。それ以上の距離を走るときは660ccのエンジンによって発電→充電しながら走るため、ガソリンさえ入れれば航続距離を気にしないでどこにでも走っていける。EVとガソリン車のいいとこ取りをしたモデルだ。

非ハイブリッドでありながらリッターあたり32㎞以上という驚異的な燃費を達成したのは「REGINA」。低燃費の秘密は、同社の軽自動車「アルト」並みの730kgという軽量ボディにある。車体構造を根本から見直すとともに、軽量素材を積極的に使用することで、従来モデルに対し100kg以上の軽量化を実現。徹底した空力性能の追求や、効率の高い0.8L直噴ターボエンジン、減速エネルギー回生付きアイドリングストップシステムなども燃費に貢献した。この３台以外のモデルはブースで確認して欲しい。



Q-Concept



SWIFT
EV Hybrid



REGINA

注目の二輪。「e-Let's」と「バーグマン フューエルセル スクーター」

スズキといえば2輪車も忘れるわけにはいかない。今回の注目モデルは、電動スクーターの「e-Let's」と、燃料電池スクーター「バーグマン フューエルセル スクーター」の2台。「e-Let's」は、回生充電機能を持つ高性能インホイールモーターと、リチウムイオンバッテリー、充電器を搭載しつつ、ガソリンエンジン車と同等の重量を実現。室内電源で充電ができる脱着式バッテリーを採用し、家庭用の100V電源から充電することができる。

一方、水素を使って発電する燃料電池を搭載したのが「バーグマン フューエルセル スクーター」である。コンパクトな空冷式の燃料電池システムを採用することで、2輪車への搭載を可能にした。スズキは2輪・４輪を通じて、世界初となる欧州統一型式認証（WVTA）を取得した。



e-Let's



バーグマン フューエルセル スクーター

Volkswagen ➲ キーワードは「German Engineering @ the Pulse of Time」

人の心を動かすクルマ造りに、技術と情熱を注ぎ込む

News 1 German Engineering @the Pulse of Time
技術と情熱が、時をとらえる。

社会や環境と共存するモビリティの実現を願うフォルクスワーゲンは「技術と情熱が、時をとらえる」というキーワードを掲げている。低燃費やクリーン化といった環境対応などの技術を磨き続けるのは当然ながら、時代とともに移りゆく社会情勢や価値観をとらえる先見性があってこそ、理想の自動車社会に近づける。そのために惜しみなく情熱を注ぎ込んでいるということだ。それを支える3本の柱が「DESIGN & TECHNOLOGY」、「EMOTION & LIFESTYLE」、そして「SUSTAINABILITY」。いくら環境性能が高くても、人の心を動かせるようなクルマでなければ普及もせず、真の環境負荷低減には繋がらない。全ての要素が高い次元で融合してこそ、未来への責任が果たせるのだ。



DESIGN & TECHNOLOGY

未来が求めるフォルムをデザインする。
時代を先取り、常に社会にふさわしいクルマを
革新のテクノロジーでつくり上げていく。



EMOTION & LIFESTYLE

時代とともに、求められるクルマも変わる。
社会の価値観を先んじてとらえ、
期待を超えるクルマで人の心を動かしていく。



SUSTAINABILITY

この青い星のために、出来ることすべてを。
自然環境と調和したクルマづくりを徹底する。
未来に責任を持つ自動車社会へ。




参考出展: ザ・ビートル フェンダー

News 2
The Beetle 偉大なる名車を継ぐ新たなオリジナル

日本初出展 Japan PREMIERE

60年以上もの長きに渡って世界中で愛され、2,150万台が販売されたという伝説をもつ初代ビートル。『ザ・ビートル』は、まさにその初代をトリビュートしたモデルである。先代ニュービートルよりもルーフピークからリアにかけてのラインが初代に近く、原点回帰を図ったことがうかがい知れる。だが現代のニーズに合わせたエモーショナルでダイナミックなフォルムは「新たなオリジナル」という形容がしっくりとくる。

そこへ搭載されるのがTSI®やDSG®などフォルクスワーゲン自慢の最新ユニット。低燃費とハイパフォーマンスを両立する先進テクノロジー、そして現代的な安全性が融合し、偉大なる名車の後継に相応しい1台となった。

The Beetle ジャパンプレミアイベント開催

12月3日(土) 11:30~フォルクスワーゲンブースにて、いよいよ日本デビューとなったThe Beetleの全貌をいち早く見ることができる。
フォルクスワーゲンブース内「The Beetle World」では、世界的に活躍するDJ、沖野修也(Kyoto Jazz Massive)氏とモデルたちによるクラブ・スタイルパフォーマンスも予定。



The Beetleのデビューを、パワフルで心に響くサウンドと共に楽しみたい。

今回、世界に先駆け2台のワールドプレミアが公開されます！ 見逃さないよう、ぜひ、フォルクスワーゲンブースへ！

世界初出展 World PREMIERE

日本初出展 Japan PREMIERE

News 3 TypeⅡの現代版、New Bulliにも注目！“自由”のスピリットの再来

ドイツではブリー、日本ではTypeⅡの呼び名で親しまれたフォルクスワーゲンバス。1950年にデビューし、クルマの自由スピリットの象徴となったモデルだが、その再来が『新型ブリー』だ。フロントの大型VWロゴマークに特徴的なVの字などヘリテイジを用いるとともに、オリジナルのスタイリングの本質を現代的に解釈してデザインされたという。ショーモデルは電気自動車だが、1.0Lや1.4Lのダウンサイジング・エンジンの搭載も可能だという。

全長3.99m×全幅1.75m×全高1.70mという日本でも取り回ししやすいコンパクトボディに3座×2列というユニークなシート配列。フロント・ベンチシートは2／3分割で助手席と中央席を折り畳むことができ、リアのベンチシートは完全に収納可能。自由度が高く簡潔なシートアレンジなので、アイデア次第で様々な使い方が想定できる。まさに自由スピリットを堪能できるモデルである。



News 4 その他のジャパンプレミアにも注目！

日本初出展 Japan PREMIERE


New CC



New CrossTouran

News 5 環境対応への強い意志。スマートモビリティシティでは、「NILS」日本初公開。

世界30カ国でサステイナビリティキャンペーン『Think Blue.』を展開するなど、環境対応へ強いこだわりをみせるフォルクスワーゲン。スマートモビリティシティでは未来を見据えたコンセプトカー『NILS（ニルス）』を日本初公開する。通勤・通学に使われるコミューターは約9割が乗客を乗せていないという実態（欧州）に合わせて1人乗りの電気自動車としたのは、まさに「時をとらえた」提案だ。また、実用性の高さと走る楽しさに定評のあるゴルフの電気自動車『ゴルフ ブルーeモーション』も出展。フォルクスワーゲンが考えるエコで安全な近未来のモビリティを体感できる内容になっている。





（スマートモビリティシティは西3・4ホールです）

Think Blue.

Audi ➲ キーワードは「Vorsprung durch Technik」

アウディの考える未来。「Audi e-tron」「Audi ultra」「Audi connect」

News 1

3つの“柱”でアウディの今、そしてこれからを感じてみよう。「Audi e-tron」「Audi ultra」「Audi connect」

「Vorsprung durch Technik（技術による先進）」をキャッチフレーズとするアウディ。そのアウディが目下、テクノロジーのキーとして据えているのが「Audi e-tron」「Audi ultra」「Audi connect」という3つの柱である。

Audi e-tron

そのうち「Audi e-tron」とは電動モビリティの未来を切り拓く技術の総称。電気を動力源とするクルマとしてはハイブリッド車がポピュラーだが、「e-tron」に定義されるのは、その更に一歩先のテクノロジーだ。バリエーションは様々。外部電源から充電した電気で20〜80kmの距離を走行可能としたプラグインハイブリッド（PHEV）や、長距離走行用に発電用小型エンジンを積むレンジエクステンダー付き電気自動車（EREV）、そしてピュアEVとも呼ばれるバッテリー電気自動車（BEV）、水素から取り出した電気を動力源とする水素燃料電池（FCEV）などが、「Audi e-tron」の傘の下に入れられている。

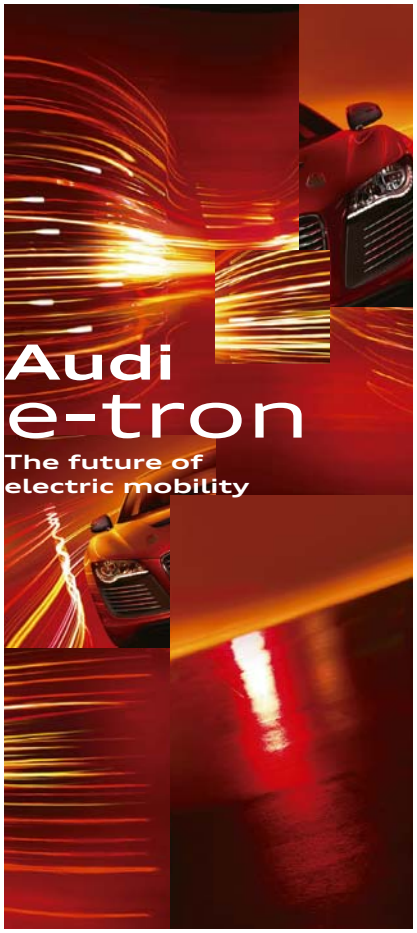
Audi ultra

「Audi ultra」とはアウディ独自の軽量化技術の総称だ。アウディが早くから手掛けてきたアルミボディを筆頭に、細部に渡る軽量化の徹底によって動力性能と燃費の向上、そしてリサイクル／再利用素材の使用を推し進める。資源を有効に活用して、持続可能なモビリティに貢献するのが、この「ultra」なのである。

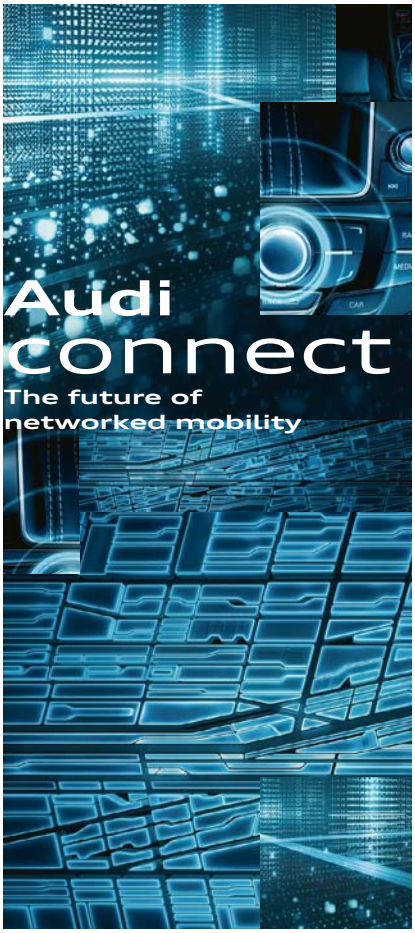
Audi connect

そしてアウディが今、一層力を入れ始めているのが「Audi connect」である。カーナビゲーションシステムとGoogle Earthの連携、車内W-LAN環境の整備など、既にテレマティックスにおいて最先端を走るアウディだが、今後はインフラとの連携、車車間通信の強化などによってサービスを充実させ、クルマが“繋がる”ことにより、更なるカーライフの充実を図る。

今回の東京モーターショー、アウディのブースはまさにこの3本の柱の下に様々な展示が行なわれる。それを踏まえつつ見ていけば、アウディの考える自動車の未来が、よりリアルに浮かび上がってくるに違いない。







News 2 Audiの先進技術が注ぎ込まれたクルマたちをブースで！

Audi A1 e-tron

Audi A1 e-tronは、プレミアムコンパクトセグメント用電気自動車である。4人乗り、3ドアハッチバックで、アウディのメガ・シティ・ビークル(MCV)カテゴリーの代表となる1台だ。世界の大都市圏でデイリーユース可能なクルマとして設計されている。電気で駆動し、内燃エンジンはバッテリーへの充電が必要な場合のみ使用される。その場合、254ccのロータリーエンジンが滑らかに始動し、アウディの電気自動車ならではのドライビングが味わえる。





Audi R18 TDI

2011年のル・マン24時間レースでアウディに通算10回目の勝利をもたらしたAudi R18 TDIが登場。アウディ独自の軽量化技術の粋が詰まった「Audi ultra」カーボンボディにはV型6気筒3.7ℓTDIエンジンが搭載される。

Audi Q3

コンパクトカテゴリーにおけるプレミアムSUV、Audi Q3。スポーティで効率的、オンロードでもオフロードでも快適に走れるシティビークルとして、アウディファミリーに加わった最も新しい1台。日本発売に先駆け、東京モーターショーで日本初披露となる。



会期中、Audiのブースでe-mailアドレスを登録すると、Audiの東京モーターショーオリジナルコンテンツが入ったUSBメモリ(4GB)がもらえます！

Mercedes Benz ➔ キーワードは「CONNECTING SHOW」

新しいメルセデス・ベンツが満載！

News 1 新型BクラスとコンセプトAクラス。近未来を示唆する2台のコンパクトカー

マイバッハ、AMG、スマートなどのブランドを擁するメルセデス・ベンツのブース。その一番の注目株は2台のコンパクトカー、新型Bクラス、そしてコンセプトAクラスだ。

来春にも上陸を予定している新しいBクラスは、車体の基本設計からシャシー、エンジンやトランスミッションに至るまで、全てが完全新設計の意欲作。サイドを走る大胆なキャラクターラインが目をひくボディは、これまでより全高が低く、空気抵抗を示すCd値は0.26と、このクラスでは他に例を見ない驚異的な数値を実現している。それでいてBクラスの特徴である室内の広さはそのまま。上質なインテリアとSクラスを凌ぐ後席レッグルーム、クラス最大容量の荷室空間などが特徴だ。

1.6L直噴ターボエンジンに、7G-DCTと呼ばれる7速デュアルクラッチトランスミッションを組み合わせたパワートレーンは、高出力と低燃費を高い次元で両立している。安全装備の充実も目をひくところで、追突の危険を察知してドライバーに警告、ブレーキアシストを作動させて、ドライバーの操作と同時に最大限の制動力を発揮させて衝突を防ぐコリジョンプリベンションアシストを、何と全車に標準装備している。

あらゆる面で従来のコンパクトカーの常識を塗り替えんとしているBクラス。ブースには2台が展示される予定である。

一方、コンセプトAクラスは、その名から想像できる通り、次期型Aクラスを示唆するコンセプトカーで、日本では初公開となる。

注目は、低く構えたダイナミックなフォルムを持つスポーティコンパクトという、現行モデルとはまったく異なるキャラクター。2台を見比べれば、メルセデス・ベンツのコンパクトカーの近未来について、より深く知ることができるに違いない。





左:次期Aクラスを示唆するコンセプトAクラス。
右:すべてが完全新設計のBクラス。

News 2 125周年を記念する「F125!」メルセデス・ベンツの新しいラグジュアリーカー像



車名のF125!とは、自動車の、つまりはメルセデス・ベンツの125周年を記念したもの。まったく新しいラグジュアリーカーの姿を定義するリサーチカーである。

ガルウイングドアを持つ全長約5メートルの4ドアボディは、カーボンやアルミなどを組み合わせて軽量、高剛性に仕立てられている。最新型の燃料電池を用いたプラグインハイブリッドシステムは航続距離1,000kmを実現。4輪に1個ずつのモーターを配したe4MATICによる卓越した運動性能も自慢だ。

音声入力にタッチ操作、手振りで制御する“@yourCOMAND”も注目したい。これこそ車内インフォテイメントの将来像である。

メルセデス・ベンツのリサーチカーは、常に単なるコンセプトには終わらず、技術やデザインが後の市販車に活かされてきた。きっとF125!も同じだろう。そんな目で見ればF125!、さらに興味深く映るはずだ。

News 3

SLS AMGロードスターと日本初公開の3代目新型Mクラス登場！

すでに市販が決定しているニューモデルがひと足先にお披露目されるのも見逃せない。メルセデス・ベンツが今回、日本初公開するのは以下の２つのモデルだ。

まずはメルセデス・ベンツSLS AMGロードスター。昨年発売されるや大反響を巻き起こしたSLS AMGをベースに、ルーフをソフトトップに置き換えた2人乗りのオープン・スーパースポーツカーである。

ソフトトップの開閉はわずか11秒、しかも走行中も時速50kmまでなら開閉操作が可能というから、望む時にすぐオープンエアドライビングを楽しむことができる。乗り心地を任意で変化させられる、電子制御ダンピングシステムを搭載したAMGライドコントロールスポーツサスペンションがSLS AMGに先駆けて搭載されたのは興味深い。

長いノーズの内側に積まれるのはV型8気筒6.3L自然吸気エンジン。最高出力571psという凄まじいパワーを、オープンにして解き放つ快感は、想像をはるかに超えるはず。まさに期待のニューカマーである。

もう1台は、これが3世代目となる新型Mクラス。そのスタイリングは特徴的なリアクオーターウインドウなど、各部にアイデンティティを継承しながら全体に逞しさを増している。一方でインテリアは、デザインとクオリティの両面で格段にラグジュアリーさをアップ。印象はまさに一変している。

セレクティブ・ダンピング・システムを採用したサスペンションは、走破性と快適性を高次元で両立。最新鋭のV型6気筒3.5Lエンジンの搭載で、動力性能を向上させる一方で燃費の大幅な低減を達成したことも、特に今の時代、見逃せない進化と言えるだろう。

メルセデス・ベンツらしい最新鋭の安全装備の充実ぶりも注目のポイント。つまり、すべてに隙の無い進化を遂げているのが、新型Mクラスである。参考出品として今回の東京モーターショーでいち早く公開されている。こちらも見逃せない。





上:メルセデス・ベンツSLS AMGロードスター。
下:進化を遂げて登場する新型Mクラス。

INFOSOUNDで あなたも“つながって”みる?!

「INFOSOUND」を活用した“つながる”体験をブースで提供【専用アプリ(MBConnect)をダウンロード】。スマートフォンユーザーは各種情報が得られるほか、プレゼントが当たるチャンスも！

※一部利用できない機種もあります。

MB Connect

コンパニオンのユニフォームで来春のテキスタイルを先取り!

コンパニオンのユニフォームは新進気鋭のデザイナー、motonari onoが手掛けている。テキスタイルは2012年春夏コレクション用の先取りです。

Mercedes-Benz FashionWeek TOKYO



News 4

ショー会場と、六本木メルセデス・ベンツ・コネクションを結ぶシャトルバス運行

数多くのラインアップを誇るメルセデス・ベンツだけに、会場内に展示しきれないモデルも沢山出てきてしまう。しかし今回の開催地は東京お台場。そのメリットを活かし、三菱ふそうとのタイアップによってショー会場と六本木にあるメルセデス・ベンツ・コネクション間のシャトルバスが運行される。

期間限定でオープンしたメルセデス・ベンツ・コネクションは、車両の展示のほかにカフェやレストランを用意し、メルセデス・ベンツを通したスタイリッシュな時間を提案する新感覚の空間。両方訪れて様々なモデルに触れ、美味しいフードやドリンクとともに心地良い時間を過ごせば、今のこのブランドをさらに深く理解できるというわけだ。

つまり今回のショーでは、メルセデス・ベンツは、ニューモデルの展示のほかにも様々な楽しみを用意しているということである。運行スケジュールなど、詳しくは当日のブースで問い合わせられたし。

いすゞ自動車

東1・2・3ホール

Isuzu Motors ➲ キーワードは「Always Next to You ーいつもあなたの暮らしのそばにー」

働くクルマをより身近な存在に感じられる



ERGA HYBRID



スミダバス

過去、現在、そして未来。働くクルマ達を見つめてみよう。

1924年以来トラックやバスを作り続けているいすゞの車は社会の身近なところで活躍している。今回は近代化産業遺産のひとつ、昭和7年生まれ「スミダ」を展示。めったにお目にかかれない逸材を眺められるのは、ショーならではの楽しみとして感慨深い。日本初公開のハイブリッド路線バスとの対比も興味深いところ。また、見て触れられる主力製品群を通して、いすゞを深く知るチャンスも。同社のホームページ上で子供にも人気の「世界のはたらく車」コーナーでは特大バージョンをブース展開。常に我々のそばに居た、いすゞの歩みの一端を知り、家族で楽しむことができる。

小型も手掛けるいすゞの最新ピックアップトラック



D-MAX

タイで生産されるD-MAXは日本初公開モデル。実用的な貨物車利用から、アクティブなSUVとしての機能的な魅力は侮れない。今のところ国内発売の予定は無いと言うのが残念。夏に冬に遊び道具満載で走る姿は颯爽と格好良い。

日野自動車

東1・2・3ホール

Hino Motors ➲ キーワードは「人に、暮らしに、もっとやさしく、もっと便利に」

生活を支えるHINOのテクノロジー





20回連続参戦・完走を続ける日野レンジャー

日野チームスガワラが2011年にダカールラリーに参戦した車両。その勇姿は企業姿勢のひとつを象徴する。

ハイブリッドから未来のEVまで環境にやさしい先進技術が勢ぞろい

小型トラックやバスの最新ハイブリッド車を披露。世界初公開の日野デュトロ プラグインハイブリッドや商用EVのコンセプトモデルも注目だ。プラグインは外部電源から充電できるだけでなく、災害による非常時等では逆に外部へ電源供給もできる。一方EVバンは電気モーターをフロントに搭載したFF方式のワンボックスタイプで低床な広い荷物スペースを誇る点も見逃せないところ。そのデザインは次世代の商用車を彷彿とさせる。またインドネシアで活躍する重ダンプも興味深い。35ﾄﾝの積載量は日本のダンプの３台分以上の働きに相当。そのタフな姿には圧倒されてしまう。

海外の鉱山で活躍する HINO 700 Seriesダンプ。その運転席に乗れる。



普段はお目にかかれないスケール。日本を走るダンプのほぼ倍の、迫力のある超大型ダンプだ。その差はホイールサイズの違いでも顕著。キャビンは国内の日野プロフィアと同じだが巨大なスケール感は目を見張るばかり。乗って触れるチャンスを見逃す手はない。

三菱ふそう

東1・2・3ホール

Mitsubishi Fuso Truck and Bus ➔ キーワードは「POWER TO THE FUTURE」

グローバル市場を視野に 未来を見据えたトラック・バスづくり





キャンターエコハイブリッド（写真左）は世界初公開。ミッションはトラック世界初採用のデュアルクラッチ式AMT「DUONIC」。エアロクィーン（写真上）は乗車もできるので、撮影スポットとしてもお勧めだ。
（※AMT：Automated Manual Transmission）

ダイムラーグループとのコラボで次世代技術の積極採用が進む

世界初公開と日本初公開、2台のキャンターに注目したい。今グローバル市場で活躍する小型トラックのキャンターは、エンジンもミッションも最新鋭の技術を投入して高い評価を集めている。世界初公開のキャンターエコハイブリッドは来春に追加発売予定。一方日本初公開となるキャンターE-CELLはEV（電気トラック）コンセプトだが実動モデル。ステージ上を音もなく動く姿が見られる。そして同社のフラッグシップバスであるエアロクィーンの優美なスタイリングと心地よいインテリアは必見だ。また、ブースでは素敵なプレゼントが当たるクイズ＆アンケートも実施している。

2台の新型ローザが無料シャトルバスに



今夏、六本木にオープンしたメルセデス・ベンツコネクション（カフェ＆レストランラウンジ）とモーターショー会場を結ぶ無料シャトルバスが運行される。ローザは会期中限定のラッピングバス。六本木でランチを楽しむのも良い。

UDトラックス

東1・2・3ホール

UD Trucks ➔ キーワードは「Road to Your Success」

働く車に込められる究極の信頼



「Quon」ウィング（国内市場向け）



「Quon」トラクタ（海外市場向け）

安全と環境と省燃費を求めて技術革新に邁進する企業姿勢を披露

UDトラックスは世界に先駆けて尿素SCRシステムの実用化に成功しQuonに搭載した。同社はディーゼルエンジンの排出ガスをクリーンにする先進技術を総称してFLENDS（フレンズ）と名付けている。ディーゼルエンジンは高性能と省燃費を追求するとNOx（窒素酸化物）が排出されてしまう宿命がある。尿素水を活用する後処理でNOxを無害化するのだ。今では他社も追従し、標準的な手法のひとつとして定着した。現在のディーゼルエンジンが、如何に綺麗な排気ガスを手に入れたのか、主力製品とエンジンを展示するUDトラックスブースでそのカラクリを探ってみると良いだろう。

新ブランド、社名に込められた“UD”の意味するところは？

UD TRUCKS

2010年2月に日産ディーゼル工業から社名変更したUDトラックス。“UD”はUltimate Dependabilityの頭文字で「究極の信頼」を意味する。ブランドコンセプトのRoad to Your Successも企業理念の“UD”に基づいているのだ。

Hitachi Automotive Systems ➔ キーワードは「Driving Force for Global Automobiles」

「環境」「安全」「情報」技術で未来の駆動力となる

News 1

日立が自動車部品産業へ参画したのは1930年のこと。黎明期の日本車は電装品を輸入に頼っていたが、その国産化を果たしたのが始まりだ。あれから80年余り。日立グループの幅広い技術とモノづくりの豊富な経験を背景に、日本のモータリゼーションの発展に貢献するとともに、グローバルな展開で成長を続けてきたが、2009年には競争力強化や事業発展のための経営判断、意志決定の迅速化などを目的に、日立製作所から分社・独立した日立オートモティブシステムズが設立されることとなる。現在は「環境」「安全」「情報」という3分野の進展に向け、4つのシステム事業の技術開発に重点を置いているという。

日立オートモティブシステムズの取締役、CTOで、JAMAが組織した東京モーターショー運営会議に参画する福永 泰氏は、モーターショーの24年ぶりの東京カムバック開催に大きな意義を感じている。

「次世代の新たな提案とともに、社会システムとの連携を展望する“SMART MOBILITY CITY2011”を併催するなど、世界をリードするテクノロジーモーターショーとしてたいへんに相応しいものになったと考えています。自動車関連産業が、エネルギー、電機、通信といった産業界とも連携し、先進性とともに次世代車両の情報発信を行うことには大きな意義があるのです」(福永氏)。



福永 泰氏(取締役CTO)

社会システム全体での最適なエネルギーマネジメント、情報制御に取り組む

また、昨今の日本ではエネルギーを効率良く使おうという気運が高まっている。経済成長華やかなりし時代は、自動車も、より豪華なより煌びやかな方向に進んでいたが、今は「燃費」が自動車選びの重要なファクターだ。環境意識の高まり、震災の影響で強まったエネルギー問題への関心などがその要因だろう。

「日本全体が、行きすぎた部分を戻そうとしているようにも思えますね。日本伝統の“もったいない”文化、東洋思想に基づいた技術開発に期待が集まっているようにも感じています。そういった意味でも、東京カムバックは象徴的な出来事ではないでしょうか」。

江戸の町は太陽や川の恵みを最大限に活用した循環型社会で、理想的なエコロジーが実現されていたというが、今はそういった原点を見つめ直す必要にも迫られている。その現代的な解釈がスマートモビリティシティへ繋がっていくということだろう。

「与えられた環境のなかで、エネルギーを賢く、効率良く使っていく。そのために現代では、様々な情報を集積してコンピューターで解析・処理する。どうすれば高効率になるかをユーザーの方にフィードバックすることが必要です。日立グループは、火力・水力のみならず自然エネルギーなどの発電開発からエネルギー監視制御システム、送配電、情報通信、公共交通システム、電動車両システムなど、スマートシティを実現するための豊富な実績と技術、ノウハウを有し、電動車両を含めたクルマにおけるエネルギーの高効率化にとどまらず、社会システム全体での最適なエネルギーマネジメント・情報制御の実現に向けた取り組みをおこなっています。

日立オートモティブシステムズを中心に自動車機器事業をご紹介している東京モーターショーブース(E6101)だけでなく、日立製作所を中心に次世代モビリティを含むスマートシティへの取組みをご紹介しているスマートモビリティシティブース(SMC13)へも是非、足をお運び頂ければ幸いです」(福永氏)。

〈日立オートモティブシステムズがグループで取組む製品の一例〉





ハイブリッドシステム





エンジンマネジメントシステム

内燃エンジンの高効率システムと電動化システムで「環境」に貢献。



ステレオカメラ



電動型制御ブレーキ

外界認識センサーとアクチュエーションを連携し「安全」を支援。



カーナビゲーション(クラリオン)

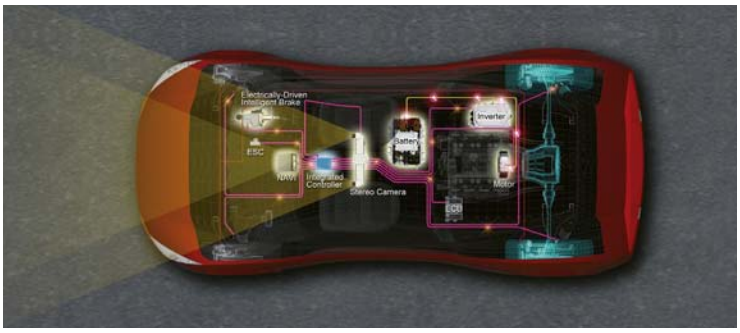
ハードとソフトを合わせて、安心・快適・利便性を「情報」で高める。



EV向けICTソリューション

採用例「日産リーフ」

News 2 「環境」と「安全」と「情報」を繋げる。めざすは、よりスマートな次世代電動車両システム



次世代電動車両システム図

優れた指揮者によって、バイオリンやフルート、ピアノが素晴らしいハーモニーを奏でるように、一つ一つのキーコンポーネントを、最適な電子・電動制御システムとして繋げ、全体の効率化を図る。

日立オートモティブシステムズは、3分野4システムからなる事業をグローバルに展開している。1つめの「環境」分野は環境保全とエネルギーの効率的な利用を実現する直噴エンジン制御システムなどの「エンジンマネジメントシステム」と、ハイブリッド・電気自動車といった電動化向けの「エレクトリックパワートレインシステム」という2つのシステムからなる。 2つめの「安全」分野では、ステレオカメラなど外界認識カメラ・センサー技術、機械系を電機・電子系に置き換えるバイワイヤ技術を活用し、パワーステアリングや電動型制御ブレーキなどをきめ細かくコントロールして車両運動制御する「走行制御システム」に取り組んでいる。

3つめの「情報」分野では、ナビゲーションやデータ通信モジュールなど車載情報機器のハードをはじめ、グローバルデーターセンターを介した交通情報サービスや電気自動車の充電管理などのICTソリューションを提供する「車載情報システム」が事業領域だ。

これら3分野4システム事業は、次世代車に求められる高次なシステムソリューションの実現にむけて、各コンポーネントが独立機能するだけでなく、互いに協調・連携し、高度に統合された車両制御のイノベーションに取り組んでいるという。つまり、日立オートモティブシステムズの強みは、各キーコンポーネントをシステムとしてとらえ、センシング技術や情報通信技術との連携で全体の最適化が行えることだ。

たとえばハイブリッドカーでは、回生ブレーキによっていかに電気エネルギーを回収し、どんな場面で駆動へ使うかということが効率改善に繋がっていくが、それにはこれから走る道路の地形などが分かっていればさらに都合がいい。もうすぐ長い下り区間になって回生ブレーキがたくさん働くとなれば、それまで電力使用量が多くてもさほど問題はない。バッテリー容量が少ないハイブリッドカーではむしろ、電力を使い切っておいたほうがより多くのエネルギー回収に繋がり、トータルの効率は良くなるはずだ。

また情報通信技術を用いることで、データセンターで車両充電を管理し、最適な充電ステーションに誘導したり、目的地までの高精度な渋滞予測など、電気自動車のドライブに安心・快適を提供するソリューションをすでに始めている。

次世代の自動車では個々のハードウェアの性能だけではなく、車載システム連携と、情報通信技術を核とした社会との連携が重要であり、さらには自動車だけではなく公共交通機関も含めた交通全体が最適なかたちで繋がっていく社会デザインが必要だと日立グループは考えている。まさに、スマートモビリティシティの具現化がテーマでもあるのだ。

News 3 日立グループの技術をブースで体感！



モーションライドシアター



3Dマッピングシアター

今回、日立オートモティブシステムズは、臨場感ある映像とともに、日立グループの技術を体感できる２つのシアターを東京モーターショーのブースに導入し、来場者の期待に応える構えだ。まず迫力の３Dマッピングシアターは、未来的なデザインのクルマ原寸大模型を立体スクリーンにして、複数のプロジェクターから映像を分割投影することによって、裸眼でも３Dカーの走行空間を体感できるものだ。日立オートモティブシステムズがグループで取組む製品紹介や、キーコンポーネント連携により高効率エネルギーマネジメントを可能とする次世代電動車両システムがわかりやすく紹介されている。

さらに第39回東京モーターショー2005で好評を博し、長蛇の列となったモーションライドシアター2005の進化バージョンも今回導入された。４人乗りのドライビングシミュレーターが前方のスクリーンの映像に合わせて動作するもので、今回はスマートシティを走行しながら日立の走行制御技術をモーションとともに体験できる。

日立グループは東6ホール（E6101）だけでなく西４ホール（SMC13）で併催のスマートモビリティシティ2011にも出展。非接触IC内蔵の携帯電話を用いた認証システムにより、2つのブース両方に訪れた来場者には、毎日先着限定数でノベルティの配布をおこなっている。

Asahi Glass キーワードは「世界はガラスで変えられる」

「スマートな社会」は“ガラス”で実現する

「世界は本当にガラスで変えられる。私たちはそう信じています」

世界最古のガラスは紀元前数千年まで遡ると言われている。その始まりは“偶然”であったそうだが、そのとき、人々はどんなに驚いたことだろう。

「私たちは今回、スマートモビリティシティの出展にあたり“世界はガラスで変えられる”をコンセプトとして掲げました。実際、ガラスの発明によって、またガラスの進化によって、人々の暮らしは豊かになってきたのです。窓や自動車などは分かりやすい例ですが、液晶ディスプレイ、スマートフォン、デジタルカメラなど、便利で快適な現在の生活はガラスなしにはあり得ません。ガラスを中心とした最先端の材料、さらには技術がどのように私たちの暮らしを支え、また、これからの世界を変えていくか、皆さんに知っていただきたいと思っています」(石村和彦氏)。

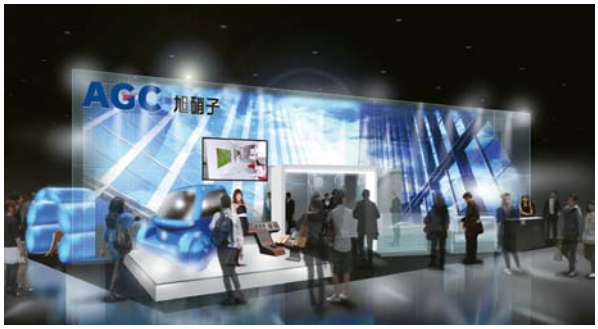
ＡＧＣ旭硝子の信念が表現されたブース。“ガラス”が未来への希望の１つであることを実感できるに違いない。

News 1



代表取締役・社長執行役員・CEO
石村和彦氏

News 2



AGC旭硝子のブースで、様々なガラスの世界を体感しよう

ブースでは縦３m×横11mの巨大なガラスの壁面が設営され、そこに「世界を変えてきた」ガラス等の映像が映し出される予定である。また、様々な新しいガラスの実験機が設置され、不思議なガラスの世界を体感できる。

創業以来104年 世界をガラスで変えてきた

News 3

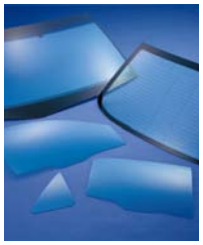
普段当たり前のように目にする、ガラスを使用した様々な製品。窓、自動車、ＴＶ、太陽電池。全て同じに見えるガラスだが、実はそれぞれ機能に合わせて進化してきた。

ＡＧＣ旭硝子は今年で創業104年。104年間世界の変化をガラスで支えてきた。例えば自動車用ガラスでは、視界がクリアで割れても飛び散らない安全なガラス、液晶ＴＶでは、厚さわずか0.7mmの非常に薄くて平坦なガラス、建築用では、夏の太陽熱をはね返し、冬の結露を防ぐ快適なガラス、太陽電池用では、非常に透明で太陽光をより多く取り込むガラスなど、数多くの「世界を変えたガラス」を、ＡＧＣ旭硝子は開発してきた実績がある。

それらの開発に伴う幾多の困難を、創業の精神「易きになじまず難きにつく」を合言葉に克服してきたＡＧＣ旭硝子。ガラスの可能性に挑戦し、新たな世界の創造を続ける。今回の出展のテーマに掲げた「スマートな社会」の実現に向けてこれからも同社の挑戦は続く。



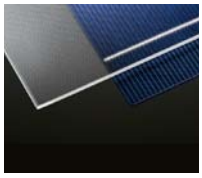
1907 創業
1909 板ガラスの生産開始
1954 複層ガラス(ペヤグラス)の生産開始
1956 自動車用加工ガラスに本格進出
1998 TFT液晶TV用ガラス基板の量産開始
2010 自動車フロントドア用UVカット強化ガラス「UVベールPremium®」の販売開始
2011 化学強化用ガラスDragontrail®の量産開始



自動車用ガラス。外界が歪みなく見えるのには、高度な技術の裏付けがある。



液晶TVの普及はディスプレイ用ガラスが支えている。AGC旭硝子は世界で第二位のシェアを誇る。



上:太陽電池用カバーガラス「ソライト®」

下:快適なガラス(Low-Eガラス)が採用されたロシアのナベレジナヤタワー



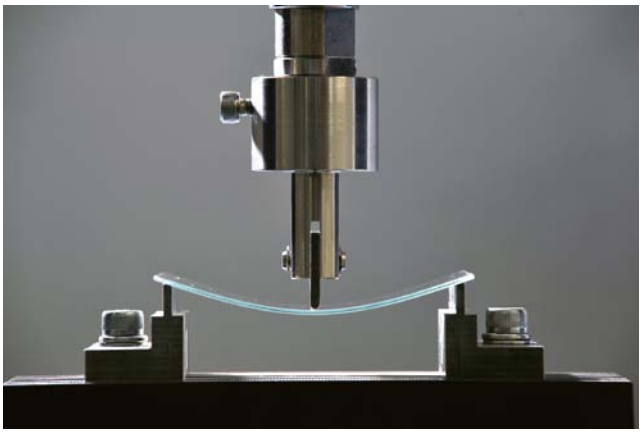
News 4 ガラスの常識を変える「薄く、強く、しなやかな」Dragontrail®

一般的に、ガラスのイメージは、割れやすく、曲がらない。そういった、従来のガラスの持つ常識を変えるのが、ＡＧＣ旭硝子が開発した新世代ガラス「Dragontrail®」だ。

この製品は、現在、目覚ましい普及を見せるスマートフォンやタブレットＰＣなどの携帯型情報端末用カバーで要求される「軽く、割れ・傷に強く、高級感がある」といった特性に応えるため、ＡＧＣ旭硝子が長年培ったガラス開発技術を駆使して開発された。

「Dragontrail®」は、通常の窓ガラスなどに使われているガラスでは不可能な強度、しなやかさ（写真右：ガラスが割れずに曲がる！）を達成し、もちろんプラスチックにはない「傷つきにくい」、「艶やかな質感」など、ガラス素材ならではの特長を持ち合わせている。

「Dragontrail®」は、今後携帯型情報端末分野だけでなく、ＩＴ化が進むにつれタッチパネル操作がより一般的となりつつある自動車用インパネや、家庭内情報端末、また省エネ・創エネの要求から薄型・軽量が進む自動車用窓ガラス、軽量太陽電池など、世界が「スマートな社会」に変化する中で、重要な位置を占める製品となることが予想されている。



「Dragontrail®」は通常のガラスでは得られない強度と、優れた耐傷性を有する。

ガラスの常識を変える「紫外線を約99％カットする」UVベールPremium®

ＡＧＣ旭硝子では、女性にとって耳よりな製品もラインナップされている。そのひとつが「ＵＶベールPremium®」。

多くの女性にとって紫外線は大敵。ＡＧＣ旭硝子の独自調査でも、女性がもっとも気にしていたのが運転中の日焼けだった。そこで、従来のフロントドア用ＵＶカット強化ガラスに新たな高性能ＵＶ吸収膜をプラスすることで、さらに高いＵＶカット性能の実現を目指した。フロントドア用ガラスは窓の開閉により表面が傷つきやすいなど、多くの技術的な課題があったが、世界トップシェアを誇る自動車用ガラスの技術力を基に開発された「ＵＶベールPremium®」は、独自の技術革新でそれらを克服。フロントドア用強化ガラスとして世界初※1のＵＶカット率約99％※2を実現し、昨年12月発売のトヨタ「ヴィッツ」に初めて採用された。

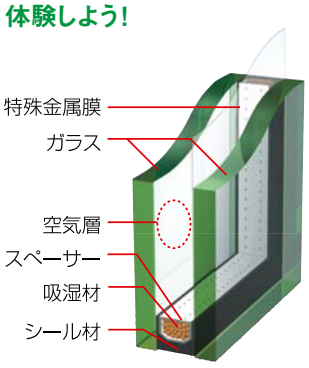
※1　2010年12月現在、同社調べ。
※2　同社測定値。ISO9050基準。

News 5

紫外線を当てると反応するUVチェッカーでテスト。窓を開けると紫色に反応したUVチェッカーも、「UVベールPremium®」に守られると色が消える。



快適なガラス「サンバランス®」を体験しよう!



「サンバランス®」は、ガラスの内側の特殊金属膜の働きで、照りつく夏の太陽熱（赤外線）をはね返す。また２枚のガラスの間の空気層で結露を防ぎ、冬は暖房効率を高めてくれる。
ＡＧＣ旭硝子のブースでは、「快適」を体験する装置があるので、住宅用ガラス「サンバランス®」から実現する「スマートな社会」をこの機会にぜひ体感しよう。

BRIDGESTONE ➔ キーワードは「あなたと、つぎの景色へ」

“技術”のその先へ。新しいブリヂストンが分かる!

News 1 創立80周年、ブリヂストンの新たな決意。「一人ひとりを支える」企業でありたい

2011年3月1日、ブリヂストンは創立80周年を機に、ロゴやマークなどのブリヂストンシンボルをリファインし、顧客に向けたメッセージであるタグラインを一新した。新しいタグラインは、「あなたと、つぎの景色へ」。顧客に対する思いと真剣に向き合った結果、「一人ひとりを支える」企業でありたいと、改めて思ったのだという。

そんなブリヂストンの新たな決意が、東京モーターショーのブースに反映されている。

これまでは技術を前面に押し出す展示が多かったが、今回は一歩先まで踏み込み、「その技術がどんなふうに役に立つのか」が直感的にわかるような仕掛け。ブリヂストンが導く「つぎの景色」を実感してみよう。

News 2 「エコピア」「ブリザック」そして「リトレッド」革新的タイヤをブースで

ブースでは、低燃費タイヤの「エコピア」、北海道・北東北で装着率ナンバーワンを誇るスタッドレスタイヤの「ブリザック」、1次寿命が終了したトラック・バス用タイヤのトレッドを再生して使用する「リトレッドタイヤ」を展示している。ブリヂストンのリトレッドタイヤは、タイヤケースのクオリティに力を入れていると胸を張る。リトレッド後の品質を誇れるのも、骨格がしっかりしていればこそだ。

エコピアは乗用車用だけでなく、小型トラックやトラック／バスなど、幅広いラインアップをそろえているのが特徴。転がり抵抗の低減とウェット性能の両立が低燃費タイヤ開発の課題だが、ブースには、最新技術を盛り込んだ革新的な製品の展示がありそうだ。


エコピア


ブリザック


トラック・バス用リトレッドタイヤ



News 3 「CAIS」や「新コンセプトタイヤ」新技術にも注目!

新技術にも注目しておきたい。「CAIS（カイズ）」は、タイヤのトレッド面内側に装着したセンサーによって振動を検出し、路面状態を判定する技術。乾いた路面と濡れた路面では、トレッド面の振動が異なることに着目した技術だ。この技術を利用すると、気づかずに凍結路面に遭遇したドライバーに警告を発したり、通信技術によって後続のクルマに危険な状態を知らせることができるようになる。今回のショーでは、この画期的な技術の最初の適用例がアナウンスされる。

「新コンセプトタイヤ」の斬新なアイデアは一目瞭然だ。タイヤとは切っても切れない関係にあった“空気”を必要としないからだ。加えて、再生利用可能な材料で製造することを想定しているため、環境性能が高いのがウリ。





News 4 「fun」もいっぱい。楽しみながらタイヤのことを知ろう!

あの「タイヤカフェ」をブースで再現!

テレビCMでおなじみのICE TAIYA CAFEがブースに再現されている。CMの中で店主はさかんに床で足を滑らせていたが、実際はどうなのだろう。やっぱり寒い? 冷たい?なんてところが気になってしまう。クルマ好きの心をくすぐる、タイヤをあしらった調度品や小物にも注目したい。残念ながら「アイスタイヤコーヒー」は注文できず、店主も不在だが、客になりきって演じてみよう。







タイヤの性能を体感マシンで感じよう

空気がゼロになっても一定距離を走行できるランフラットタイヤとノーマルタイヤの違いが体験できる。また、「エコピア」「ランフラットタイヤ」「ブリザック」の効能を3D映像と風、振動で楽しみながら体感できるので、ぜひトライしてみよう。



MotoGPマシンが見られる!

レプソル・ホンダ・チームRC212V、ヤマハ・ファクトリー・レーシングYZR-M1のMotoGPマシンを展示。レース走行後のタイヤも併せて展示。

News 5 タイヤのことがやさしく分かる楽しいステージイベントも!

普段当たり前のように履いているタイヤだが、実は私たちひとりひとりの暮らしを支えてくれている。そのことをショーコンパニオンが、ショートストーリーを通じて分かりやすく、楽しく伝えてくれるステージイベントにも注目だ。お見逃しなく!







「タイヤセーフティー選手権」表彰式開催!

ブリヂストンブースでは、12月10日(土)14時から、「タイヤセーフティー選手権」の表彰式が開催される。タイヤセーフティー選手権とは、交通安全やタイヤの日常点検の推進につながる動画や活動アイデアを募集するコンテスト。2011年5月8日〜10月8日の期間中に、高校生以上の一般の方々から応募を募った。当日は映画監督の大林宣彦氏の他、同社役員から表彰される予定。参考URL:http://tiresafety-contest.jp/
ぜひ、ブースを覗いてみよう!

DUNLOP ➔ キーワードは「低燃費タイヤ、石油外天然資源タイヤ」

ダンロップの本気。「エナセーブ」が地球を救う!?

News 1 環境配慮タイヤが変えていく クルマ社会の未来



住友ゴム工業株式会社
代表取締役社長
池田育嗣氏

ダンロップは、早い段階で環境配慮自主基準を策定し、地球環境保護に配慮したタイヤ開発に力を注ぐ企業である。

「タイヤが地球環境に貢献しうる方向性は「原材料」「低燃費性」「省資源」という三つのアプローチだと考えます」と、住友ゴム工業株式会社 代表取締役社長の池田育嗣氏は語る。

ひと口にタイヤのエコといっても、作るときと使うときのエコがある。「原材料」を石油由来以外のものに切り替えたり、スペアタイヤを省いて「省資源」に取り組み、作るときのエコを進めてきた。使うときのエコでは、「低燃費性」を向上させたタイヤの開発にも注力している。自動車の走行抵抗のうち、タイヤの転がり抵抗が約20%を占めており、それを小さくすれば自動車の低燃費化に大きく貢献できる。「石油外天然資源タイヤ」「低燃費タイヤ」を最先端の環境技術で推進し、環境対応ブランド「エナセーブ」を市場に投入している。

News 2 エナジーセーブとネイチャーセーブを形に。 それがエナセーブブランド



エナセーブブランドには、「エナジーセーブ」と「ネイチャーセーブ」の2種のコンセプトが含まれている。タイヤの転がり抵抗を減らし、自動車の低燃費化を目的とするエナジーセーブの考え方は、ミニバン専用の「エナセーブRV503」、セダン・コンパクトカー向けの「エナセーブEC202」に反映されている。さらに転がり抵抗を半分まで下げた低燃費タイヤを2015年までに発売する目標だ。

一方、ネイチャーセーブのコンセプトに則って、石油や石炭などの化石資源の使用量をわずか3%まで減らした「エナセーブ97」を2008年に発売している。石油外の天然資源を97%も使用し、従来のタイヤの性能を保つことの難しさは筆舌に尽くしがたいが、さらに天然資源100%を実現したタイヤの発売も2013年を目標に進められている。

News 3 エナセーブ エクスペリエンス！

低燃費タイヤ エナセーブのヒミツは、転がり抵抗を低減させる技術にある。

ブースではエナセーブの世界観やそれを実現したテクノロジーを紹介。エナセーブ体感コーナーでは、ナノレベルのゴム素材開発を「見える化」したコーナーや、転がり抵抗が燃費に影響する原因を明かす実験機などを用いながら、エナセーブについて分かりやすく紹介してくれる。また、2013年発売予定の100%石油外天然資源タイヤのプロトタイプも展示される。

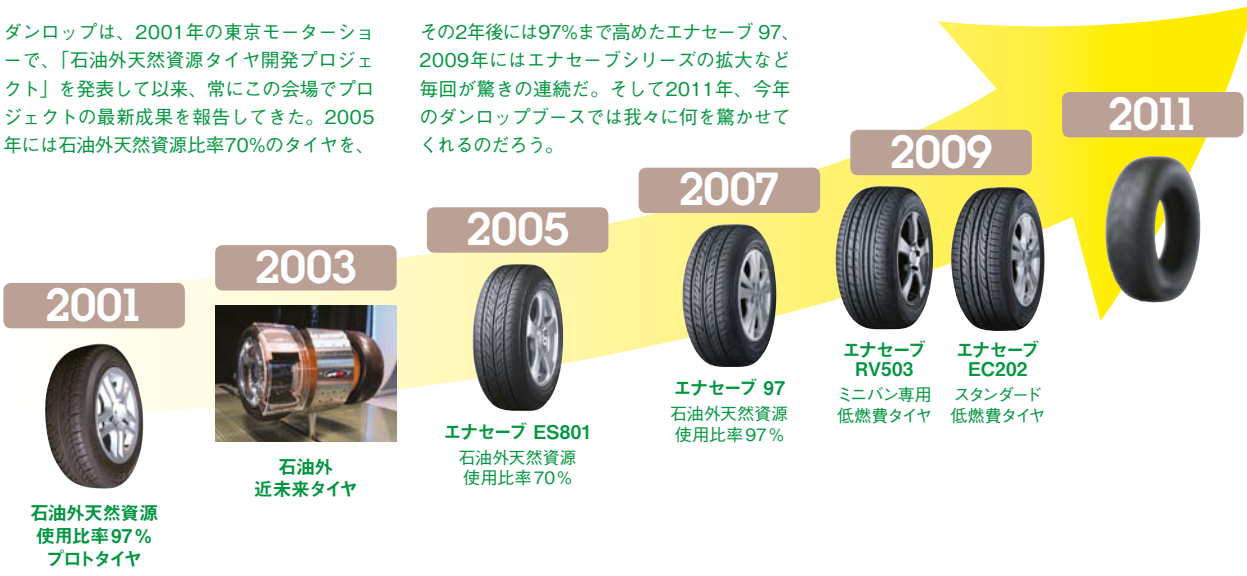




Topics

エナセーブと東京モーターショー

ダンロップは、2001年の東京モーターショーで、「石油外天然資源タイヤ開発プロジェクト」を発表して以来、常にこの会場でプロジェクトの最新成果を報告してきた。2005年には石油外天然資源比率70%のタイヤを、その2年後には97%まで高めたエナセーブ 97、2009年にはエナセーブシリーズの拡大など毎回が驚きの連続だ。そして2011年、今年のダンロップブースでは我々に何を驚かせてくれるのだろう。



NTT DOCOMO ➔ ドコモが創る未来のカーライフ。楽しくて便利！

「あったらいいな」のカーライフをドコモが創る





「ドコモ ドライブネット」サービス契約、専用アプリ　「ドライブネットクレイドル 01」（別売）

News 1 スマートフォンが本格派カーナビに！

いつも使い慣れたスマートフォンが、クルマに乗ったら本格ナビゲーションになる。「ドコモ ドライブネット」によって、そんな新しい世界が始まっている。

使い方は、対応スマートフォンでドライブネットサービスを契約し、専用アプリをダウンロード。そして車内でのスマートフォンの定位置となる、専用の「ドライブネットクレイドル 01」に設置する。これは単なる台座ではなく、ＧＰＳレシーバーや、加速度センサー、ジャイロセンサーを搭載し、高度な位置認識で自車位置を計算する優れもの。

スマートフォンをセットすればハンズフリー通話が可能となり、音声入力でのフリーワード検索もできる。さらに、ドコモの通信を利用して、年２回（予定）新しい地図に更新されるのもうれしい。

また、渋滞情報はＶＩＣＳのみならず、実際に走行する他車からの走行データを加味することで広範囲で精度の高い情報が反映されている。きめ細かな道案内で、きっとドライバーのイライラを解消してくれるはずだし、オービス情報も入っているから、安全運転に一役買うことだろう。そのほかにも駐車場の満空情報、グルメや観光情報、テレビ紹介スポットなど、様々な役立つ情報が手に入る。また「ドライブネットクレイドル 01」はシガーライターソケットから電源を取っているから、車中でスマートフォンの充電も可能だ。

「あったらいいな」と思っていた、楽しく便利なカーライフ。ドコモのブースでは、最新機種で、デモ画面や操作性を実際に体験できる。

docomo DriveNet GO! GO! ドライブネットキャンペーン

Go！Go！ドライブネットキャンペーン

キャンペーン期間中（2012年1月15日まで）に
「ドライブネットクレイドル 01」を購入すると抽選でステキな賞品が当たる。
詳細はドコモのホームページで確認しよう。

ドライブネットキャンペーン　検　索

News 2 大画面で操作しやすいタブレットに対応したクレイドルも

「ドコモ ドライブネット」対応のタブレット用クレイドルが今回、参考出展される。タブレットならスマートフォンより大きい画面サイズだから、さらに見やすく、操作しやすくなるはずだ。地図や渋滞情報だけでなく、グルメや観光情報なども大きい画面で見ることができるのでとても便利に。地図や渋滞情報を見ながら、テレビで紹介されたレストランや観光スポットを探したりといった操作も、画面が大きいからスムーズに使えるし、もちろんキーボードも大きいので快適なタッチ操作が行えて検索もラクラク。

みんなで見られるから家族でお出かけの際にも最適！ そんなタブレット用のクレイドルをドコモブースでぜひチェックしよう。



News 3 人とクルマの関係を変える通信モジュール



クルマとの新しい付き合い方。ドコモのブースには、そんな先進技術の結晶「ＦＯＭＡテレマティクスモジュール」も展示されている。日産自動車から発売されたＥＶ（電気自動車）、「日産リーフ」に搭載されている。その通信機能によってケータイから充電操作やエアコン操作、オペレーターと会話してナビ設定やトラブル対応を頼めるサービスを実現。近い将来には、たとえば「明日は朝７時出発ね」「ＯＫ、エアコン入れておくよ」なんて会話が、クルマとできるようになるのかもしれない。

News 4 ドコモが創る未来のカーライフをブースで体験しよう

ストーリーの始まりのような映像に惹かれ、白を基調とした明るいブースへと足を踏み入れると、ステージには気品のあるグランドピアノ。生演奏の美しい音色に耳を傾けつつ、大画面の映像に描かれる新しい「未来のカーライフ」に浸ってゆく。

「デザイン」や「燃費」といったハード面を中心に進化してきたクルマにドコモの技術・サービスが加わることで、未来の自動車はソフト面でも更に進化が加速していくはずだ。

ナビゲーションシステムの高度化だけでなく、たとえば、ドライバーの走行シーンに合わせて自動的に音楽を配信したり、クルマが歩行者情報を入手することで事故を未然に防いだりなど、未来のカーライフはより便利に、より安全にと、進化していく。

今回の出展では、「ドコモ ドライブネット」などに加え、未来のＩＴＳサービスが分かりやすく紹介されている。

そこから感じるのは、情報でつながる安全な社会の楽しさ、便利さ。クルマ同士、クルマと歩行者、クルマと街が瞬時につながりあう、ドコモが創るカーライフをじっくり体感してみよう。



ブースのご案内

ピアノの生演奏と大画面映像のプレゼンテーションステージイベント

ドコモが創る未来のカーライフを、楽しみながら聞けるプレゼンテーションは約１時間おきに展開される。ぜひのぞいてみよう。（時間や内容は変更になる場合があります）

アンケートに答えてドコモダケグッズをもらおう！

受付で渡されるアンケートに答えると、ドコモダケグッズがもらえます！（無くなり次第終了）



・画像はイメージです。

充電サービスが利用できる

ブースではドコモの携帯電話の充電サービスが用意されているのも嬉しい。
（非対応機種もありますので、ご利用条件など詳しくはドコモブースまで）

※ ご利用には、ドコモ ドライブネット対応機種、ドコモ ドライブネットアプリのインストールとは別に、ドコモ指定の料金プラン（タイプSS バリューなどのご契約）、プロバイダ（spモードまたはmopera Uのご契約）が必要です。機能によりドコモドライブネットサービスのご契約（月額使用料：315円（税込）、ご利用日数にかかわらず日割りされません）、ドライブネットクレイドル 01が必要です。
※ ドコモ ドライブネット提供のため、ドコモはお客様の現在地情報を取得することがあります。
※ アプリのご利用には大容量のデータを送受信し、パケット通信料が高額になるおそれがありますので、定額サービスのご利用を強くお奨めします。
※ 直射日光が当たるなど、機器が高温になりやすい状況下では、ご使用、保管、放置しないでください。
※ ドコモ ドライブネットのご利用にあたっては、ドコモが定めるドコモ ドライブネット利用規約および注意事項をよくお読みいただき、その全ての条件に同意いただく必要があります。
＜運転中のご利用について＞
※ ドコモ ドライブネットアプリを運転者がナビゲーションとしてご利用の場合は、必ずドコモ ドライブネット対応クレイドルに装着してご利用ください。
※ 車内でスマートフォンの操作をする場合には、必ず安全な場所に自動車を停車させてから行ってください。
・本記事のアプリ画像は、「ドコモ ドライブネット powered by カロッツェリア」アプリを掲載しています。
・VICSは、財団法人 道路交通情報通信システムセンターの登録商標です。
・画面および画像はイメージです。
・平成23年11月18日現在

ドコモ ドライブネットの対応機種・ご利用条件などの詳細は、ドコモブースまたはドコモのホームページをご確認ください。

LIXIL ➔ キーワードは「ミッドテリア〜LIXIL NATURE GIFT HOUSE〜」

「いのちもくるまも集う家」ミッドテリアでつながるモビリティのある新しい暮らし

News 1

内と外、人と自然、家と地域…、それらを再びつなぐ。住宅設備機器・建材の総合メーカーであるLIXIL（リクシル）が先人の知恵とハイテクを融合させ、安全・安心・快適な住まいを提供する



かつては厩（うまや）に愛馬をつないで世話したように、ＥＶを玄関先に停めて充電する。菜園からもぎたての野菜を仕分けしたり、ご近所の人たちとお茶を楽しむ空間にもなる。外でも中でもない“ミッドテリア”のある暮らしなら、「ただいま」の声とともに、人と家と自然のコミュニケーションがつながっていく。

そんな光景が浮かぶような今回の展示は、LIXIL（リクシル）の企業理念のひとつとして掲げる、“地球と調和する「暮らしの理性」を創造する”がベースとなったものだ。そこから描かれたキーコンセプトは、「いのちもくるまも集う家」。そこにはLIXILが考える10の要素が具現化されている。家とクルマのしきりを取り除くことで生まれる新たな空間の活用や、自然との調和を考えたさまざまな工夫が施された暮らし方の提案を行っている。

また、これまでにLIXILが協力しているふたつの施設にもその想いは継承されている。東京大学生産技術研究所と共同で、東大駒場リサーチキャンパスに、2020年に広く普及することを想定して建設した実験住宅「COMMAハウス」（写真中）。太陽や風を上手に利用し、エネルギーをかしこくコントロールして、快適に暮らせるスマートハウスを研究する。もうひとつは、北海道大樹町に完成した、隈研吾氏設計の寒冷地住宅環境研究施設「メーム」。アイヌ民族の知恵を活かし、−30℃という厳しい外気温の中、何もしなくても家の中は−10℃まで保温される。これは今までにない、環境に配慮し、ひとにとって真に快適な住まい、環境共生住宅の可能性を研究するものだ。

LIXIL 営業カンパニーの吉田氏は、「日本人は永きに亘り、自然の力を活かした暮らしをしてきました。そこには、さまざまな先人の知恵が受け継がれてきています。私たちが提案するのは、その知恵を最大限に活かしながら、最先端の技術をプラスした、これからの新しい暮らし方です」と話す。

内と外、人と自然、家と地域など二元にわかれていたものごとを、再び「ミッドテリア」がつないでいく。ブースではきっと、“ミッドテリアでつながるモビリティのある暮らし”に、心地よく浸れるはずだ。


(株) LIXIL 営業カンパニー
吉田 格氏


東京大学生産技術研究所と共同で設計した実験住宅「COMMAハウス」


北海道大樹町に完成した隈研吾氏設計の寒冷地住宅研究施設「メーム」。

News 2 「ミッドテリア」と、それを生かす技術や工法で より快適な住まいへ

LIXILが提案する「ミッドテリア」は、内と外を心地よくつなぐ空間として、エクステリアとインテリアの中間に位置する。屋根があれば雨や雪をしのぐことができ、壁で囲わずにそよ風が吹き抜けるような、自然を楽しむスペースがイメージされている。外とつながる開放感と、ホッとできる居心地の良さがほどよく調和したミッドテリアによって、人・家・自然がゆるやかにつながり、モビリティはもっと、人や家と近くなる。

「ガーデン」と「ルーム」が融合したミッドテリア。環境に配慮した素材にこだわり、心地良さを追究する。



ミッドテリアの開放感とくつろぎ感を、いつでも享受できるようにしたのが、日本の家造りの知恵を活用し実現した「外付け可動ルーバー」だ。たとえば、夏の強い陽射しは遮りたいけれど、心地よい風は入れたい。逆に、冬には暖かい陽射しを取り込みたい。そんな時、ルーバーの角度を変えたり、開け放ったりすることで自在に叶えることができる。またルーバーがもつ防犯効果は安全・安心にもつながる。

開口部の外側に縁側空間を設け、その外側に「外付け可動ルーバー」を配置している。



木材の欠点（曲がり・割れ・ヤニなど）を緩和する「ＥＤＳ工法」。炉の中の温度やガス分子、酸素分子をセンサーで制御して材質改良を行う技術で、従来使えなかった樹種も建材として活用できるため、森林環境保全の一役を担うことができる。今回の展示では、防虫、防腐効果に優れたＥＤＳ竹材を使用したミッドテリアのためのキッチンを公開。愛知万博で、ＥＤＳ竹＋トラス構造で巨大ドームを完成した実績を持つ高い技術に注目だ。

ＥＤＳ工法は世界中の様々な樹木に適しており、今回はこれまで有効利用されていなかった竹材が使われている。



News 3 LIXILが手掛ければ、自然と調和する やすらぎのあるテイストに

EVを木材でカスタマイズ

スローモビリティをイメージし、木材でカスタマイズしたＥＶが、ミッドテリアに展示される。



コンパニオンが着物でお迎えします

コンパニオンはひびのこずえさんデザインの着物で迎えてくれる。また、帯の制作は日本で初めて自動車シートファブリックに着手した川島織物セルコンが手掛けた。



LIXILとは

株式会社LIXIL（リクシル）は、住宅を構成するさまざまな部材、設備を製造・開発する住宅設備機器・建材の総合メーカーだ。住宅市場が大きく変化する中、既存の枠組みを超えた総合的なソリューションを提供するため、2011年4月にトステム、INAX、新日軽、サンウエーブ、東洋エクステリアの5社が統合して誕生した。LIXILは新しい価値を創造し、人びとの快適で豊かな暮らしを実現する製品やサービスを届けていく。

ていねいな暮らしを。
LIXIL

RENAULT ➡ キーワードは「FTS戦略―フレンチタッチ・トレンディ・スポーツ」

退屈とは無縁。ルノー車って面白い!

News 1

コアユーザーの心をがっしり掴む、個性的な展示車両が目白押し

フランスのパリ郊外に本拠を置くルノーは、傘下に収めたグループ会社まで含めるとヨーロッパ最大規模を誇る自動車メーカーである。小型乗用車から商用車まで、ベーシックカーから高級車までと、あらゆるクラス、様々なタイプの自動車を世界に送り出している。

それら数多い選択肢の中から、ルノー・ジャポンは“クルマならではの楽しさ”をハッキリと具現化したふたつの路線をチョイスし、日本での展開に力を入れている。

ひとつはスポーツモデル。御存知のとおり、ルノーはF1グランプリと縁が深い。2011年シーズンは、ルノーのF1エンジン部門である“ルノー・スポールF1”が供給するルノーエンジンを搭載したレッド・ブル レーシング ルノー チームが、2年連続でチャンピオンを獲得した。

ルノーの市販車スポーツモデル（R.S.、GT、GTライン）の開発と、フォーミュラカー、ラリーカー、ツーリングカーなどのレーシングマシンの開発は、この“ルノー・スポールF1”と並び立つ開発部門“ルノー・スポール”が手掛けている。つまり、ルノーの市販スポーツモデルには、両者のレーシングテクノロジーが惜しみなく注ぎ込まれているのである。

そしてもうひとつは、日々の暮らしをさらに楽しくしてくれる家族向け多目的自動車、“カングー”の存在。個性的でお洒落なルックスに、豊かで快適なシート周りと遊び心を満載した広い荷室。走らせても楽しいカングーは、家族全員が心から満足できる世界的にも稀有なミニバン（フランスではルドスパス＝遊びの空間と呼ばれている！）だ。



スポーツ系としては「メガーヌ R.S.」。このほか、スポーティ＆ファッショナブルなウインド ゴルディーニ、メガーヌのクーペカブリオレ版でガラスのルーフを持つ、メガーヌ グラスルーフ カブリオレ、またメガーヌGTラインも出展されている。



大人気のカングー。フランスではルドスパス（＝遊びの空間）と呼ばれており、そのスピリットが日本人に響いているのかも知れない。


遊び心とスポーツ性を両立するルノーらしさ。近い将来の小型SUVをイメージしたコンセプトカー、キャプチャーも本邦初公開となる。

ルノー・ジャポンは、スポーツ系モデルを存分に走らせることのできるサーキットイベントや、家族連れがカングーに乗って自然の中でのんびり休日を過ごせる“カングージャンボリー”など独自のイベントを開催し、ルノーファンやユーザーにライフスタイルのあり方を提案している。

今回の展示車両も、そうした方向性に添ったフレンチタッチ溢れるモデルが中心。コンセプトカーの“キャプチャー”はじめ、メガーヌ グラスルーフ カブリオレ、ウインド ゴルディーニ、カングー イマージュといった本邦初お目見えの参考出品車が並んでいる。

東京モーターショーの会場で、ぜひルノーのオモシロさに気づいていただきたい。

BMW ➡ キーワードは「プロジェクトi～持続可能で先駆的モビリティ・コンセプトを開発する」

駆けぬける歓びも持続する。BMW i

News 1

完全なる電気自動車「BMW i3」2種の駆動システムの長所をあわせ持つ「BMW i8」

BMWが発表した持続可能性を追求するサブブランド「BMW i」。今回、会場に展示されている2台の「BMW i」は、いずれもEV／PHV用にブランニューで設計されたもの。

エンジン車をベースにEV／PHV化するのではなく、モーター駆動を前提に新設計することにより、環境性能だけではなく、モーター駆動の車両独自の走行性能も手に入れた。

「BMW i3」ではリチウムイオン電池をアルミフレームの中に抱え込むことで重心を低め、衝突安全性能と十分なボディ強度を確保。その上にカーボン複合材料製のボディを搭載して、万が一の事故の際にも乗員のための空間を確保。軽量化と剛性の確保を両立した。リアに搭載される電気モーターの出力は、すでに市販されているEVと比べて170ps／250Nmと非常にパワフル。



写真左がBMW i8、右がBMW i3。いずれもEV/PHV用にブランニューで専用設計されたというだけあって、未来感にあふれている。BMW流の未来の走りを期待させる2台だ。

一方、「BMW i8」は170psのモーターで前輪を駆動し、220psのターボ付3気筒エンジンで後輪を駆動する。0-100km/h加速は5秒以下、最高速250km/hを確保しつつ、33km/L以下の低燃費を両立。エコを追及しつつ、走りも追求するのがBMW流であり、「BMW i」ブランドの目指す未来の乗り物像なのだ。

News 2

ビス、わずか4本！？自動車ビジネスすべてで持続可能性を徹底追求



BMWでは、調達計画から生産を経て販売・マーケティングに至る全課程でサステイナビリティを推進している。写真はBMWのライプチヒ工場。

「BMW i」がユニークなのは、走行時のCO2排出量を減らすだけではなく、製造に使うエネルギーを減らし、リサイクルしやすい設計を採用し、サプライヤー網まで含めた自動車ビジネスすべてを持続可能に発展させるという壮大なブランド構想の一環である点だ。

「BMW i3」では、カーボン製ボディとアルミ製フレームを留めるビスはわずか4本。それ以外は接着剤で留める。溶接で使うエネルギーも必要なくなる。そのほか、フレーム用アルミの原材料として50％ものリサイクルアルミを採用するなど、自動車の生産方法から大幅に見直してCO2排出量を大幅に抑えた。

「BMW i」は、将来に渡って自動車に乗る歓びを提供するために自動車メーカーとしてどうしたらいいか？ を考えた結果として生まれてきた持続可能なブランドなのだ。

DENSO ➔ キーワードは「つなぐ」。デンソーは人・クルマ・社会をつなぎます

自動車部品の総合メーカーが生み出す新しい価値

News 1 近未来のクルマは もっと楽しく、もっと安全に 「Resonance2021」

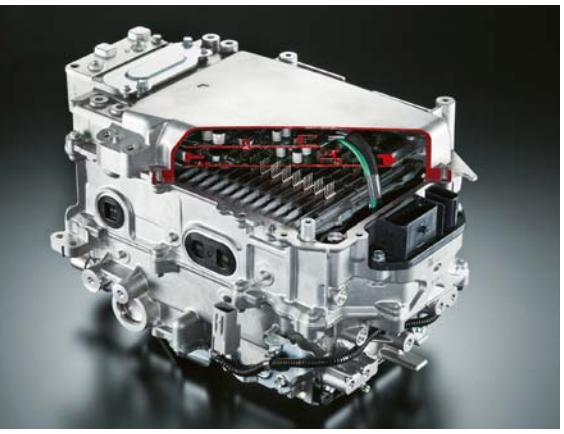


トップシェアのカーエアコンを初め、先進的な自動車技術、システム、製品を世界の主要な自動車メーカーすべてに提供しているデンソー。ショーの目玉は「Resonance（レゾナンス）2021」と呼ばれる体感型コクピットで、人とクルマ、クルマと社会、人と社会を「つなぐ」ことで、近未来のクルマがもっと楽しく便利になり、そして安全性や環境対応へ寄与できることを提言している。

「Resonance（レゾナンス）2021」にはコンダクターと呼ばれるエージェントが組み込まれており、ドライバーのことなら何でも知っている。例えば、食べ物の好みから昨日の食事内容まで把握しており、今日のドライブでのオススメのレストラン情報をきめ細かく最適な形でツイートガイド。

また、車両の情報は他車も含めてリアルタイムでセンターに集約されており、いま走っている場所の状況を把握。混雑していて運転に集中する必要があると判断した際、あるいはドライバーが疲れている場合などは情報提供を控えめにするなどインテリジェントなシステムとなっている。周辺のクルマに搭載されているエージェントとも通信しており、接触や衝突の危険性がある場合にはドライバーに警告を出したり、いざというときには強制的にステアリングやブレーキを操作して致命的な事故を回避。また、クラウドによる最適ルート探索で時間短縮、燃費改善を図るなど「Resonance（レゾナンス）2021」には無限の可能性がある。

デンソーが提案する「つなぐ」によって実現できる自動車の近未来像を、是非ブースで体験してみてほしい。



News 2 「電動化」の時代にこそ デンソーの得意分野が生きる

一方、「電動化への対応」もデンソーの大きなテーマだ。すでにハイブリッドカーの周辺技術、部品などの提供で高い評価を得ているが、さらに電動化が進んでいくと電子機器や熱機器などデンソーの得意分野が生きてくる。

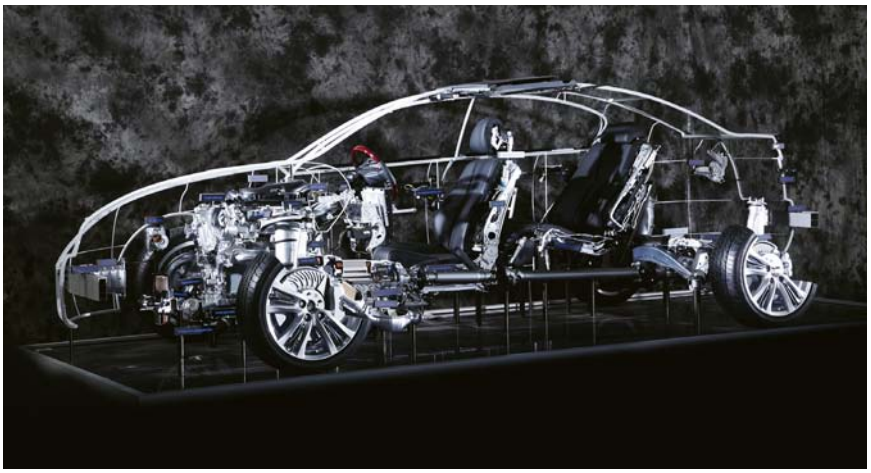
とくに主要部品の一つであるインバーターは発熱が大きく冷却技術が問われるが、創業当時からラジエーター開発で培った経験が物を言う。また、インバーター内部の半導体のエネルギー損失を低減することでそもそもの発熱を抑える研究・開発にも余念がない。

もっとも得意とするカーエアコンでも威力を発揮することになりそうだ。2009年にはトヨタ・プリウス向けに世界初のエジェクタ搭載型カーエアコンを開発。従来と比べてコンプレッサーの消費エネルギーを最大約25%低減させ、脚光を浴びたものの、一般的にはどれぐらい恩恵があるものかわかりにくかった。従来のガソリン車ではカーエアコンの効率が評価の対象になることは残念ながらほとんどない。だが、プラグイン・ハイブリッドや電気自動車など電動化が進んでいくと、カーエアコンの消費エネルギーが「視える化」されてくる。エアコンのON・OFFによってクルマの航続可能距離が変わる。つまり、カーエアコンのトップブランド、デンソーの実力が如実にわかるようになるのだ。

ブースではインバーターや電池監視ユニット、電動コンプレッサーなどが展示され、デンソーの電動化時代へ向けた技術開発に触れることができるようになっている。

AISIN ➔ キーワードは「心躍る気持ちとエネルギーを大切に」

自動車業界を底支えする老舗メーカー 次世代発電システム分野でも大きく躍進



News 1

アイシングループは自動車の基幹部品を一気通貫して開発・生産している。トップシェアを誇るATをはじめ、エンジンおよび周辺機器、ドアハンドルなどの外装部品、カーナビまで実に幅広い製品を提供し、売上は世界ランキングで4位を誇る。まさに自動車業界を底支えするメーカーなのである。

それらの製品群に直接見たり触れたりする機会はなかなかあるものではないが、ワイヤーフレームカーならばどこにどういった部品が組み込まれているかが一目瞭然だ。部品からユニットまでアイシンの幅広い製品が見られるのはもちろんのこと、パワートレインはハイブリッドシステムとなっている。日本が世界をリードするハイブリッドカーの仕組みをじっくり見てみるのも面白い。

また、スポーツカーの走る歓びの源にもなっているマニュアルトランスミッションの基本構成が理解できるカットモデルなども展示されており、メカ好きの心も満足させてくれる。 近年では自動車にとって重要なファクターとなっている燃費性能・環境性能を高めるための製品も見逃せない。ハイブリッドカー関連では、アイシンが得意とするATをベースにモーターを組み込んだ北米商用車向けシステムが最新作。ワイヤーフレームカーのハイブリッド・システムとの違いを知るのも興味深い。

その他、急増する自動アイドリングストップ・システムをサポートする周辺機器、根本的に燃費性能を向上させる車体の軽量化技術など最先端テクノロジーに触れることもできる。

ハイブリッドをベースとしたワイヤーフレームカーでクルマの仕組みを見てみよう

News 2

燃料電池コージェネレーションシステム、色素増感太陽電池など、エネルギー分野も牽引。次世代の発電システムに大きな期待

アイシンは自動車部品以外にも積極的に展開しているが、エネルギー分野に関しても歴史は古い。最近では家庭用のガスエンジンコージェネレーションシステムを発売。コージェネレーションとは電気と熱の両方を生み出すもので、都市ガスやLPGを燃料に発電し、家庭の電力を賄いつつ同時に発生する熱を暖房や給湯に活用。大規模な火力発電所から送電された際には燃料が持つエネルギーの3〜4割しか活かせないが、熱の有効利用によって8〜9割へと飛躍的に向上する。

ブースでは2012年度以降に発売予定の燃料電池のタイプも展示される予定。そう遠くない将来にEVやプラグインハイブリッドが家庭と連携するスマートハウスが実用化されそうだが、そこでも発電システムとして重要な役割を果たすことになるはずだ。

もう一つの注目は開発中の色素増感太陽電池である。これは光エネルギーを電気エネルギーに変換する太陽電池の一種。酸化チタンに色素を吸着しており、透過性があってカラフル。主流のシリコン半導体タイプに比べて低コストと資源の制約がないのが特徴だ。今後、様々な分野への応用が期待されている。



都市ガスやLPGの燃料から電気と熱を生み出すコージェネレーションシステム。熱の有効利用が飛躍的に高まる。家庭用の普及も期待される。

GOODYEAR ➡ キーワードは「Mission to Space with GOODYEAR」

次世代の月探査用タイヤをその目で見てみよう!

News 1



左：グッドイヤーがNASAと共同で開発した次世代ムーンタイヤ。実物はブースで…。下：開発中の次世代月面探査車。ブースでは車両のイメージモックや実際の宇宙服も展示予定。



NASAと共同開発。800本のスプリングを組んだムーンタイヤ

1971年にアポロ14号が月面探査を行ったとき、グッドイヤーはNASA（アメリカ航空宇宙局）の要請を受けて観測機器などを運ぶ小型車両のタイヤを開発した。タイヤにはゴムを使用するのが一般的だが、月面に地球の常識はあてはまらない。なにしろ、昼夜の温度差は約300℃に達するし、大量の放射線を浴びることになるからだ。通常のゴムでは過酷な環境に耐えることはできないと考えられたため、グッドイヤーはさまざまな研究の積み重ねから、月での使用に耐えうる技術を確立し、開発した経緯がある。

それから36年後の2007年、グッドイヤーのもとに再びNASAから依頼が舞い込んだ。次の宇宙探査計画のために、進化版のタイヤを開発してほしいという内容である。要請を受けたグッドイヤーはまず、アポロ計画に使われたタイヤのレプリカを作ってデータを収集し、それをもとに次世代の探査車に適したタイヤを作ろうとした。当時の情報が十分でなかったため、残された書類や当時開発に携わったエンジニアから聞いた話をもとに、レプリカを作ってテストしたという。

新たな月面探査車は、重量がアポロ計画で使用した車両の10倍で、走行距離は2,000kmから1万kmを見込んでいる。そうした過酷な要求に応えるため、グッドイヤーは空気を一切つかわず、大きな荷重や長距離走行に耐えるタイヤを開発した。

それが、スプリングタイヤである。約800本のスプリングを放射状に組み合わせた構造となっており、ゴムを使っていなければ、空気も充填していない。スプリングそれ自体が荷重を支える構造だ。昼夜の温度差はもちろん、宇宙空間から放出される大量の放射能にも耐えうる実力を持つ。

新型のスプリングタイヤを装着した大型宇宙探査車のテストは、すでにジョンソン宇宙センターにある月面を再現したテストコースで実施されており、全てのテストに対し、満足のいく結果を残しているという。一般にゴム製のタイヤは、ゴムの発熱によるエネルギーの消費が大きいのだが、スプリングタイヤは変形時の発熱が小さく、エネルギー消費が少ない。そのため、電池で動く探査車の走行距離を大幅に伸ばすことが期待されている。

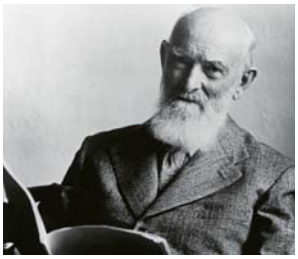
高い悪路走破性もスプリングタイヤの特徴だ。ゴム製空気入りタイヤの場合、1ヵ所でもダメージを受けて空気が漏れると、タイヤとしての基本機能を失ってしまう。それに対してスプリングタイヤは、構造上、一部のスプリングが損傷しても走行を続けることが可能。耐久性、信頼性が大幅に向上した。

スプリングタイヤがもたらす耐久性や信頼性、燃費向上の価値は、月面であろうと地球上であろうと変わらない。シンプルな構造にもかかわらず、現行のゴム製空気入りタイヤが抱える諸問題を克服するポテンシャルを備えており、ひょっとすると未来のタイヤの姿を先取りしているのかもしれない。

グッドイヤーとNASAが共同開発したスプリングタイヤは、革新技術発明のオスカー賞とも評される、2010年「世界の技術発明ベスト100」に選出された。その革新的なタイヤがアメリカから海を渡り、東京モーターショーに展示される。未来を切り拓くタイヤの姿を目に焼き付けておきたい。

Bosch ➔ キーワードは「Invented for life」

クルマの歴史とともに創業125周年を迎える





写真上：創業者ロバート・ボッシュ
中央：神戸イリス商会ボッシュ部と柳生商店本店前のマネージャーと従業員



写真上：1910年のポスター
ボッシュ製マグネトー式低圧点火装置を搭載した60HPメルセデスがレースで優勝。ステアリングを握ったのは当時もっとも有名だったレーシングドライバー、カミーユ・ジェナツィで、彼が赤い髪、赤いマント、ゴーグルをトレードマークとしていたゆえ「レッド・デビル」と称されていたことから、このような図案になったという。

News 1 「信頼を失うくらいなら、お金を失った方がいい」

ボッシュにとって2011年は記念すべき年となった。ドイツ・シュトゥットガルトで創業してから125周年にあたり、創業者ロバート・ボッシュの生誕150年でもある。さらには日本進出から100周年ともなるのだ。

今でこそグローバル化は当たり前だが、ドイツの自動車部品会社が明治時代の日本で活動していたというのは驚きだ。当時はまだ国産車はなかったが輸入車にボッシュの部品が採用されており、修理や手入れ方法を伝授するためドイツから技術者が派遣されていたという。ロバート・ボッシュは「信頼を失うくらいなら、むしろお金を失った方がよい」という信念を持っていたが、それを貫くべく自社製品ユーザーのケアを徹底。それが古くからのグローバル化を促し、世界有数の自動車部品会社へと成長していく原動力となっている。

現代のボッシュは、自動車社会には様々な課題があり、それを解決する技術は3つに大別できると考えている。環境負荷低減と経済性を両立させる「クリーン&エコノミカル」、安全性を高める「セーフティ」、快適でカーライフを充実させる「コンフォータブル」。

環境対応技術に対してはクリーンディーゼルやガソリン直噴システムなどで大きく貢献。また、電気自動車やハイブリッドカー向けの開発にも積極的だ。ABSやESC（横滑り防止装置）など安全装備の普及率を押しあげてきたのもボッシュの功績の一つだが、最近では事故防止のためのアシスト機能の開発が盛んになっている。快適性は「技術によって人々の生活の質を向上させる」というボッシュの企業理念に通じるものであり、未来の交通のためのモビリティソリューションまで含めた包括的な研究・開発が進められている。

125 Years Bosch 1886–2011　100 Years Bosch in Japan | 1911–2011



「クリーン&エコノミカル」「セーフティ」「コンフォータブル」の3つにブースを大別。分かりやすくボッシュの技術を伝える。

News 2 ハイブリッド・システムやドライバー・アシスタンス・システムなど最新技術を、体験しながら理解しよう

ブースでは「クリーン&エコノミカル」「セーフティ」「コンフォータブル」の3つの軸に沿って展示。

それぞれ製品紹介やイメージグラフィックを用いての概要説明などがなされるが、興味深いのは体験型のデモマシーンが設置されていることだ。たとえばハイブリッド・システムのコーナーではエンジン、モーター、バッテリーがどのような仕組みで働いているのかをシミュレーターとして体験できる。エネルギーの流れがわかるのだ。

その他、衝突予知緊急ブレーキシステム、レーンアシストシステム、ディーゼルの排気ガスマネジメントなどのデモマシーンを用意。日本のボッシュで開発した世界初のモーターサイクル専用ABSにも注目だ。

Mitsubishi Electric ➡ キーワードは「みらいにつながる、新しいくるま生活」

総合電機メーカーが描くクルマの未来像がここに!



News 1

体験すれば、未来のクルマをイメージできる。体験型ブースへ行こう!

今年、創立90周年を迎えた三菱電機は自動車事業においても約80年の歴史と伝統がある。オルタネータやスタータ等のエンジン電装品分野。電動パワーステアリング用モータ、ECU、エンジン制御システムおよびデバイス。そしてカーナビやオーディオ等の情報通信技術をベースにしたカーマルチメディア製品を扱い、クルマ社会を大きく下支えしている。

その三菱電機が今回、“つながる（=インテリジェントコネクト）”をキーワードに「EMIRAI」というEVコンセプトカーを出展。同社がこれまでに培ってきたモータ技術、AV技術、宇宙技術（衛星通信）などがクルマに応用されるとどんな世界が広がるのだろう。

例えば、手持ちのスマートフォンで個人認証し、家で見ているテレビやDVDやBlu-rayをそのままクルマでも楽しめるといったふうにホームエレクトロニクスとクルマが通信できたり、外部サーバにアクセスして情報を自在に引き出したり…。クルマの中でも外の世界と簡単に便利に、「賢く」つながることができるという。

ブースでは実際にコンセプトカーやデモ機で未来のクルマを体感できる。クルマの電動化時代を迎え、三菱電機がその技術力を生かして、「つながる」という視点から作りあげたコンセプトカー「EMIRAI」。総合電機メーカーだからこそできる未来のクルマを是非体験してみて欲しい。



ゲーム感覚で未来のクルマを体感しよう!

コンセプトカーでは、スマートフォンで認証してシステムを立ち上げたり、3次曲面に手書き文字を入力して検索をかけたり、デモ機ではアクセルとブレーキの疑似音や信号予測など、様々なことを体感できる。表示装置は家電メーカーなればこその積層ディスプレイを採用。家族や仲間と是非ブースへ行ってみてほしい。

News 2

最新技術を駆使したEVコンセプトカー「EMIRAI」（イーミライ）



優れた環境性能が特徴であるEVカーだが、この分野でも三菱電機はモータやインバータなどの製品で大きく貢献している。加えて、今回のコンセプトカーでは“つながる”をテーマにしたインテリアや居住性にも注目したい。

ドライバーや同乗者が直感的に操作できるよう、3次曲面表示上に手書き予測入力を採用したり、携帯電話による個人認証や顔認識、心拍検知といった生体情報活用技術も盛り込まれている。自分の手や顔や鼓動…。自分とクルマが“つながっている”ことを実感できるに違いない。

「EMIRAI」（写真右）は、EVカーならではの優れた環境性能と情報通信技術が随所に搭載されている未来のクルマの姿だ。また、ブースでは最新のモータ（写真中央）とインバータ（写真左）も参考出品されている。優れた性能とデザイン性を両立させられるのも総合電機メーカーの実力あってこそ、である。

NTN ➔ キーワードは「Earth-friendly NTN - Pioneering Technologies for Tomorrow」

ベアリングのスペシャリストが提案する次世代EV（電気自動車）システム

News 1 クルマに欠かせない重要部品ベアリングと、新たな開発領域

クルマを動かす力の源はエンジン、あるいはモータで、最終的に路面に力を伝えるのはタイヤだが、それぞれの部位がスムーズに動くために重要な役割を担っているのがベアリングだ。

回転する部品に接して荷重を受け止めると同時に、滑らかな回転で摩擦抵抗を減らし、低燃費化に貢献するのがベアリングの役割。ボールを用いる構造に加え、円筒や円すい形状のローラを用いた構造もある。自動車用途では、ハブやトランスミッション、デファレンシャル、エンジン内部の要所に数多くのベアリングが用いられている。

ベアリングは荷重を支え、静かで、滑らかに回転するので運転中にその存在を意識することはないが、その存在があってこそ、クルマ本来の性能が発揮できる。

近年、クルマには一層の軽量化・低燃費化が求められていることはご存知の通り。NTNでも軽量化・低燃費化に対し、様々な提案を行っている。たとえばハブベアリング。形状の見直しやモジュール化により大幅な軽量化が計られている。

さらにNTNではこれまでベアリングで培った技術をベースに、新たな発想で次世代EV用のシステム商品の開発に取り組んでいる。



エンジン、ハブ、サスペンション、トランスミッション、車体、電装補機など、クルマのあらゆる部位に、様々なタイプのベアリングが約150個ほど使われている。なおNTNはハブベアリングで世界ナンバーワンシェアを誇っている。

News 2 インホイールモータ それはNTNの「将来技術の創造」



インホイールモータシステムを搭載した磐田市の公用車



インホイールモータシステム



電動コミュータ用インホイールモータシステム

現在、EVはワンモータ方式が主流だが、その一歩先を行くのがモータで直接車輪を駆動するインホイールモータ方式だ。NTNはインホイールモータにセンサ情報に連動した制御システム（インバータ含む）を組み入れた『インホイールモータシステム』を開発した。

エンジンルーム内にコンポーネントを搭載する必要がなくなるので、高効率・軽量化され、1充電走行距離（電費）が向上すると共に、空間・車体デザインの自由度が大幅に高まる。更に左右輪それぞれの駆動力を制御システムにより調整することが可能で走行安全性が向上する。2011年10月より、NTNが開発したインホイールモータを搭載したコンバートEVが、磐田市（静岡県）の公用車として社会実験に入っている。更に、インホイールモータシステムは買い物などの近距離走行や、高齢者にやさしいタウンカーに適した小型の電動コミュータとしての需要が期待される。

『電動コミュータ用インホイールモータシステム』は、薄型ハブベアリングの採用、減速機やモータの機構を変更することでホイール内に駆動装置を収納した。各輪の独立操舵システムと組み合わせることで、「その場回転」や「横方向移動」などこれまでの乗用車では不可能だった動きが実現できるようになる。

インホイールモータシステムをブースで体験しよう！



NTNブースでは、インホイールモータを搭載した電動コミュータがデモ走行を行い、「その場回転」や「横方向移動」なども実演される。また次世代EV用のシステム商品を、リアルとバーチャルが融合したAR（拡張現実）を用いて紹介するなど、目で見て、肌で感じ、体験できるブースとなっている。ぜひ、ブースへ行ってみよう！

NTNブース：西1ホール W1401

TOKYO SMART DRIVER ➔ キーワードは「コミュニケーションの力で首都高の交通事故を減らすプロジェクト」

「やさしさ」の連鎖で交通事故をなくしたい

News 1

ゆずりあうことが当たり前。それがこのプロジェクトの目指す終着点

右下のマップにあるピンクと白のチェッカーフラッグ、見掛けたことがある方も多いのではないだろうか。これは、「コミュニケーションの力で首都高の交通事故を減らす」というプロジェクトのシンボルマークで、その名も「東京スマートドライバー」。発起人の小山薫堂さんにお話を聞いた。

「首都高では年間1万件以上の交通事故が発生していますが、それらの大半が料金所や合流地点での強引な割り込みなどによるものでした。つまり、原因はドライバー同士のコミュニケーションミス。だったら“お互いにもっと譲り合えれば、交通事故は減るはず”と、アイデアはそこから生まれました。

月に一度、“こうしたら交通事故が減らせるのではないか”というアイデアを持ち寄るスマドラミーティングを開いたり、一般の方から横断幕のメッセージを募集し掲出したり、スリップが原因で交通事故が増える梅雨の時期には、いつも以上に安全運転を呼び掛けるレインスマートドライバー計画を実施したり…。悪い運転を叱るのではなく、良い運転を褒めて回る“ホメパト”を自動車メーカーとのコラボで走らせたりもしています。

“参加するとかっこいい”“自然と参加したくなる”ことを大事にしたのが良かったのか、発足から丸4年が経って、気が付けばスマートドライバーは首都高（東京）を飛び出して、全国へと広がっています。

人にやさしくしたら、ハザードで“ありがとう”と言われてうれしくなる。すると今度は他の人にも勧めたくなる。やさしさの連鎖ですね。楽観的すぎるかもしれませんが、人のやさしさで交通事故が減ると僕は信じているんです。

これからは、トラックドライバーなどのプロドライバーにももっと広げたいですね。プロドライバーであるからこそ高い意識を持ってマナーの先頭を切ってほしい。また自動車教習所や運転免許センターでも、資料やプロモーションビデオで紹介してほしいと思います。

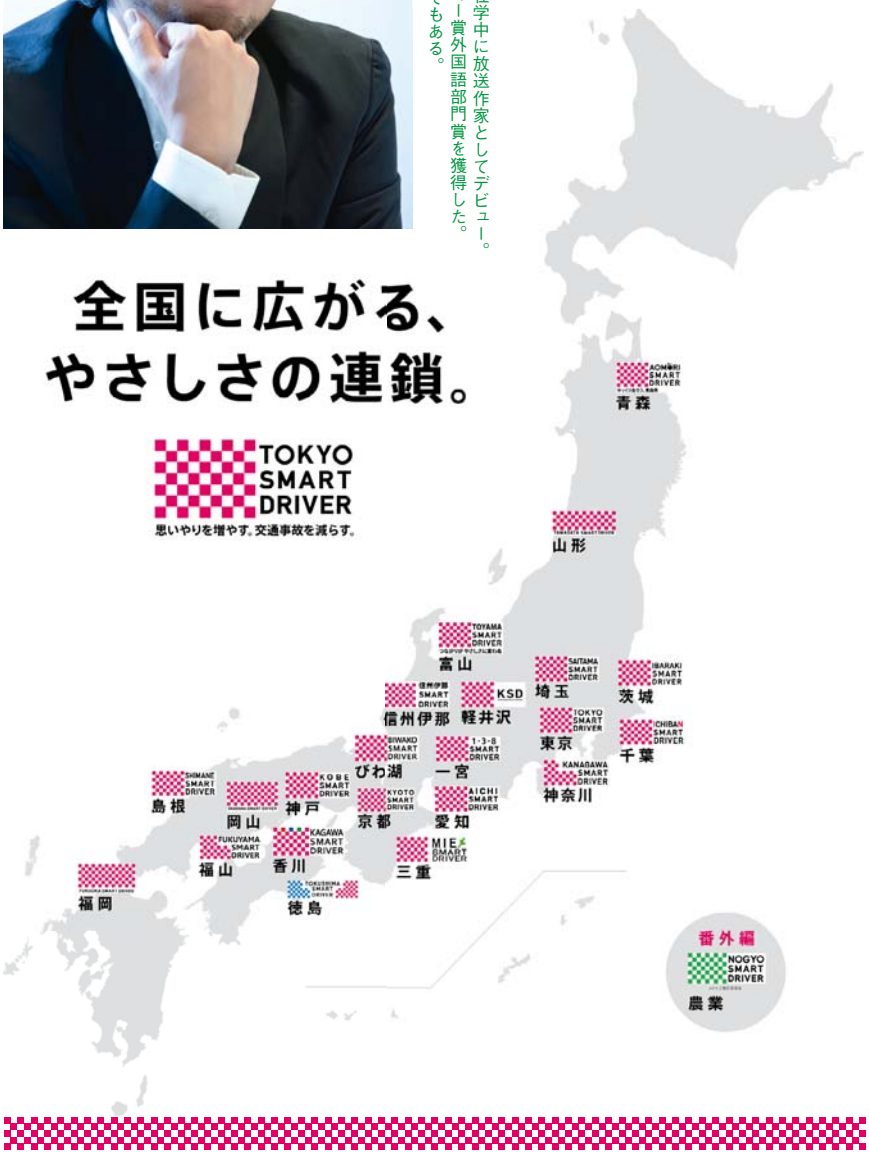
そしていつか、ゆずりあうことが当たり前。そうなることが僕の理想の終着点ですね」。



小山薫堂（こやまくんどう）
放送作家、脚本家。日大芸術学部在学中に放送作家としてデビュー。映画『おくりびと』では米アカデミー賞外国語部門賞を獲得した。大のクルマ好きで、首都高ファンでもある。



6/6～7/23はレインスマートドライバー計画という梅雨時期の交通事故削減キャンペーンを実施。雨の日、首都高での事故が普段の6倍にもなることをご存知だろうか。雨の日こそ、いつも以上に安全運転を意識したい。



東京スマートドライバー
参加の仕方、活動の紹介、ステッカーの申し込みはホームページで！
www.smartdriver.jp　法人でも参加できます。

YAMAHA ➔ キーワードは「あしたらしい風。」

どんな人にも“あしたらしい風。”を届けたい

News 1 2輪車をもっと身近に感じる 4台のコンセプトモデル。 中でも「EC-Miu」に注目



創業以来、製品開発と2輪レースとのかかわりは深く、オートバイレースの最高峰「世界GPロードレース」に参戦を開始してから半世紀。ヤマハはこれまで幾度となく栄冠に輝き、常に最先端の技術を様々な製品にフィードバックし、感動を提供してきた。とは言え、オートバイはパワーやスピードを追求するエキサイティングなシーンを提供するばかりではない。日常を支えるパートナーとしても世界中の人々に愛用されているのである。そしてヤマハの根底にあるのは、2輪車を通じて人々の生活を豊かにしたいという気持ちである。

その代表が今回出展される電動3輪バイクのコンセプトモデル、EC-Miu（イーシー-ミウ）だろう。EC-Miuは前1輪、後ろ2輪の3輪EVコミューター。マルチホイールならではの安心感で、2輪車に乗りなれない女性でも気軽に街へ繰り出せる、コンパクトで優しいスタイリングを持っている。

そんな優しさは環境に対しても同様で、100％電気の力で動くことにより排ガスゼロで移動することが可能。都市部での生活を静かに、そしてクリーンに支えてくれ、風や自然を感じながらのんびり気ままに足を伸ばしたくなる…。乗る人にとって最高のパートナーとして、注目されるだろう。

軽やかで利便性に優れる2輪車生活を提案するヤマハが届けてくれるのは「あしたらしい風。」というメッセージ。その風は、新しい生活と新しい自分を運んでくれるに違いない。

News 2 どんな場所でも、どんな人にも あらゆるシーンで移動の楽しみを提供する

ヤマハが世界に送り出すモビリティの世界はなにも2輪だけに限らない。オールテレインヴィークル（ATV）やスノーモビル、そしてウォータービークルなど様々なカテゴリーに渡りオフロードや雪上、果ては海に至るまで、ありとあらゆるステージに人を連れ出してくれる。

しかもそれはパーソナルな楽しみばかりでなく、機動力や走破力を活かしフィールドワークでも活躍。地球上のあらゆる場所でそのモビリティ性の高さを発揮している。

また、電動アシスト自転車の制御技術を応用し電動車イスを展開。介護の分野でも人々の生活をサポートしている。

世界のさまざまな場所で、人が自由に移動する楽しさを享受できるようにと、生活のあらゆるシーンをヤマハの技術が支えていることを実感していただきたい。

一度乗ったらやめられない… 電動アシスト自転車PAS（パス） に試乗してみよう！



今回のモーターショーでは電動アシスト自転車PASの試乗体験ができます！誰かが背中をスーッと押してくれるような驚きの走りをこの機会に是非、体感してみよう。詳しくはブースで。
＊12/8～12/11開催。









smart

open your mind.



PLUG & PLAY



2012年、スマートの電気自動車が、いよいよ日本へやってくる。

smart electric drive

www.smart-j.com

メルセデス・ベンツブース内、smartスタンドにてオリジナル情報誌"smart STYLE"を配布中。
未来志向のコンセプトカー「smart forvision」も展示中です。
また、東京モーターショー特設試乗コーナー、"SMART MOBILITY CITY 2011"にて、
12/7(水)～11(日)の5日間、smart electric driveが試乗できます。



smart forvision

smart call　0120-656-256　お問い合わせ／9:30～12:00,13:00～17:30

NKSJグループ

街、人、暮らしを、
支え続ける。

日本興亜
since 1892



自動車保険は、「やっぱり」日本興亜。

総合満足度ランキング
代理店系損保
No.1 *2

コミュニケーションの満足度
代理店系損保
No.1

対応の迅速さ
代理店系損保
No.1

24時間365日、どんなときも迅速に対応をしてくれる。*1「事故にあわれた方の気持ちで」しっかり向き合ってくれる。だから、事故解決に向けたアドバイスから病院への連絡、レンタカーの手配まで安心して任せられる。価格.comの「2011自動車保険満足度ランキング」でもみんなの満足度がNo.1。さすが、私の保険。すごく頼りになるんだね。

おかげさまで皆様から高い評価をいただきました。
これからも、より安心できる保険を目指して努力していきます。ご期待ください。

あなたを全力で支える。 日本興亜損保

＊1 事故のご連絡時に、初期対応サービスの要請があった場合。
＊2 価格.comの2011自動車保険満足度ランキングより、代理店系損保（通販系商品取扱損保を除きます）内順位を表示。通販系損保を含めた順位は、総合満足度部門5位、コミュニケーションの満足度部門3位、対応の迅速さ部門4位。このほか、初期対応部門2位（5位）*3、対応の的確さ部門2位（5位）*3。*3（ ）内は通販系損保を含めた順位。
上記以外に保険金の認定満足度部門などがありますが、当社の順位は公表されていません。

Eco-Net約款でECORaTTaを増やそうキャンペーン!!実施中。詳しくはホームページへ。

日本興亜損保は、エコ・ファースト企業です。

ECORaTTa

〒100-8965 東京都千代田区霞が関3-7-3 日本興亜損害保険株式会社 03-3593-3111（代） www.nipponkoa.co.jp

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

日本興亜損保は
第42回東京モーターショー2011を応援しています。

当会場で
限定デザインが
手に入る!

デジモ第一弾
Debut!!

@TOKYO MOTOR SHOW 2011



The Beetle×digimo

現実世界に隠されたザ・ビートルのオリジナルデザインをGETせよ!

デジモの第一弾iPhoneアプリが、ザ・ビートルとのコラボで登場。3Dのデジタルプラモデルを、自分の好きなデザインにカスタマイズできます。位置情報と連動し、さまざまな場所に隠されたオリジナルデザインを探し出そう!
まずは東京モーターショー2011で限定モデルをGET!



App Storeで検索 The Beetle×デジモ

http://mydigimo.com

お問い合わせ先：株式会社インフォバーン info@mydigimo.com

水と生きる SUNTORY

誰かのために働く。

BOSS



サントリー食品インターナショナル株式会社/サントリーフーズ株式会社 のんだあとはリサイクル www.s-boss.com

4DOORのMINI!

西1ホールにてエキサイティングに展示中。



MINI Customer Support 0120-56-5532 WWW.MINI.JP

MINI CROSSOVER. 4DOOR×4WD.

スタンプを集めてオリジナルグッズをゲットしよう!!

第42回東京モーターショー2011

ディズニー/ピクサー「カーズ2」ブルーレイ&DVD 発売記念

臨海副都心スタンプラリー

第42回東京モーターショー2011の開催中の12月3日(土)から11日(日)までの9日間、臨海副都心において東京モーターショーと臨海副都心まちづくり協議会、さらにディズニー/ピクサー「カーズ2」ブルーレイ&DVD発売記念してスタンプラリーを実施しております。

「カーズ2」のオリジナルスタンプを集めて、豪華賞品をGETしよう!

ファーストステージ参加賞

スタンプを4個集めて賞品引換え所へ行くと
「カーズ2」クリアフォルダを
先着10,000名様にプレゼント!



臨海施設内にて1,000円以上お買上げで

Wチャンス賞品(合計100名様)

さらにスタンプの数により
Wチャンス※でスロットに挑戦!!
ステキな賞品がGETできるよ!



レーザーコントロール
ライトニング・マックィーン
株式会社タカラトミー

※臨海副都心エリア施設にて1,000円以上お買上げのレシートを提示。●内容・期間は予告なく変更になる可能性があります。参加賞、Wチャンス賞は賞品がなくなり次第終了ですが、期間中スタンプラリーは実施します。賞品の画像は全てイメージです。お問い合わせ先 TEL 03(3496)3247



12月2日(金)
ブルーレイ
& DVD
新登場!



ライフサイズマックィーンも
モーターショー会場に
やって来る!



©Disney/Pixar

ET² × SCRAP

musicChef × 謎解きスパイゲーム

きみはこの謎が解けるか?

「迷宮モーターショー ～謎の旋律を追え～」



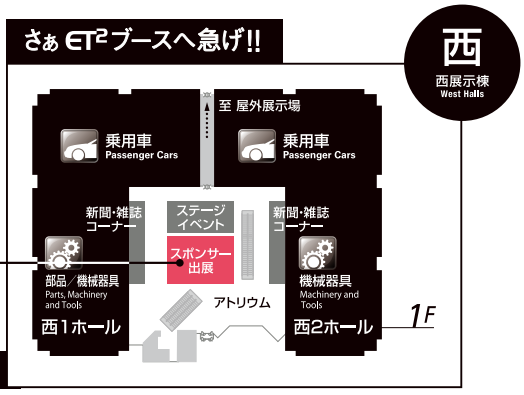
クルマ向け音楽配信サービス「music-Chef」と、5万人以上の動員を誇り海外でも好評を得ているイベント企画会社「SCRAP」が送る体験型謎解きエンターテインメントがタッグを組み、大人も子供も楽しめる新感覚ゲームイベントを東京モーターショーで開催!

Date
2011.12.3 sat > 12.11 sun

9日間 ゲーム受付時間 10:00～18:00

※ただし日曜日は、16:00。最終日は、15:00に受付を終了いたします。
※ゲーム想定時間:1～2時間。受付時間内であれば、何時からでも参加できます。

ET² ブースはこちら



会場西展示棟1Fアトリウム内、「㈱ETスクウェア」ブースにお越しください。

※ このイベントは、実際にあなたがスパイとなって、謎を解くゲームイベントです。

第42回
東京モーターショー2011開幕!!

一般公開2011.12.3(SAT)～12.11(SUN)



新しい『日本』の活力・技術力を国内外に発信

各地に甚大な被害をもたらした3月11日の東日本大震災。自動車産業や製造業も大打撃を受けましたが、震災からの復旧・復興に向けて日本の自動車産業の総力を挙げて取り組んだ結果、短期間で正常化することができました。これにより日本の高い技術力や屈強なサプライチェーン、ハイテク産業の対応力、さらに日本人の勤勉な気質と底力を世界に証明できたと言えるでしょう。

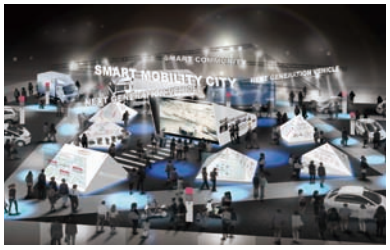
今回のショーテーマは『世界はクルマで変えられる。』"Mobility can change the world."。移動手段としてのクルマは、世界にあるさまざまな問題の解決手段となりつつあります。私たちはクルマ社会の未来を明るく、大胆に、世界に向けて発信していきます。何より来場者の笑顔が、日本全体の復興を世界中にアピールすることとなるでしょう。さあ、『第42回東京モーターショー2011』の開幕です!

会場内外ではさまざまなイベントが行われています

世界一の〝テクノロジーモーターショー〟を目指して

SMART MOBILITY CITY 2011

主催者テーマ事業として第42回東京モーターショー2011の会場内で開催。『次世代自動車とそれを取り巻く社会システム』を提示します。自動車メーカーはもちろん、エネルギー、住宅、家電、通信、ITSなど、業界の垣根を超えてさまざまなメーカーとともに『人とクルマと都市の未来』を描き出していきます。



テストライド（体験試乗会）

西展示棟4Fの屋上展示場では自動運転デモンストレーションや次世代自動車の同乗試乗会、次世代二輪車の試乗会。西4ホールではパーソナルビークル試乗会を実施します。



※図はイメージです

CEATEC JAPAN 2011とタッグ

IT・エレクトロニクス産業の展示会、CEATEC JAPANと連携。『チーム・テクノロジー・ジャパン』として、東日本大震災からの復旧・復興のメッセージを共同で発信しています。

TEAM TECHNOLOGY JAPAN
CEATEC JAPAN & Tokyo Motor Show

被災地の復興支援も

日本自動車工業会会員メーカー全14社とユナイテッドアローズのコラボレーションTシャツを限定販売。収益金を東日本大震災の復興支援のために寄付します。また、廃棄される車体の部品をファッション商品として蘇らせたリサイクルグッズや、車内のプライベートタイムを快適にするオリジナル&セレクトグッズなども販売します。



家族連れ、女性、子どもも楽しめる

SMART MOBILITY CITY 2011ではパナソニックセンターと連携したキッズワークショップを開催。またソープボックスダービーではモックカーの工作とタイムアタックを体験。タカラトミーによるトミカコーナーの設置など、あらゆる世代に楽しんでいただける企画を多数用意してみなさまをお待ちしています。



地元とともに盛り上がる

24年ぶりに東京開催となることを契機に臨海副都心まちづくり協議会と協力し、ディズニー映画『カーズ2』のスタンプラリーを実施します。周辺商業施設や店舗でスタンプを4か所集めるとオリジナルグッズをプレゼント。また会期中の12月3日、10日の土曜日にはお台場レインボー花火2011も実施されます。



多くの媒体ともコラボレーション

東京モーターショー期間中は多くの媒体とのコラボ企画も実施。屋外駐車場にはフジテレビの連動企画として『めざましテレビ』がサポートするグルメフードコート「ワールドフード カップ」を設置。またリクナビ編集長・岡崎仁美さんによる自動車業界を中心とした就職活動事情の講演やラジオタイアップ企画など、さまざまなイベントを実施します。







WORLD FOOD CUP

女性著名人4名からコメントをいただきました

クルマが変えられる世界。私たちも考えています

クルマやオートバイを楽しむ女性が増えているのは私たちにとってとても嬉しいこと
『第42回東京モーターショー2011』開幕にあたり、クルマ＆オートバイを愛する美女4名からのメッセージをお届けします

COMMENT-1

目標になるクルマをいつまでも作ってほしい



バイオリニスト
高嶋ちさ子さん

クルマは見た目も重要ですが、一番大事なのは安心してハンドルを握れること。死角の多いものやブレーキが深めなタイプはちょっと苦手です。初めてハンドルを握った18歳から人生は第二ステージに入ったような気がしています。「タクシーで移動したほうが楽でしょう」とも言われますが、自分で運転することで街を細部まで知ることができるのが嬉しいんですよね。天気がいい日は遊び道具を好きなだけクルマに積み、子どもと遊びに出かけます。私と子供にとって車内は大切な場所。好きなお友達や今一番嫌いなことなど、いろいろな話をしていますよ。

女性、とくに母親はクルマを楽しむ余裕がなかなかもてないもの。どうしても道具として一番便利なものを選んでしまいがちです。でも私は不便を承知でカッコよさをとる気持ちも大切にしたい。そこで今でも一台はMT車を置くようにしています。これからも「あれに乗るために頑張る！」と思えるクルマが出てくることを望んでいます。

COMMENT-2

IT化でクルマに相談できたら面白い！



タレント
森下千里さん

クルマ選びでは、スタイリッシュさとアクセルを踏んだ時の爽快感を大切にしています。私自身、クルマに乗るようになってからものすごく活動的になりました。運転中は嫌なことが頭に浮かばなくなるので、クルマのある生活は心も体も健康にしてくれているのだと感じています。一方で渋滞にはまるとイラッとしてしまうことも……。そんなときは、「クルマに羽根が生えて飛んでいけたらいいのに」なんて思ったりします。きっと誰もが一度は考えたことありますよね（笑）。

私が最近注目しているのは『クルマのIT化』。常時ネットに繋がっていていつでも新鮮な情報が飛び込んできたらすごく便利だし、クルマ自身が話し出して、走る道やレストランを相談しながら決められるようになったら面白いなって思います。夢が広がりますね。

多趣味な私にとって、クルマはライフスタイルから考え方まで、すべてを変えてくれた大切な友人です。これからも多くの人が楽しく素敵なカーライフを過ごせますように。



エッセイスト
国井律子さん

COMMENT-3

オートバイは魔法の乗り物 多くの人に楽しんで欲しい

オートバイは単調な移動をドラマティックに変えてくれる、魔法の乗り物。誰もが今まで味わったことのない感覚を肌で感じることができます。季節の移ろい、潮の匂いや初夏の匂い、もうすぐ雨が降りそうな匂いなど、匂いにさまざまな種類があることもわかります。オートバイに乗ることによって、自然、旅、人間、日本という国が大好きになるはずです。そしてオートバイは全世界の『共通言語』。イタリア語が話せなくてもそこにオートバイがあるだけでシチリア島のバイク好きとコミュニケーションが取れるのですから。そんな楽しい乗り物をひとりでも多くの人が味わって、趣味の大切さを共感できれば思います。



モデル
道端カレンさん

COMMENT-4

いつの時代でも憧れる 上質さをなくさないで

時代の主流であるエコなクルマはこれからも外せませんね。今後は排出ガスだけでなく、空気清浄機のように走るだけで周囲の空気もキレイにしてくれるような仕組みが生まれてほしいです。

エコはとても大切ですが、私にはもうひとつ失わないでほしいものがあります。それは『夢』や『ステイタス』。上質さは流行とは関係なくいつの時代も憧れるものですよね。「高いお金を出してでも欲しい」と思えるような、価値のある高級車が生まれてほしいです。車内の密接な空間はセクシーだし、好きな相手と親密になれるシチュエーション。夢のようなクルマで素敵なドライブを楽しみたいですね。

12月3日(土)にはさまざまなイベントが

オープニングパレード

東京モーターショーの開幕を心待ちにしてくださっていた多くのファンのために、一般公開日初日となる12月3日(土)、朝9時から夢の大橋(センタープロムナード)にてオープニングパレードを実施します。このパレードはテリー伊藤さんがゲストとして参加します。

各社の話題車・人気車約50台が繰り広げるパレードラン。その先頭は日本自動車工業会会員の自動車メーカートップが自ら運転して走ります。石畳の美しい道を人気のクルマやバイクが朝日を浴びながら走る姿を間近で見られるのはもちろん、日本の自動車産業をけん引するトップたちが参加することで、日本の復興・日本人の底力を日本中の自動車ファン、そして世界にアピールしていきます。

24年ぶりの東京開催となる第42回東京モーターショー2011を印象付ける華々しいパレードになることは間違いありません。



開催時刻は9:00〜10:00。夢の大橋(センタープロムナード)にて

トップによるトークセッション

東京モーターショーの新しい試みとして、自工会正副会長会社5社のトップに大のクルマ好きとして知られる演出家のテリー伊藤氏を交えたトークセッションが実施されます。日程は12月3日(土)の11時から。場所は東京ビッグサイト西展示棟のアトリウム内ステージになります。

自身が好きだった思い出のクルマや、『耳カー』が各所で集めた一般の人のクルマに対する要望や期待などの声にも答えるなど、さまざまなテーマで語り合うことで、来場者とのコミュニケーションを深めていきます。

テリー伊藤さんのトークに各メーカーのトップはどこまで本音で語るのか? このイベントを見た人たちがメーカーや各社のトップに親近感を抱くような内容になるはずです。



情報番組などでコメンテーターとしても活躍する演出家のテリー伊藤さんがみなさんの本音を引き出します



日産自動車株式会社
代表取締役 最高執行責任者
志賀俊之氏



トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長
豊田章男氏



本田技研工業株式会社
代表取締役 社長執行役員
伊東孝紳氏



三菱自動車工業株式会社
取締役社長
益子 修氏

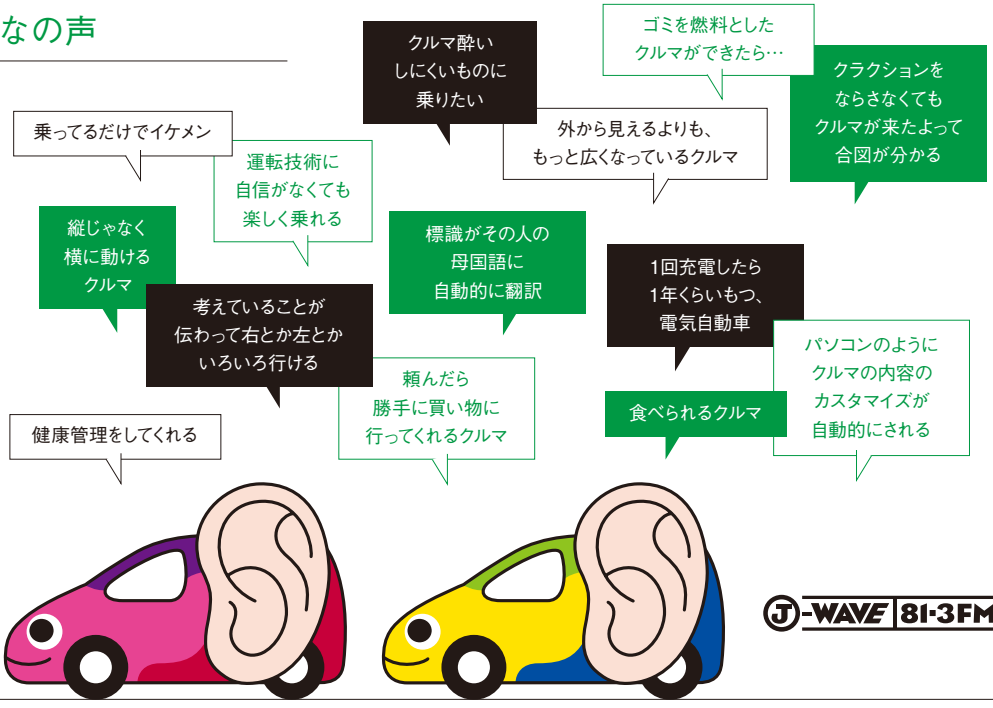


マツダ株式会社
代表取締役会長兼社長
山内 孝氏

なかなか接することができない各社のトップたちの生の声を聞けるチャンスとなるトークセッション。どんなコメントが飛び出すか楽しみにしていてください

耳カーが集めたみんなの声

東京モーターショー開催にあたり、巨大な耳をつけた『耳カー』が街の人の声を集めました。このイベントはFMラジオ局TOKYO FMとJ-WAVEとのタイアップキャンペーン。テーマは『どんなクルマが世界を変える?』。すぐに実現可能なものから奇想天外なアイデアまで、西展示棟アトリウム内において耳カーの展示とともにみなさまからいただいた声も公開しています。



Hello, I'm "耳car"
www.mimicar.jp

80. Love TOKYO FM

J-WAVE 81.3FM

松本零士、22世紀のクルマのある風景

東京モーターショーニュースは日刊です。松本零士氏の表紙イラストは会期中毎日変わります。お楽しみに!



11.30

地下トンネルを高速で走り抜けるクルマたち。車線という概念はなくなり上下左右に行き交うが、レーダーが一定の距離を取って安全を確保する



12.01

乗車定員が300人超となった大型バス。車室内の快適性とステーションの利便性から多くの人が利用する。走行制御はコントロールラインによる



12.02

街灯に装備されるガイドアンテナにより浮上制御されるシティコミューター。ボディ下部の二つのフロートには高機能タイヤが格納されている



12.03

ドライバーがクルマのコントロールレバーに触れるのは車庫入れや路地走行時のみ。ナビゲーションに話し掛ければ自動制御走行が可能になる



12.04

反重力浮上機構により橋のない河川も渡ることができるバイクは、気軽な乗り物として普及している。タブレットで仕事をしながらの帰宅も可能



12.05

20世紀のクルマへの憧憬も根強くレトロデザインは大切にされる。金属風バンパーや溝付きタイヤなどもドレスアップアイテムとして人気に



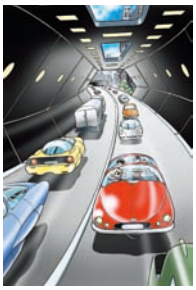
12.06

山岳地帯を走り抜ける大型トラック。反重力浮上機構は路面の状態を選ばないため、未開拓地での走行も自在。積載物が重いほどパワーが出る



12.07

シニア電動カートで高速道路を安全に走行できるように。キャノピーは簡単に取り外しが可能で、コンビニなどにもこのまま入ることができる



12.08

すべての自動車が自動制御されるため渋滞がなくなる。反重力浮上機構は電磁波ではないため、もちろん人体への悪影響はまったくない



12.09

水平ジャイロと垂直スタビライザーが装備されたクラシックタイプのバイク。スタビライザーには障害物センサーが組み込まれ衝突を回避する



12.10

救急車は患者搬送を優先して路上走行機能がデフォルトとなっている。医療設備は車内で手術が出来るほど充実。サイズは大型だが小回りがきく



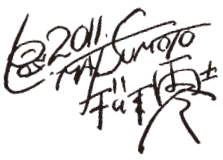
12.11

キャタピラーがないクレーンを運ぶ輸送車。反重力浮上機構をネガティブに使用すれば重量以上に安定するため建設機材もどんどん軽量化される



まつもとれいじ

漫画家。福岡県久留米市生まれ。16歳の時に雑誌「漫画少年」の第1回長編漫画新人賞を受賞。代表作は「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」、「宇宙海賊キャプテンハーロック」など多数。日本宇宙少年団理事長、宇宙航空研究開発機構参与などを歴任。



誰もが安全性と利便性を享受できるモビリティ社会に!

19世紀に発明されて以来進化を続けてきた自動車だが、21世紀の終わりにはモーターなどが発生する回転エネルギーでタイヤを回すという考えはなくなり、空気との摩擦や熱エネルギーを取込むことで永続的な推力を獲得できるようになっていた。そして22世紀には位置エネルギーを蓄積して利用することが可能になる。そう、「反重力浮上機構」の完成である。そのアイデアはいたってシンプル。つまり地球のもつ重力と太陽系惑星の重力をバランスさせることで物体を浮上させるという発明である。その機構を自動車にも利用可能とした最大の要因はボディの軽量化である。金属ではなく紙や草などに特殊な樹脂を混合することで耐熱性が高く弾力性のある素材が開発された。この素材はどんな形状にも成型することが可能。塗装の必要もなく特殊なフィルムをラミネートさせれば紫外線を遮ったり夜でも昼のような明るさにしたり様々な効果を生み出す。またボディに装備されるタイヤは、たとえば路地走行や車庫入れ時に車体を安定させるために使用するが、緊急時や震災時における安全性確保としての機能はさらに進化していた。

反重力浮上機構の発明により大幅に簡便化されたのは道路舗装である。道路はアスファルトやコンクリートで舗装するという概念はなくなりコストも圧縮。自然を痛めつけることも少なくなった。必要になってきたものは道路に埋設させた「コントロールライン」や道路照明灯のような「ガイドアンテナ」である。反重力浮上機構は時に橋梁さえも必要としない。もちろん船ではないので海上に浮かぶ構造はもたないが、数キロ程度ならば水上でもスムーズに走り抜けることができる。

自動車の操作自体は完全なオートマチックであり乗員が行うことはたった一つ。それはナビに「話しかける」ことである。ナビゲーションに目的地を伝えれば最適なルートを割り出して安全に送り届けてくれるが、もちろん自動運転を解除すれば「走る楽しさ」も存分に堪能できる。操作テクニックの優劣はハンドル、ブレーキ、変速といった一連の操作ではなく、センサーに読み込まれるドライバーの脳波イメージで決まってくるもの。もちろんマニュアル運転でも安全性が完全に確保されていることは言うまでもない。

大型輸送手段も含めて大きく変化した22世紀のモビリティは、安全かつエコ、そして人間らしい楽しみを与えてくれるプロダクトとして、大きな社会的役割を果たし続けてくれているのだ。

本誌表紙イラストの2012年カレンダー発売中

会場内オフィシャルグッズショップにて発売中。630円(税込み)。このカレンダーの販売収益金は東日本大震災支援金として寄付させていただきます。

プレスブリーフィング・スケジュール

11/30 wed.

時間	出展者名	場所
	東展示棟	
08:30 – 08:45	マツダ *MAZDA*	東1·2
08:45 – 09:00	日産 *NISSAN*	東2·3
09:15 – 09:30	ルノー *RENAULT*	東2
09:15 – 09:30	スバル *SUBARU*	東3
09:30 – 10:00	メルセデス・ベンツ／マイバッハ／スマート／AMG *MERCEDES-BENZ / MAYBACH / smart / AMG*	東3
10:00 – 10:15	三菱ふそう *MITSUBISHI-FUSO*	東2·3
10:00 – 10:30	ホンダ *HONDA*（四輪+二輪）	東5·6
10:30 – 10:45	三菱 *MITSUBISHI*	東4
10:45 – 11:00	フォルクスワーゲン *VOLKSWAGEN*	東4·5
11:00 – 11:15	アウディ *AUDI*	東4
11:15 – 11:30	ポルシェ *PORSCHE*	東4
11:30 – 11:45	ロータス *LOTUS*	東5
13:45 – 14:00	スズキ *SUZUKI*（四輪+二輪）	東5
14:00 – 14:15	川崎 *KAWASAKI*	東5
14:15 – 14:30	ヤマハ *YAMAHA*	東5·6
	西展示棟	
11:30 – 12:00	トヨタ／レクサス *TOYOTA / LEXUS*	西2
12:00 – 12:15	ダイハツ *DAIHATSU*	西2
12:15 – 12:30	BMW *BMW*	西1
12:30 – 12:45	MINI *MINI*	西1
12:45 – 13:00	アルピナ *ALPINA*	西1
13:00 – 13:15	プジョー *PEUGEOT*	西1
13:15 – 13:30	シトロエン *CITROËN*	西1
13:30 – 14:00	ジャガー／ランドローバー *JAGUAR / LAND ROVER*	西1

12/1 thu.

時間	出展者名	場所
	東展示棟	
09:15 – 09:30	コンティネンタル *Continental*	東3
09:35 – 09:50	シェフラー *Schaeffler*	東3
09:55 – 10:10	ボッシュ *Bosch*	東3
10:15 – 10:30	カンパーニャ *Campagna Motors Japan*	東3
10:35 – 10:50	ブリヂストン *Bridgestone*	東2
10:55 – 11:10	横浜ゴム *The Yokohama Rubber*	東2
11:15 – 11:30	住友ゴム *Sumitomo Rubber Industries*	東2
11:35 – 11:50	トヨタ車体 *Toyota Auto Body*	東2
11:55 – 12:10	ヒュンダイ *HYUNDAI*	東1
12:15 – 12:30	いすゞ *ISUZU*	東1
12:35 – 13:10	UDトラックス／ボルボトラックス *UD Trucks / VOLVO Trucks*	東1
13:15 – 13:30	日野 *HINO*	東1
13:15 – 13:30	ラディカル *Radical Sportscars*	東4
13:35 – 13:50	テイ・エス テック *TS Tech*	東4
13:55 – 14:10	トヨタ紡織 *Toyota Boshoku*	東5
14:15 – 14:30	三菱電機 *Mitsubishi Electric*	東6
14:35 – 14:50	日立オートモティブシステムズ *Hitachi Automotive Systems*	東6
14:55 – 15:10	デンソー *Denso*	東5
15:15 – 15:30	矢崎総業 *Yazaki*	東6
15:35 – 15:50	豊田自動織機 *Toyota Industries*	東6
	西展示棟	
09:15 – 09:30	NATS 日本自動車大学校 *Nihon Automobile College*	西3
09:35 – 09:50	興和テムザック *Kowa Tmsuk*	西3
09:55 – 10:10	高山自動車 *Takayama Cars*	西3
10:15 – 10:30	スマイルパーク／サニーサイドカレージ *Smile Park / SunnySide Garage*	西3
10:35 – 10:50	SMC2011実行委員会 *SMC2011 Steering Committee*	西4
10:55 – 11:10	LIXIL *LIXIL*	西4
11:15 – 11:30	ecomo *ecomo*	西4
11:35 – 11:50	SIM-Drive *SIM-Drive*	西4
11:55 – 12:10	LPガス自動車普及促進協議会 *Japan LPG Vehicle Promotion Association*	西4
12:15 – 12:30	インターネットITS協議会 *Internet ITS Consortium*	西4
12:35 – 12:50	東レ *Toray Industries*	西4
12:55 – 13:10	トヨタ *TOYOTA*	西4
13:15 – 13:30	旭硝子 *Asahi Glass*	西4
13:35 – 13:50	日立製作所 *Hitachi*	西4
15:55 – 16:10	アイシングループ *Aisin Group*	西1
16:15 – 16:30	NTN *NTN*	西1
16:55 – 17:10	日本発条 *NHK Spring*	西1
17:15 – 17:30	ジャトコ *Jatco*	西1

みなさまの取材に
『プレスサービス』をご活用ください

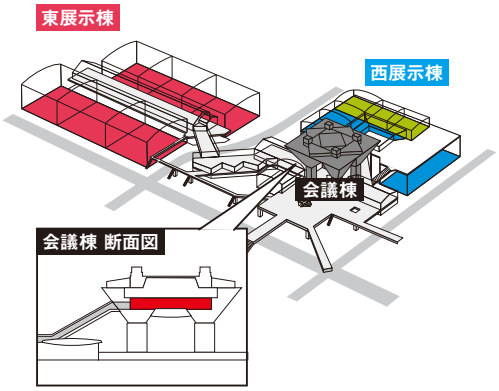
会議棟6階のプレスセンターでは、すべてのワークデスクにLANケーブルを配置、無線LANもプレスセンター内からアクセス可能です。またデジタル写真の加工および送信・DVDの焼付（セルフサービス）などが可能なフォトグラファーデスクも設けています。ご登録いただいたプレスカードのデータ管理システムにより、入場や各種サービスもスピーディーにご利用いただけます。

主な設備 ［11月30日(水)、12月1日(木)］

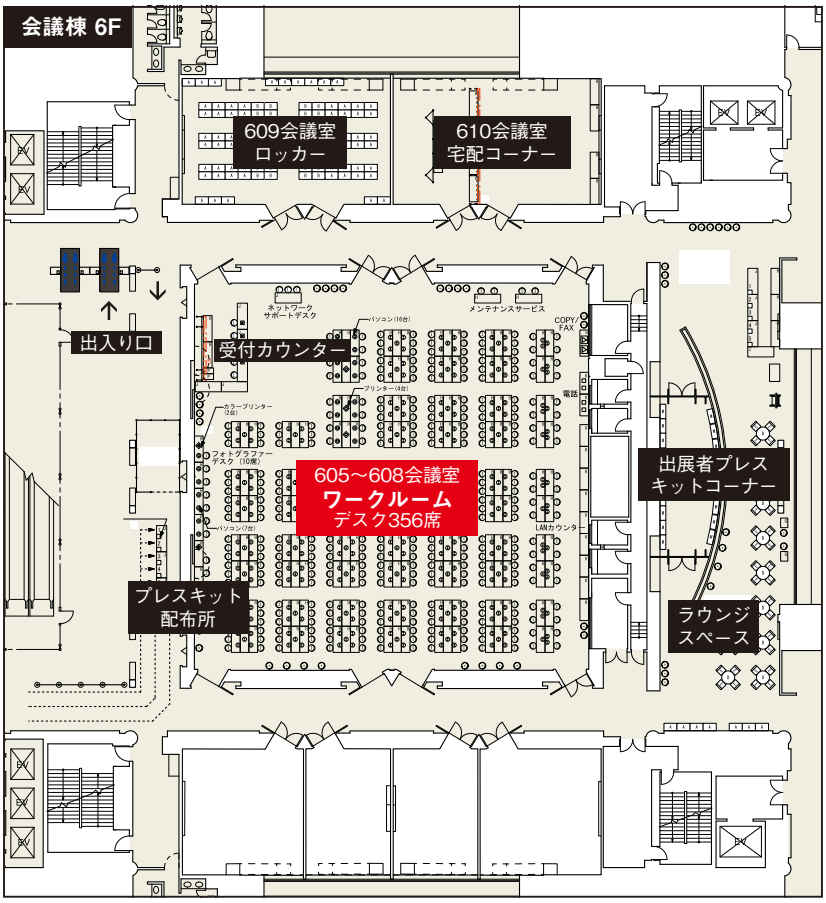
□ワークデスク：計356席（全席禁煙）
□フォトグラファーデスク：計10席
□ラウンジ：計36席　□ロッカー：624名分
□パソコン：24台　プリンター：6台
　フォトカラープリンター：2台
　コピー・FAX複合機：4台　電話：6台

主なサービス

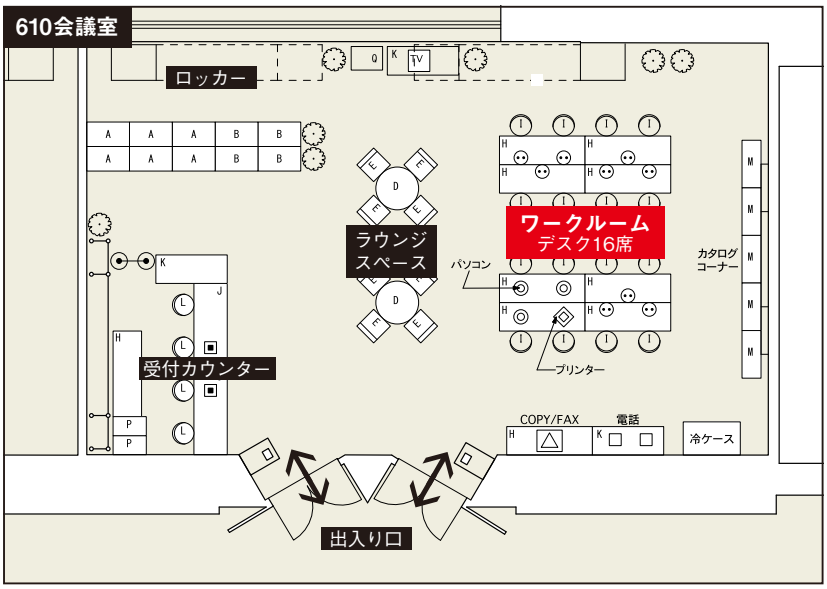
□HUB（LAN回線に接続するもの）全席対応
□カメラメンテナンスサービス
□プレスブリーフィング録画DVD閲覧サービス
□国内／海外宅配便の発送サービス
　（お一人様一回無料<20kgまで>）
□ドリンクサービス
□カタログ棚へ各社のプレス資料を配架



プレスセンター プレスデー ［11月30日(水)～12月1日(木)］



プレスセンター 特別招待日／一般公開日 ［12月2日(金)～12月11日(日)］






① ホテル日航東京 レストラン・バーご利用10％OFF！

台場駅直結でリゾート感覚あふれる全室バルコニー付の「ホテル日航東京」。ホテル内にはレインボーブリッジや東京タワーなど、〝The東京〟の景色を一望できるレストラン・バーが揃います。その全10店がご利用時10％OFF でご提供！

営業時間 ランチ11:30～14:30　ディナー17:30～21:30
※一部店舗によっては異なります。

交通手段 ゆりかもめ［台場］駅直結
りんかい線［東京テレポート］駅徒歩10分




② アクアシティお台場 メディアージュ 「ナイスクーポン」プレゼント！

お台場海浜公園隣接の東京リゾ－島「アクアシティお台場 メディアージュ」。館内インフォメーションカウンター（～21:00）で本誌を提示すれば館内で使える「ナイスクーポン」がもらえます。
※詳細は「ナイスクーポン」をご覧ください。

営業時間 物販・フードコート11:00～21:00／飲食11:00～23:00
メディアージュ11:00～23:00（土曜日のみオールナイト）

交通手段 ゆりかもめ［台場］駅徒歩1分
りんかい線［東京テレポート］駅徒歩6分




③ デックス東京ビーチがまるごとおトク！ 「DECKS プレミアム カード」プレゼント！

エンターテインメントスポット「デックス東京ビーチ」。本誌をシーサイドモールのインフォメーションカウンター（～21:00）で提示すれば「DECKS プレミアム カード」をプレゼント。今話題のマダム・タッソー入場料も20％OFF！ ※詳細は「DECKS プレミアム カード」特典一覧をご覧ください。

営業時間 ショップ11:00～21:00／レストラン11:00～23:00
東京ジョイポリス10:00～23:00（最終入場22:15）

交通手段 ゆりかもめ［お台場海浜公園］駅徒歩2分
りんかい線［東京テレポート］駅徒歩5分




④ ホテル グランパシフィック LE DAIBA レストラン・バー全店10％OFF！

東京都心から15分のシティリゾート。東京タワーや東京スカイツリー®などの眺望が魅力の「ホテル グランパシフィック LE DAIBA」。和洋中に鉄板焼、カフェからバーまで最上の空間でお出迎え。本誌提示で館内飲食7店が10％OFF！

営業時間 ランチ11:30～14:30　ディナー17:30～21:00　バー：～24:00
※詳細は店舗によって異なります。

交通手段 ゆりかもめ［台場］駅直結
りんかい線［東京テレポート］駅徒歩10分




⑤ フジテレビ 球体展望室「はちたま」入場料20％OFF

フジテレビのシンボルである球体展望室－その名も「はちたま」。期間中本誌を提示すれば「はちたま」入場料を20％OFFいたします。この機会に地上123.45mの高さから臨海副都心エリアを270度見渡せる大パノラマをぜひお楽しみください。

営業時間 10:00～18:00　入館は営業時間終了30分前まで
月曜日を除く毎日開館

交通手段 ゆりかもめ［台場］駅徒歩3分
りんかい線［東京テレポート］駅徒歩5分




⑥ 台場フロンティアビル 館内店舗でおトクな割引実施中！

ドリンクバー無料や3名利用で1000円引など、館内各店では皆様のために工夫を凝らしておトクを用意。詳細は各店入口でチェックしてください。また、シェルミュージアムではShellやFerrariのグッズが全品10％Off！

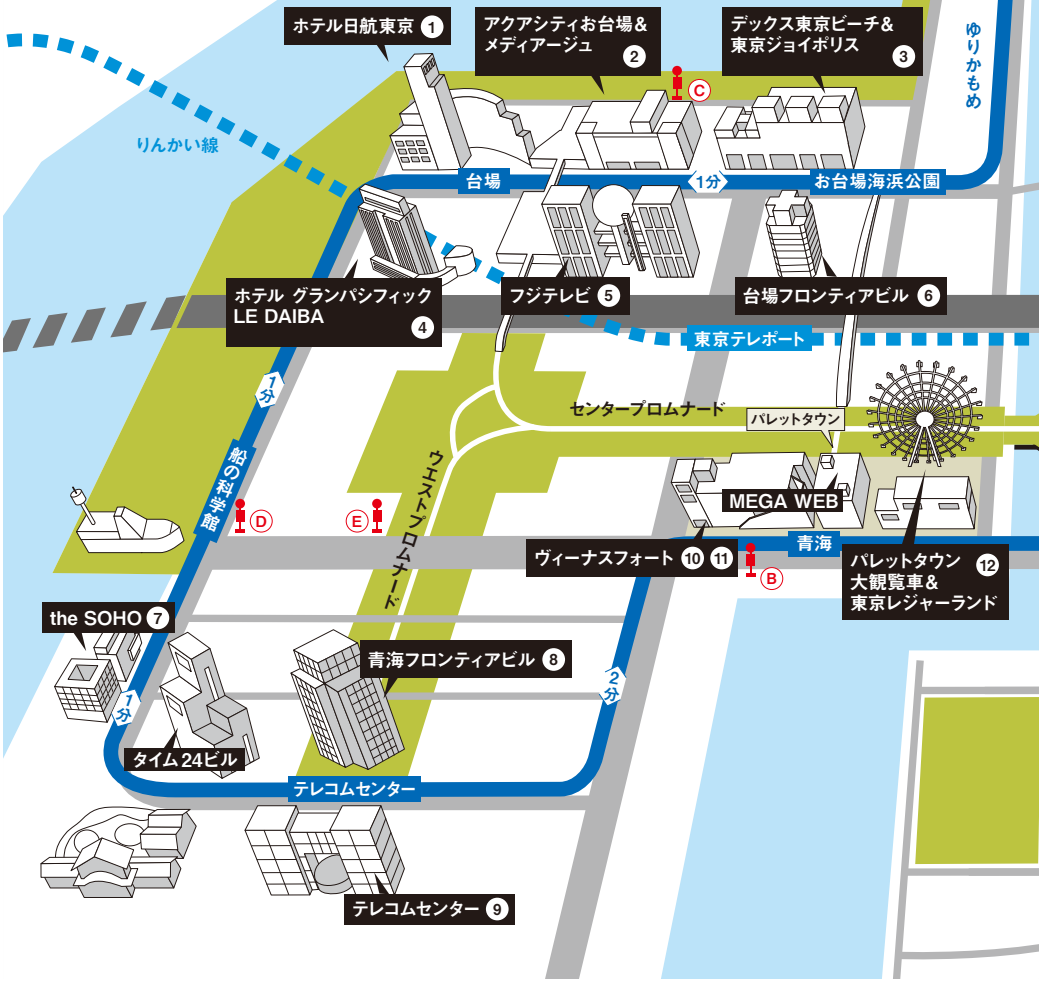
営業時間 ［笑笑］17時～5時／［クルックスカフェオ］7時30分～19時 土12時～18時 日休／［Tokyo串家］11時～15時／17時～23時 日休／［シェルミュージアム］10時～20時 日祝11時～18時 土休

交通手段 ゆりかもめ［お台場海浜公園］駅徒歩1分
りんかい線［東京テレポート］駅徒歩3分

東京モーターショーニュースを見せるだけ！

臨海副都心エリアお得MAP

東京ビッグサイトがある臨海副都心地区には多くのお楽しみスポットがあることは皆さんもご存知の通り。
そのスポットを運営している各社が、来場者の皆さんのためにお得サービスをたくさん用意しています。
いわば街をあげてのおもてなし。この機会にぜひ東京モーターショーと一緒に楽しんでください。






⑦ the SOHO カフェ&ダイニング 「the Canteen」ランチ・ディナー利用時OFF！

デザイン性に優れ世界でも類を見ない世界最大級のSOHOオフィスビル「the SOHO」。1Fカフェ&ダイニング「the Canteen」でランチメニュー100円引、ディナータイム2,000円以上利用時10％OFFでご提供！

営業時間 ランチ11:30～16:00　ディナー17:00～22:00(L.O.21:30)
平日10時～22時 土曜10時～18時 日休［☎03-5530-0261］

交通手段 ゆりかもめ［テレコムセンター］駅徒歩5分
ゆりかもめ［船の科学館］駅徒歩5分




⑧ 青海フロンティアビル カフェテリア 「グリーンズシェフ」おかわりサービス！

ビジネス拠点青海フロンティアビル内にあって余裕の130席を誇るカフェテリア「グリーンズシェフ」。ランチタイム（11:30～14:00）に定食を注文すれば、ご飯と味噌汁を何杯でも自由におかわりできます！お腹一杯食べたい人はぜひお越しください。

営業時間 ランチ11:30～14:00のみ
土日定休

交通手段 ゆりかもめ［テレコムセンター］駅徒歩1分




⑨ テレコムセンタービル 日本夜景遺産展望台割引 ＆ 館内おトクな飲食割引サービス実施中！

カフェ・蕎麦・和食・中華に居酒屋など、豊富なバリエーションが自慢の館内7店でおトクな割引サービス実施中！詳細は各店入口でご確認ください。また日本夜景遺産の展望台も入場料100円引で！展望台内のレストラン&バーも割引

営業時間 ランチ11:00～15:00　ディナー17:00～22:00
※上記は目安です。店舗によって定休日・営業時間は異なります。

交通手段 ゆりかもめ［テレコムセンター］駅徒歩1分




⑩ ヴィーナスフォート「グルメクーポン」プレゼント&「スーパーカーミュージアム」開催!

17〜18世紀ヨーロッパの街並みを再現したテーマパーク型モール「ヴィーナスフォート」。2階インフォメーションで本誌を提示すればカフェ&レストランで使える「グルメクーポン」がもらえる!「サーキットの狼」のスーパーカーや名車も多数展示中!

営業時間 ショップ11:00〜21:00　レストラン11:00〜23:00(L.O.22:00)
※詳細は「グルメクーポン」をご覧ください。

交通手段 ゆりかもめ[青海]駅直結
りんかい線[東京テレポート]駅徒歩3分




⑪ MEGA WEB ヒストリーガレージ モデルカーショップ「グリース」で国産車10%OFF!

ヴィーナスフォート内ヒストリーガレージにあり都内最大級の売場面積・豊富な在庫数を持つモデルカーショップ「グリース」。本誌提示で国産車モデルを10%OFFで販売!そんなミニカーやヒストリックカーを眺めながらくつろげる「アレッサンドロ・ナニーニ・カフェ」や、小学生から気軽にカートを楽しめる「Fun カートライド」もぜひどうぞ!

営業時間 11:00〜21:00
※Fun カートライドは11:00〜17:00

交通手段 ゆりかもめ[青海]駅直結
りんかい線[東京テレポート]駅徒歩3分




⑫ パレットタウン大観覧車 乗車優待 & 東京レジャーランド ボウリング・カラオケ優待

●地上115m、海と東京を見渡すパノラマが広がる大観覧車の乗車料1名様(4歳以上)900円→700円に!(※シースルーゴンドラを除く ※4名まで可)●東京レジャーランドでは①ボウリング 一般料金から1ゲームあたり100円引の会員価格でご提供(※貸靴代別途¥300 ※4名まで可)②カラオケ室料20%OFFで!(※飲食代別1ドリンクオーダー制)

営業時間 ●大観覧車:10時〜22時 金土祝前日〜23時(※荒天時運休)●東京レジャーランド:ボウリング24h/カラオケ13時〜翌朝6時(最終受付5時)/3階ゲームコーナー10時〜23時50分

交通手段 ゆりかもめ[青海]駅直結
りんかい線[東京テレポート]駅徒歩3分

●お得MAPの使い方

この「TOKYO MOTOR SHOW NEWS」をお店に提示するだけです。当日号に限らず、東京モーターショー開催期間中(〜12月11日)ならどの号を提示しても大丈夫!「今日はちょっと時間が…」という方も、後日また来ちゃえばお得サービスが受けられます。もちろん1日使って何ヵ所も巡ってお得に過ごす…なんていうのも大歓迎です。

⑬ パナソニックセンター東京 2階カフェ「E-FEEL」ソフトドリンク1杯無料プレゼント

パナソニックの最新技術や商品を触って体験。「もっと理数を楽しもう!」がコンセプトの体感型ミュージアム「リスーピア」で理科と数学をテーマにした不思議体験を!土日は「エコアイデアハウス」でCO2±0のおうち丸ごと体験ガイドツアーも開催中! ※ソフトドリンクは指定のドリンクからお選びください。

営業時間 10:00〜18:00(リスーピア最終入場17:00迄)
月曜休館

交通手段 ゆりかもめ[国際展示場正門]駅徒歩5分
りんかい線[国際展示場]駅徒歩2分




⑭ ホテルサンルート有明 2階「創菜 パティオ」ディナータイム1ドリンクサービス!

『カラダにやさしい』をテーマに、和の味わいと洋の華を巧みに組み合わせた多彩なメニューが自慢の「創菜 パティオ」。自社製横浜産オリジナル手作り地ビールとのハーモニーもぜひ一緒にお楽しみください。※1ドリンクサービスはディナータイムのみ

営業時間 モーニング 6:30〜10:30(入場〜10:00)／ランチ 11:30〜14:30(入場〜14:00)／ディナー 17:00〜23:00(日曜22:00)

交通手段 ゆりかもめ[国際展示場正門]駅徒歩3分
りんかい線[国際展示場]駅徒歩3分




⑮ TFTビル(ワンザ有明ベイモール) 1ドリンクサービス&10%OFF!

17時以降1ドリンクサービス●「チャオ」ソフトドリンク●「ふかどん」中生ビールかソフトドリンク●「翠苑」生ビール●「akitsu(あきつ)」日本酒ハイボールかウィスキーハイボール●「鮨忠」「雷ウサギ」「はおづきや」グラス生ビールかサワーまたはウーロン茶●「創菜のもくお」中生ビールかサワーまたはウーロン茶●「築地食堂源ちゃん」グラス生ビール★「竹蘭輔工房」(17:00〜)と「ブロント」(17:30〜)では1人様3,150円以上ご飲食時10%OFF!

営業時間 ランチ　11:00〜15:00／ディナー　17:00〜23:00
※各店により異なります。

交通手段 ゆりかもめ[国際展示場正門]駅徒歩1分
りんかい線[国際展示場]駅徒歩5分




⑯ 有明フロンティアビル 館内レストラン・カフェお得割引中!

●居酒屋「チムニー」10名様以上の宴会コースで幹事様1名分料理代無料●中華「春華秋實」ランチ10%Off/アラカルト10%Off/ディナー宴会コース10名様以上で幹事1名分無料●和食「旬遊亭」ディナータイムお会計時10%OFF!詳しくは館内各店入口でご確認ください!

営業時間 ●「チムニー」月〜金11時30分〜23時、土日16時〜23時●「カフェベローチェ」7時30分〜21時●「春華秋實」11時〜15時/17時〜22時●「旬遊亭」11時30分〜14時/17時〜22時30分 休休

交通手段 ゆりかもめ[国際展示場正門]駅直結
りんかい線[国際展示場]駅徒歩3分




⑰ 有明パークビル 17:00以降グラスビール1ドリンクサービス!

「中村孝明ARIAKE」「トラットリア アルボルト」「ビストロカフェ ラ・ロシェル」「カフェダイニング グラスドメール」「和食ダイニング・そば 田久井」「炭火串焼まはらに」「中華家庭料理 楽苑」「シーフードレストラン メヒコ」の各店にて17時以降サービスします! ※他クーポン併用不可

営業時間 ランチ 11:00〜15:00／ディナー 17:00〜23:00
※各店により異なります。

交通手段 ゆりかもめ[国際展示場正門]駅徒歩2分
りんかい線[国際展示場]駅徒歩2分




⑱ 東京ベイ有明ワシントンホテル 高層階レストラン2店が飲食10%OFF!

旬を生かした和食を楽しめる21階「三十三間堂」と、ニューヨークスタイルで中国料理を楽しむ20階「チャイナグリル マダムシェンロン」。東京湾の摩天楼を一望できる眺望が自慢の2店でどちらも会計時10%OFFに!

営業時間 ●三十三間堂 ランチ11時30分〜(L.O.14時00分) ディナー17時〜22時30分(L.O.22時)●マダムシェンロン 11時30分〜22時(L.O.21時30分)

交通手段 ゆりかもめ[国際展示場正門]駅徒歩2分
りんかい線[国際展示場]駅徒歩2分

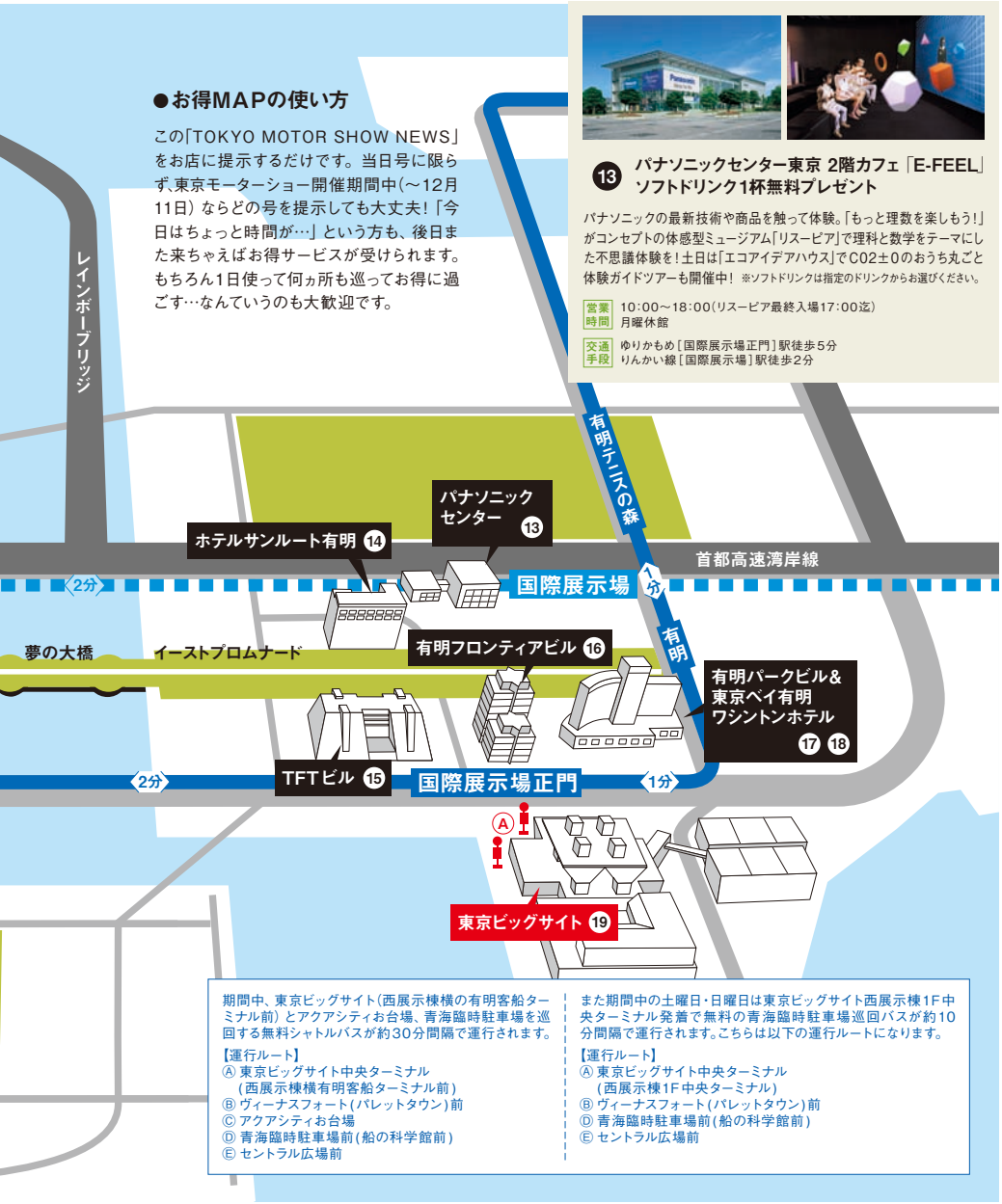



⑲ 東京ビッグサイト「リストランテ・トレヴィ」15時以降ご来店で1ドリンクサービス!

会議棟8階にある「リストランテ・トレヴィ」では、東京モーターショー開催期間中、15時以降「クリスマス・ナイト・フェア」を開催。お得MAPのご提示で1ドリンク(オレンジジュース、ウーロン茶、コーヒー、グラスワインのいずれかになります)をサービス致します。※他クーポンとの併用不可。

営業時間 11:00〜21:30 ※12月4日(日)、11日(日)は20時まで。L.O.は30分前。
※12月8日(木)は15:00までのランチ営業のみ [☎03-5530-1221]

交通手段 東京ビッグサイト内会議棟8階
(2階エレベーターからお上がり下さい)



期間中、東京ビッグサイト(西展示棟横の有明客船ターミナル前)とアクアシティお台場、青海臨時駐車場を巡回する無料シャトルバスが約30分間隔で運行されます。

【運行ルート】
Ⓐ 東京ビッグサイト中央ターミナル
(西展示棟横有明客船ターミナル前)
Ⓑ ヴィーナスフォート(パレットタウン)前
Ⓒ アクアシティお台場
Ⓓ 青海臨時駐車場前(船の科学館前)
Ⓔ セントラル広場前

また期間中の土曜日・日曜日は東京ビッグサイト西展示棟1F中央ターミナル発着で無料の青海臨時駐車場巡回バスが約10分間隔で運行されます。こちらは以下の運行ルートになります。

【運行ルート】
Ⓐ 東京ビッグサイト中央ターミナル
(西展示棟1F中央ターミナル)
Ⓑ ヴィーナスフォート(パレットタウン)前
Ⓓ 青海臨時駐車場前(船の科学館前)
Ⓔ セントラル広場前

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

東京ビッグサイト 会場案内図



レストラン・カフェ *Restaurant & Cafe*

営業日時が変更になる場合がありますのでご了承ください。

1. カフェレストラン・ニュー・トーキヨー *Cafe Restaurant NEW TOKYO*
2. タリーズコーヒー *Tully's Coffee*
3. カフェテラスロイヤル *CAFÉ TERRACE ROYAL*
4. プロント *PRONTO*
5. カフェテリア マーメイド *Cafeteria Mermaid*
6. ザ・ビッグラウンジ *THE BIG LOUNGE*
7. らぁめん 大景 *Ramen Noodle Restaurant Daikei*
8. 坊 其の六 *BO*
9. 日比谷マツモトロー *HIBIYA Matsumoto*
10. 天丼や トップライト *Tendonya Top Light*
11. カフェテリア ヴォワール *Cafeteria Voir*
12. ロイヤルキャフェテリア *ROYAL CAFETERIA*
13. カフェ カレー王国 *UNITED KINGDOM OF CURRY*
14. 香港飲茶楼 ル・パルク *HONGKONG EXPRESS Le PARC*
15. リストランテ トレヴィ *RISTORANTE TREVI*

ショップ・サービス施設 *Shops & Service Facilities*

営業日時が変更になる場合がありますのでご了承ください。

17. FamilyMart イベントプラザ店 *FamilyMart /Convenience Store*
18. FamilyMart エントランス店 *FamilyMart /Convenience Store*
19. FamilyMart ガレリア店 *FamilyMart /Convenience Store*
20. ATM｜ゆうちょ銀行、セブン銀行、みずほ銀行、東京スター銀行
ATM / Yucho , Seven Bank , Mizuho Bank , Tokyo Star Bank
21. ビジネスセンター｜パソコン インターネット コピー 外貨交換等
Business Center /
Wide range of documentation tasks including copying,printing and PC operations, etc.
Foreign Currency Exchenge : Conversion of US Dollars and Euro into Japanese Yen.
Please note that traveler's checks are not accepted.
22. サービスコーナー｜大型荷物一時預かり等
SERVICES CORNER / Custody of Large Baggage.
23. クロークルーム *Cloakroom*

第42回東京モーターショー必見のイベント&ブースはコレだ！

□ ワールド フード カップ

ワニの肉だって食べられるかも!?

フジテレビ朝の情報番組「めざましテレビ」が応援する世界の〝食〟の祭典『WORLD FOOD CUP』。世界中からおいしいグルメが大集結！みなさんの投票でNo.1の国を決定します。今大会は世界を北米、中南米、アフリカ、オセアニア、ヨーロッパ、アジア、東南アジアそして日本の8つの地域に分類し、地域を代表する8カ国を選定、会場内には8カ国を代表するスペシャルキッチンカーが出場しています。料理購入の際に配布したシールを「おいしい」と思った料理の国に投票できる。今まで食べたことのない絶品メニューや自慢のソウルフードなど、世界の〝絶品グルメ〟をどうぞお楽しみ下さい！

□ 東京モーターショーファッションショップ

収益金額を東日本大震災支援のために寄付!



クルマとファッションで日本を元気にすることをテーマに、東京モーターショーと国産自動車メーカー14社、ユナイテッドアローズ社がコラボレート。西3ホールに出展してチャリティTシャツを限定販売、収益金額を東日本大震災支援のために寄付します。そのほか廃材を使用したリサイクルファッショングッズなど、クルマのある生活や旅先で贅沢な気分で過ごすためのオリジナルアイテムも用意されるので要チェック！ ステージでもトークショーを実施します！

□ ステージイベント

クルマは楽しい！ ステージも楽しい！

今回の東京モーターショーの目玉とも言えるのが西展示棟アトリウム内に設置されたステージイベント。開催初日12月3日、国産自動車メーカー5社トップによるトークセッションにはテリー伊藤氏も参加。フジテレビのアナウンサーによる「アナ★バン」公開収録やF1パイロット小林可夢偉のトークショー、TOKYO FM「シンクロノシティ」の公開生放送などを実施。また2011-2012日本カー・オブ・ザ・イヤー開票表彰式、ユナイテッドアローズ社プロデュースのトークショーおよびミニファッションショーの実施や大抽選会、リクルートの就職サイト「リクナビ」編集長等のトークイベント、人気DJピストン西沢による「みんなのモーターショー」トークイベントやインターネット学生放送団体「CLIPS」によるステージイベントなどが毎日盛りだくさんです。ステージを見ないと、もったいないですよ！

インフォメーション *INFORMATION*
待ち合わせコーナー *Meeting Point*
エレベーター *Elevator*
エスカレーター *Escalator*
化粧室 *Restroom*
身障者用施設 *Accessible Facility*
乳幼児用施設 *Nursery*
授乳室 *Nursing Room*
コインロッカー *Coin Lockers*
喫煙場所 *Smoking Area*
救護室 *First Aid*
AED 自動体外式除細動機
AED / Automated External Defibrillator
レストラン・カフェ・休憩ゾーン
Restaurant & Cafe, Rest Zone
ショップ・サービス施設
Shops & Service Facilities

プロの運転による乗用車同乗試乗会
12月2日(金)～6日(火)
二輪車試乗会
12月8日(木)～11日(日)
電動アシスト自転車試乗会
12月8日(木)～11日(日)

ワールド フード カップ
キッチンカー
10:00～16:30
世界中から
おいしいグルメが大集結!

西展示棟
西3ホール 4F
西4ホール 4F
屋外展示場
会議棟
15 会議棟 8F
屋上展示場

パーソナルビークル試乗会
12月2日(金)～11日(日)

自動運転デモンストレーション
12月2日(金)～6日(火)
次世代自動車同乗試乗会
12月7日(水)～11日(日)
次世代二輪車試乗会
12月7日(水)～11日(日)

休憩ゾーン
キッチンカー 10:00～16:00
・日本料理 ・ハワイ料理
・インド料理 ・トルコ料理

21 20 3 2 17 1
中央ゲート(2F)
西1階ゲート(1F)
会議棟 1F

西展示棟 1F
西1ホール
西2ホール

アトリウム
・ステージイベント
・スポンサーブース
・新聞・雑誌コーナー
・オフィシャルグッズ

青海臨時駐車場行き
巡回バスのりば
水上バス
有明客船ターミナルへ
青海臨時駐車場行き
無料シャトルバスのりば
ゆりかもめ
国際展示場正門駅へ

□ オフィシャルグッズ & 出展者プレミアムグッズ
会場で購入できなかった時はWebでGet!?



東京モーターショーのロゴマークをあしらったキーホルダーやマグカップ、ハンドタオル等の記念品のほか、出展者ブランドのプレミアムグッズ(東4ホールのみ)も購入できます。体験販売コーナーでは記念メダルの制作も体験可能。もし買いそびれてしまった場合でも、一部グッズに限り会期終了後から期間限定で東京モーターショーオフィシャルWebサイトで手に入る。

オフィシャルモバイルサイト

□ トミカコーナー
「トミカ組み立て工場」で自分だけの1台を!



第35回ショー出展以来、子供たちから絶大な人気を誇るタカラトミー協賛によるTMS記念トミカの展示販売。選んだパーツで組み立ててもらえるトミカ組み立て工場も。

□ グランツーリスモブース
往年の名車旧車から最新型車まで楽しめる!



アトリウムに設置された"PlayStation®"/「グランツーリスモ」ブース。専用ソフトウエア「グランツーリスモ5」を存分に堪能してください。

□ ソープボックスダービー
モックカーの工作は当日先着順に受け付けです!



NPO法人ソープボックスダービーの協力で開催される木製モックカーによるタイム競技。親子で参加できるファミリーイベントです。西3ホールで対象は保護者同伴の小学生です。

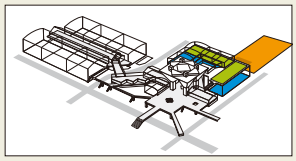
□ 東京モーターショーガイド2011
まずはコレを買わなくては!



さすがオフィシャルガイドは情報量が豊富。出展車両紹介はもとより、カロッツェリア情報やカーグッズ、クルマのアプリ情報なども充実。日刊自動車新聞社発行 500円(税込み)です。

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

西展示棟出展ブース 一覧



※地図上、赤文字でページ数を表記しているメーカーは本誌内に取材記事があります。

屋外展示場

プロの運転による乗用車同乗試乗会
12月2日(金)～6日(火)

二輪車試乗会
12月8日(木)～11日(日)

電動アシスト自転車試乗会
12月8日(木)～11日(日)

ワールド フード カップ

西展示棟 1F

西1ホール

西2ホール

BMW [P53~]
MINI
シトロエン Citroën
プジョー Peugeot
ジャガー Jaguar
ランドローバー Land Rover
レンジローバー Range Rover
レクサス Lexus
トヨタ Toyota [P20~]
ダイハツ Daihatsu
アルピナ Alpina
アトリウム
環境省 the Ministry of the Environment
カーズ Cars
㈱エフエム東京 TOKYO FM Broadcasting Co., Ltd.
㈱ETスクウェア ET Square Inc.
㈱フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
"PlayStation®"/「グランツーリスモ」ブース "PlayStation®"/Gran Turismo Booth
日本たばこ産業㈱ Japan Tobacco Inc.
献血コーナー

W1001 W1002 W1003 W1004 W1005 W1006 W1007 W1008 W1009 W1010 W1011 W1012 W1101 W1102 W1103 W1104 W1105 W1106 W1107 W1108 W1109 W1201 W1202 W1203 W1204 W1301 W1302 W1303 W1401 W1501 W1502 W2001 W2002 CZ10 NM01 NM02 NM03 NM04 NM05 NM06 NM07 NM08 NM09 NM10 NM11 NM12

□走行関係部品 Drive train Related Parts

- W1004 富士機工㈱ Fuji Kiko Co., Ltd.
- W1005 ㈱ヨロズ Yorozu Corp.
- W1006 Öhlins Racing AB
  Militec Corp.
- W1007 ㈱エクセディ Exedy Corp.
- W1008 光生アルミニューム工業㈱ Kosei Aluminum Co., Ltd.
- W1011 日信工業㈱ Nissin Kogyo Co., Ltd.
- W1101 GMB㈱ GMB Corp.
- W1102 ナブテスコ オートモーティブ㈱ Nabtesco Automotive Corp.
- W1107 ㈱松井製作所 Matsui Universal Joint Corp.
- W1108 Hirschvogel Holding GmbH
- W1109 協和工業㈱ Kyowa Kogyo Co., Ltd.
- W1201 ジヤトコ㈱ Jatco Ltd.
- W1301 日本発条㈱ NHK Spring Co., Ltd.
- W1302 ㈱ジェイテクト JTEKT Corp.
- W1303 曙ブレーキ工業㈱ Akebono Brake Industry Co., Ltd.
- W1401 NTN㈱ NTN Corp. [P59~]
- W1501 アイシン精機㈱ Aisin Seiki Co., Ltd. [P55~]
  アイシン高丘㈱ Aisin Takaoka Co., Ltd
  アイシン化工㈱ Aisin Chemical Co., Ltd.
  アイシン・エィ・ダブリュ㈱ Aisin AW Co., Ltd.
  アイシン・エーアイ㈱ Aisin AI Co., Ltd.
  ㈱アドヴィックス Advics Co., Ltd.
- W1502 日本精工㈱ NSK Ltd.

□内装部品 Interior Parts

- W1202 LG Hausys Ltd.

□エンジン部品 Engine Parts

- W1001 ㈱リケン Riken Corp.
- W1104 日本ピストンリング㈱ Nippon Piston Ring Co., Ltd.
- W1105 ㈱ダイセル Daicel Corp.
- W1106 TPR㈱ TPR Co., Ltd
- W1203 富士精工㈱ Fuji Bellows Co., Ltd.
- W1204 ㈱アーレスティ Ahresty Corp.

□機械器具 Machinery and Tools

- W1003 スナップオン・ツールズ㈱ Snap-on Tools Japan K.K.
- W1009 ㈱ワイピーシステム YP System Co., Ltd.
- W1010 京都機械工具㈱ Kyoto Tool Co., Ltd.
- W1012 水戸工機㈱ Mito Tool Mfg. Co., Inc.
- W2001 ㈱東日製作所 Tohnichi Mfg. Co., Ltd.
- W2002 前田金属工業㈱ Maeda Metal Industries, Ltd.

□カロッツェリア Carrozzeria

- CZ10 AD Motors Co., Ltd.

□新聞雑誌コーナー Newspaper & Magazine Corner

- NM01 ㈱日刊自動車新聞社 Daily Automotive News
- NM02 ㈱二玄社 Nigensha Publishing Co., Ltd.
- NM03 ㈱内外出版社 Naigai Publishing Co., Ltd.
- NM04 ㈱カーアンドレジャーニュース Car and Leisure News Inc.
- NM05 ㈲三樹書房 Miki Press
- NM06 ㈱八重洲出版 Yaesu Publishing Co., Ltd.
- NM07 ㈱交通タイムス社 Kotsu Times Sha Co., Ltd.
- NM08 ㈱三栄書房 San-eishobo Publishing Co., Ltd.
  ㈱イデア i-dea Co., Ltd.
- NM09 ㈱ぽると出版 Porte Publishing Co.
- NM10 ㈱モーターマガジン社 Motor Magazine Ltd.
- NM11 ㈱フォーイン Fourin, Inc.
- NM12 ㈱交通毎日新聞社 Kotsumainichi Shimbunsha Corp.

□ SMART MOBILITY CITY 2011

SMC01 LPガス自動車普及促進協議会
Japan LPG Vehicle Promotion Association

SMC02 ㈱SIM-Drive *SIM-Drive Corp.*
慶應義塾大学 *Keio University*

SMC03 フォルクスワーゲンAG *VOLKSWAGEN AG* [P32~]

SMC04 旭硝子㈱ *Asahi Glass Co., Ltd.* [P42~]

SMC05 ㈱ecomo *ecomo Corp.*

SMC06 ㈱LIXIL *LIXIL Corp.* [P50~]

SMC07 本田技研工業㈱ *Honda Motor Co., Ltd.*

SMC08 愛知電機㈱ *Aichi Electric Co., Ltd.*

SMC09 ワイヤレス テクノロジー㈱ *Wireless Technologies, Inc.*

SMC10 ㈱プロスタッフ *Prostaff Co., Ltd.*

SMC11 電気自動車普及協議会
Association for the Promotion of Electric Vehicles

SMC12 ㈱東芝 *Toshiba Corp.*

SMC13 ㈱日立製作所 *Hitachi, Ltd.*
㈱日立アイイーシステム *Hitachi IE Systems Co., Ltd.*
日立オートモティブシステムズ㈱
Hitachi Automotive Systems, Ltd. [P40~]
日立コンシューマ・マーケティング㈱
Hitachi Consumer Marketing, Inc.

SMC14 インターネットITS協議会 *Internet ITS Consortium*

SMC15 特定非営利活動法人 ITS Japan *ITS Japan*
沖電気工業㈱ *Oki Electric Industry Co., Ltd.*
住友電気工業㈱ *Sumitomo Electric Industries, Ltd.*
㈱デンソー *Denso Corp.* [P54~]
日本電気㈱ *NEC Corp.*
三菱電機㈱ *Mitsubishi Electric Corp.* [P58~]
小島プレス工業㈱ *Kojima Press Industry Co., Ltd.*

SMC16 マツダ㈱ *Mazda Motor Corp.*

SMC17 経済産業省資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy

SMC18 ㈱エフエム東京 *TOKYO FM Broadcasting Co., Ltd.*

SMC19 日産自動車㈱ *Nissan Motor Co., Ltd.*

SMC20 ㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ *NTT DOCOMO, Inc.* [P48~]

SMC21 トヨタ自動車㈱ *Toyota Motor Corp.*

SMC22 東レ㈱ *Toray Industries, Inc.*

SMC23 国土交通省 *Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism*

SMC24 ゼネラルモーターズ・ジャパン㈱
General Motors Japan Ltd.

SMC25 常盤産業㈱ *Tokiwa Corp.*

西展示棟 4F



□ 電装・情報関連部品・自動車関連サービス
Electrical Parts, Information Related Parts, Automobile Related Services

W3001 ㈱リコー *Ricoh Co., Ltd.*

W3002 九都県市首脳会議 環境問題対策委員会 大気保全専門部会
9 Capital prefectures city Expert committee of the atmospheric preservation

W3003 ㈱アール・ダブリュー・シー *R.W.C Co., Ltd.*

W3004 *Whetron Electronics Co., Ltd.*

W3005 エーモン工業㈱ *Amon Industry Co., Ltd.*

W3006 高齢者にやさしい自動車開発推進知事連合
Governor's alliance for the development of senior-friendly automotives

W3007 ㈱ベーシス *Basis Co., Ltd.*

W3101 一般社団法人日本自動車連盟
Japan Automobile Federation

W3201 ㈶道路交通情報通信システムセンター
Vehicle Information and Communication System Center

W3202 国土交通省
Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism
㈱自動車事故対策機構
National Agency for Automotive Safety & Victim's Aid

W3301 国土交通省
Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism

W3302 ㈳全国自動車標板協議会
National Automobile License Plate Council

W3401 北九州市 *City of Kitakyushu*

W3402 ㈱ワーテックス *Watex Co., Ltd.*

□ カロッツェリア *Carrozzeria*

CZ01 ソーラーカーチーム プロミネンス *Team Prominence*

CZ03 NATS 日本自動車大学校 *Nihon Automobile College*

CZ04 ㈱D Art *D Art Co.*

CZ05 スマイルパーク㈱ *Smile Park Inc.*
サニーサイドガレージ *SunnySide Garage*

CZ06 ㈱高山自動車 *Takayama Cars Co., Ltd.*

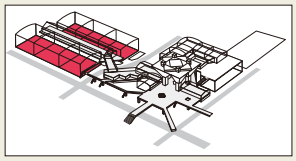
CZ07 興和テムザック㈱ *Kowa Tmsuk Co., Ltd.*

CZ08 レスク㈱ *Resc, Ltd.*

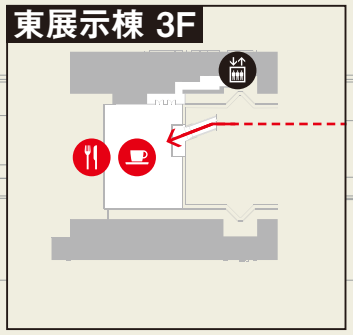
オフィシャルグッズショップ *Official Goods Shop*
自動車ガイドブック販売所 *Guide Book Stand*
インフォメーション *INFORMATION*
待ち合わせコーナー *Meeting Point*
エレベーター *Elevator*
エスカレーター *Escalator*
化粧室 *Restroom*
身障者用施設 *Accessible Facility*
乳幼児用施設 *Nursery*
コインロッカー *Coin Lockers*
喫煙場所 *Smoking Area*
救護室 *First Aid*
AED 自動体外式除細動機
AED / Automated External Defibrillator
レストラン・カフェ・休憩ゾーン
Restaurant & Cafe, Rest Zone

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

東展示棟出展ブース 一覧



※地図上、赤文字でページ数を表記しているメーカーは本誌内に取材記事があります。



□ **エンジン部品** *Engine Parts*

- E3201 *Robert Bosch GmbH*
  ボッシュ㈱ *Bosch Corp.* [P57~]
- E3202 *MAHLE GmbH*
  ㈱マーレ フィルターシステムズ *MAHLE Filter Systems Japan Corp.*
  マーレ エンジン コンポーネンツ ジャパン㈱ *MAHLE Engine Components Japan Corp.*
- E3203 *Schaeffler KG*
- E3204 *Continental AG*
  Continental Teves AG & Co. oHG
  Continental Automotive GmbH

□ **タイヤ・ホイール・情報関連部品** *Tire and Wheel / Information Related Parts*

- E2010 住友ゴム工業㈱ *Sumitomo Rubber Industries, Ltd.* [P46~]
- E2011 ビーウィズ㈱ *Bewith Enterprise Japan, Ltd.*
- E2012 ㈱レイズ *Rays Co., Ltd.*
- E2013 ㈱カナック企画 *Kanack Planning Corp.*
- E2101 日本グッドイヤー㈱ *Goodyear Japan Ltd.* [P56~]
- E2102 横浜ゴム㈱ *The Yokohama Rubber Co., Ltd.*
- E2103 ㈱ブリヂストン *Bridgestone Corp.* [P44~]
- E3015 ㈱ソニックデザイン *Sonic Design Co., Ltd.*

□ **団体** *Organization*

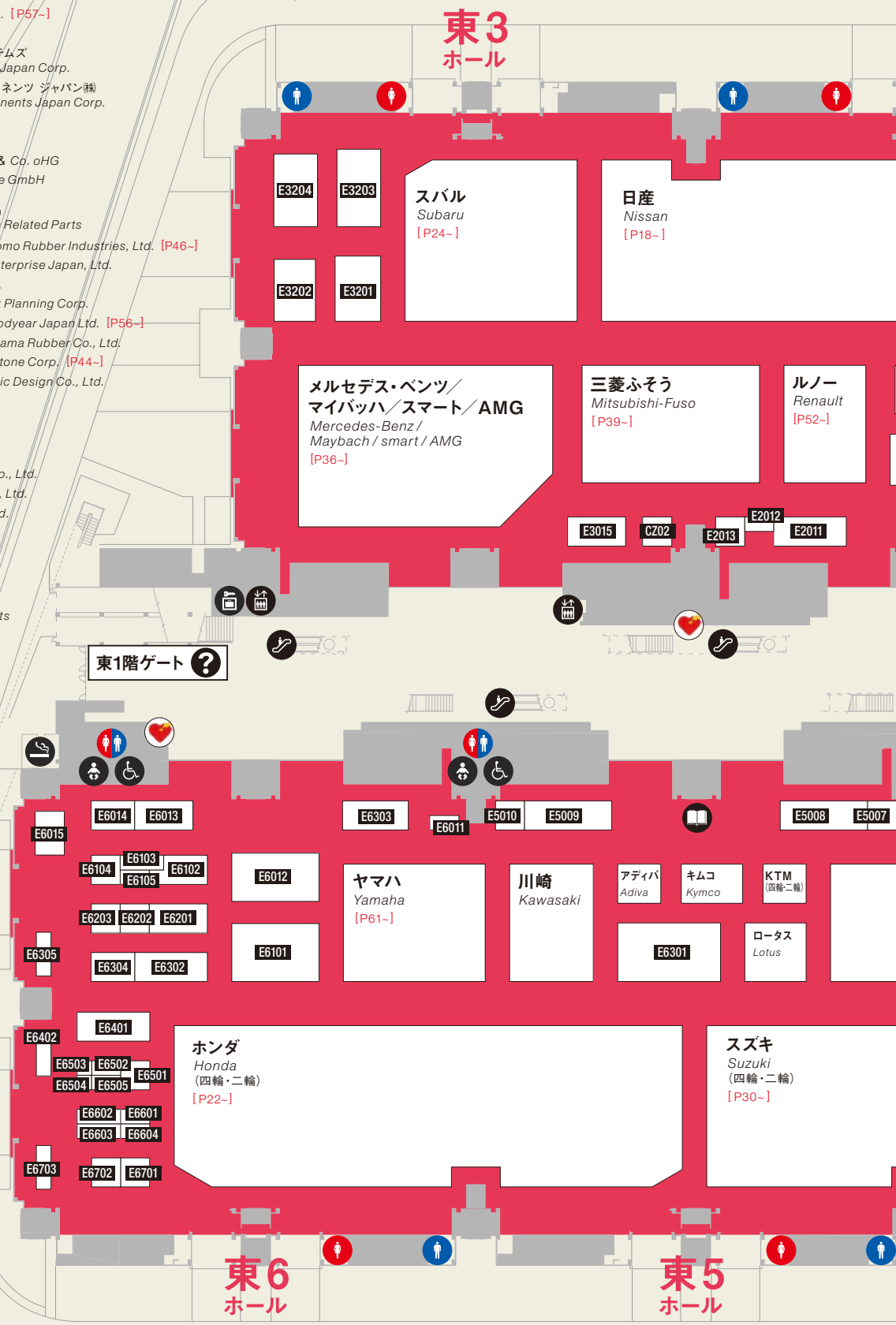
- E6015 ㈱アステア *Asteer Co., Ltd.*
  大野ゴム工業㈱ *Ohno Rubber Industrial Co., Ltd.*
  3D Auto Protech㈱ *3D Auto Protech Co., Ltd.*
  大東プレス工業㈱ *Daito Press Mfg. Co., Ltd.*
  丸子警報器㈱ *Maruko Keihoki Co., Ltd.*
  やまと興業㈱ *Yamato Industrial Co., Ltd.*
  ㈳日本自動車部品工業会 *Japan Auto Parts Industries Association*

□ **エンジン・電装部品** *Engine Parts / Electrical Parts*

- E6305 リョービ㈱ *Ryobi Ltd.*
- E6402 イワタボルト㈱ *Iwata Bolt Co., Ltd.*
- E6501 NOK㈱ *NOK Corp.*
- E6502 大同メタル工業㈱ *Daido Metal Co., Ltd.*
- E6503 ユアサエ機㈱ *Yuasa Co., Ltd.*
- E6504 ㈱クゼー *Kuzeh Corp.*
- E6505 日本モレックス㈱ *Molex Japan Co., Ltd.*
- E6601 日鍛バルブ㈱ *Nittan Valve Co., Ltd.*
- E6602 大豊工業㈱ *Taiho Kogyo Co., Ltd.*
- E6603 東京濾器㈱ *Tokyo Roki Co., Ltd.*
- E6604 三輪精機㈱ *Sanwa Seiki, Ltd.*
- E6701 ㈱ミクニ *Mikuni Corp.*
- E6702 *Scuderi Group, LLC*
- E6703 HKT㈱ *HKT Corp.*

□ **電装・計器・照明部品** *Electrical Parts*

- E5010 永井電子機器㈱ *Nagai Electronic Inst. Co., Ltd.*
- E6011 ㈱今仙電機製作所 *Imasen Electric Industrial Co., Ltd.*
- E6012 三菱電機㈱ *Mitsubishi Electric Corp.* [P58~]
- E6013 ㈱東海理化 *Tokai Rika Co., Ltd.*
- E6014 ㈱ミツバ *Mitsuba Corp.*
- E6101 日立オートモティブシステムズ㈱ *Hitachi Automotive Systems, Ltd.* [P40~]
  新神戸電機㈱ *Shin-Kobe Electric Machinery Co., Ltd.*
  日立化成工業㈱ *Hitachi Chemical Co., Ltd.*
  日立ビークルエナジー㈱ *Hitachi Vehicle Energy, Ltd.*
  クラリオン㈱ *Clarion Co., Ltd.*
  トキコテクノ㈱ *Tokico Technology Ltd.*
- E6102 スタンレー電気㈱ *Stanley Electric Co., Ltd.*
- E6103 ㈱ユーシン *U-Shin Ltd.*
- E6104 日立金属㈱ *Hitachi Metals, Ltd.*
- E6105 朝日電装㈱ *Asahi Denso Co., Ltd.*




東展示棟 2F
東2階ゲート
SHOP
西展示棟へ
東2 ホール
東1 ホール
マツダ Mazda [P28~]
いすゞ Isuzu [P38~]
日野 Hino [P38~]
車体部門 (屋外)
極東開発工業㈱ Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.
新明和工業㈱ ShinMaywa Industries, Ltd.
須河車体㈱ Sugawa Shatai Co., Ltd.
㈱タダノ Tadano Ltd.
日本トレクス㈱ Nippon Trex Co., Ltd.
日本フルハーフ㈱ Nippon Fruehauf Co., Ltd.
㈱パブコ Pabco Co., Ltd.
富士重工業㈱ Fuji Heavy Industries Ltd.
一般社団法人日本自動車車体工業会 Japan Auto-Body Industries Association, Inc.
E2103
E2101
E2102
トヨタ車体 Toyota Auto Body
関東自動車工業 Kanto Auto Works
日産車体 Nissan Shatai
ヒュンダイ Hyundai
E1008
E1009
ボルボトラックス Volvo Trucks
UDトラックス UD Trucks [P39~]
E2010
E1004
E1003
E1005
E1002
献血コーナー
□電装・車体・内装・エンジン部品 Electrical Parts / Body and Interior Parts / Engine Parts
E1002 Stahl Europe bv
E1003 Qingdao Kinglite Machinery Electron and Technology Co.,Ltd.
E1004 ㈱村上開明堂 Murakami Corp.
E1005 インファステック㈱ Infastech K.K.
E1008 河西工業㈱ Kasai Kogyo Co., Ltd.
E1009 日本ドナルドソン㈱ Nippon Donaldson, Ltd.
E4006
E4005
E4004
E4003
E4002
E4001
フォルクスワーゲン Volkswagen [P32~]
ポルシェ Porsche
CZ09
三菱 Mitsubishi [P26~]
アウディ Audi [P34~]
東4 ホール
□電装・計器・照明部品 Electrical Parts
E6201 ㈱豊田自動織機 Toyota Industries Corp.
E6202 オムロン オートモーティブエレクトロニクス㈱ Omron Automotive Electronics Co., Ltd.
E6203 住友電気工業㈱ Sumitomo Electric Industries, Ltd.
住友電装㈱ Sumitomo Wiring Systems, Ltd.
東海ゴム工業㈱ Tokai Rubber Industries, Ltd.
E6301 ㈱デンソー Denso Corp. [P54~]
アスモ㈱ Asmo Co., Ltd.
アンデン㈱ Anden Co., Ltd.
浜名湖電装㈱ Hamanako Denso Co., Ltd.
E6302 矢崎総業㈱ Yazaki Corp.
E6303 ㈱小糸製作所 Koito Mfg. Co., Ltd.
E6304 ㈱ケーヒン Keihin Corp.
E6401 日本特殊陶業㈱ NGK Spark Plug Co., Ltd.
□内装部品・用品 Interior Parts
E4001 イサム塗料㈱ Isamu Paint Co., Ltd.
E4002 ミドリホクヨー㈱ Midori Hokuyo Co., Ltd.
E4003 ㈱タチエス Tachi-S Co., Ltd.
E4004 デルタ工業㈱ Delta Kogyo Co., Ltd.
E4005 テイ・エス テック㈱ TS Tech Co., Ltd.
E4006 ㈱カーメイト Carmate Mfg. Co., Ltd.
E5007 ㈱データシステム Data System Co., Ltd.
E5008 トヨタ紡織㈱ Toyota Boshoku Corp.
E5009 豊田合成㈱ Toyoda Gosei Co., Ltd.
□カロッツェリア Carrozzeria
CZ02 カンパーニャモータース・ジャパン Campagna Motors Japan
CZ09 Radical Sportscars Ltd.
オフィシャルグッズショップ Official Goods Shop
自動車ガイドブック販売所 Guide Book Stand
インフォメーション INFORMATION
待ち合わせコーナー Meeting Point
エレベーター Elevator
エスカレーター Escalator
化粧室 Restroom
身障者用施設 Accessible Facility
乳幼児用施設 Nursery
授乳室 Nursing Room
コインロッカー Coin Lockers
喫煙場所 Smoking Area
救護室 First Aid
AED 自動体外式除細動機 AED / Automated External Defibrillator
レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe, Rest Zone
COPY FAX SHOP ショップ・サービス施設 Shops & Service Facilities
乳児・幼児サービスセンター Infant / Child Care Center



「止まる」がすごい。
ブリザック

BLIZZAK



株式会社ブリヂストン［ブリヂストンお客様相談室］フリーダイヤル0120-39-2936　受付時間：月～金（祝日・当社指定休日は除く）9:00～17:00　月に一度は、空気圧の点検を！

www.bridgestone.co.jp

きっと、未来のクルマが帰る家。

SEKISUI HOUSE

西3ホールでお待ちしております。

NKSJグループ

自動車保険は、「やっぱり」日本興亜。

あなたを全力で支える。 日本興亜損保

日本興亜損保は第42回東京モーターショー2011を応援しています。

PS3 PlayStation 3

GRAN TURISMO®
THE REAL DRIVING SIMULATOR

西展示棟 アトリウムにて
PS3®で「グランツーリスモ 5」が体験できます。
PlayStation 3

"PlayStation" and "PS3" are registered trademarks of Sony Computer Entertainment Inc.
©2010 Sony Computer Entertainment Inc. Manufacturers, cars, names, brands and associated imagery featured in this game in some cases include trademarks and/or copyrighted materials of their respective owners. All rights reserved.
Any depiction or recreation of real world locations, entities, businesses, or organizations is not intended to be or imply any sponsorship or endorsement of this game by such party or parties.

ET² × SCRAP

musicChef × 謎解き スパイゲーム

迷宮 モーターショー

西展示棟 アトリウム内

さぁET²ブースへ急げ!!

12.3 sat > 12.11 sun

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

※ このイベントは、実際にあなたがスパイとなって、謎を解くゲームイベントです。

トミカ

TAKARA TOMY

毎月わくわく! 第3土曜日はトミカの日



〈出展内容〉
・東京モーターショー開催記念トミカ販売　・トミカ組み立て工場
・カーズトミカ、トランスフォーマー商品先行発売 等

□ オフィシャルエアライン

Lufthansa
ルフトハンザ ドイツ航空

□ プレスセンター協力

NEC　brother　Nikon　Canon

NEC　ブラザー　Nikon　Canon

「環境」「安全」「情報」技術で、

グローバルに未来のクルマの駆動力となる

日立オートモティブシステムズ。



Driving Force

for Global Automobiles

私たち、日立オートモティブシステムズは、クルマの可能性を追求し、社会の課題の解決と新たな価値の創造をめざしています。
環境分野では「エンジンマネジメントシステム」と「エレクトリックパワートレインシステム」、安全分野では「走行制御システム」、
情報分野では「車載情報システム」という3分野4システム事業に注力し、グローバルに展開する未来のクルマの駆動力となります。

日立オートモティブシステムズ株式会社　http://www.hitachi-automotive.co.jp

HITACHI
Inspire the Next

SUBARU
Confidence in Motion

「SUBARU BOXER」にしか、
創れない走りを。



SUBARU
BRZ
Proud of BOXER

この驚きを、SUBARUブースで。

SUBARUは、2012年 SUPER GT（GT300クラス）にBRZで参戦を予定しています。

SUBARUお客様センター　SUBARUコール 0120-052215 受付時間9:00～17:00（平日）、9:00～12:00・13:00～17:00（土日祝）※平日の12:00～13:00および土日祝はインフォメーションサービスのみとなります。　www.subaru.jp　携帯電話からもアクセス http://m.subaru.jp/